元総社蒼海遺跡群

元総社小見Ⅱ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域は古代より豊かな文化があふれる地であり、東日本でも際だった内容を示しています。今から約２万８千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの等多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代から人々の生活の跡が市内ほぼ全域にわたり残されています。古代の人々が暮らした家の跡や使用した石器や土器などの道具、水田跡なども多く、周辺の埋蔵文化財発掘調査によって多くの新しい知見が集積されています。

平成15年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

例　言

1．本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市元総社町地内に所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となり、前橋市教育委員会の指導のもと、山武考古学研究所が担当した。調査期間・面積・担当者は次の通りである。

調査面積　　1,917㎡

発掘・整理期間　　平成14年8月20日～平成15年３月７日

発掘・整理担当者　土生朗治・松川由之（山武考古学研究所）

4．本書の執筆分担は次の通りである。

第Ⅰ章　齊木一敏（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）　第Ⅱ章　松川由之（山武考古学研究所）

第Ⅲ～Ⅵ章　土生朗治（同研究所）

5．調査にかかわる遺物・図面・写真等の資料は、一括して前橋市教育委員会が保管している。

6．発掘調査参加者は次の通りである。

青木千賀子　天野晴治　飯沼泰子　石田利子　石原一茂　礒田二郎　礒田政男　宇津木明子　梅山　淳
大野京子　岡田光史　岡田うめ　小野沢昌子　金井道治　金井百合子　上和田慶治　栗原幸男
黒澤文男　小出拓磨　小林ちか子　小林　勝　近藤四郎　斉藤みつ子　酒井正通　桜井れい　桜井敬一
佐藤京子　佐藤之利夫　下田正衛　須田安雄　須田宗孝　須藤ユクエ　関谷智己　田村小百合
竹生正明　戸部孝一　富田信夫　中澤愛次郎　中島辰男　萩原真理子　服部　明　松田　実
馬渕恵美子　黛　準一　宮下哲之　森田俶弘　吉田三枝子　吉田善紀　六本木恭子　綿貫瑛一

凡　例

1．挿図中に記載した北は座標北を示す。

2．本遺跡の略称は14A107である。

3．各遺構の略称は次の通りである。

Y…弥生時代の住居跡　H…古墳・奈良・平安時代の住居跡　B…掘立柱建物跡　W…溝跡
I…井戸　D…土坑　A…道路状遺構

4．遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

遺構　住居跡・掘立柱建物跡・井戸・土坑墓…１／80　断面図…１／80・１／40　全体図…１／200
遺物　土器・瓦…１／４・１／６　鉄製品・紡錘車…１／２　臼玉…１／１

5．計測値については、（　）は現存値、〔　〕は復元値を表す。

6．遺物・遺構の挿図中に使用したスクリーントーン表示は以下の通りである、

陶器断面　施釉範囲　スス付着範囲　黒色処理
赤彩　破断面　粘土

7．本報告書では遺跡の性格を鑑み、古墳時代から古代にかけての遺構・遺物に比重をおいている。住居跡については遺構・遺物の検出状況が良好なものを中心に掲載した。

目　次

序
例言・凡例
第Ⅰ章　調査に至る経緯 ……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 ……1
第１節　遺跡の立地 ……1
第２節　歴史的環境 ……1
第Ⅲ章　調査の方法と経過 ……6
第１節　発掘調査の経過 ……6
第１項　調査方針 ……6
第２項　調査の経過 ……6
第２節　整理調査の経過 ……6
第Ⅳ章　基本層序 ……7
第Ⅴ章　検出された遺構と遺物 ……8
第１節　竪穴住居跡 ……8
第２節　掘立柱建物跡 ……16
第３節　竪穴状遺構 ……16
第４節　溝跡 ……16
第５節　道路状遺構 ……17
第６節　井戸跡 ……17
第７節　土坑 ……17
第８節　遺構外出土遺物 ……17
第Ⅵ章　まとめ ……17

表目次

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表 ……4
Tab. 2　竪穴住居跡（縄文）一覧表 ……20
Tab. 3　竪穴住居跡（古墳～平安）一覧表 ……20
Tab. 4　竪穴状遺構一覧表 ……21
Tab. 5　溝跡一覧表 ……21
Tab. 6　道路状遺構一覧表 ……21
Tab. 7　土坑一覧表 ……22
Tab. 8　遺物観察表 ……23

挿図目次

Fig. 1　元総社小見Ⅱ遺跡位置図 ……2
Fig. 2　地籍図 ……2
Fig. 3　遺跡周辺の地形図 ……5
Fig. 4　基本層序土層図 ……7
Fig. 5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向 ……18
Fig. 6　時期別の竪穴住居跡配置図 ……19
Fig. 7　元総社小見Ⅱ遺跡全体図 ……29
Fig. 8　Ｊ－１号住居跡 ……31

Fig. 9　Ｊ－２号住居跡 ……32
Fig.10　Ｈ－１～４号住居跡 ……33
Fig.11　Ｈ－５・７号住居跡 ……34
Fig.12　Ｈ－６・9・10・12号住居跡 ……35
Fig.13　Ｈ－11・13号住居跡 ……36
Fig.14　Ｈ－14～17号住居跡 ……37
Fig.15　Ｈ－18・19号住居跡 ……38
Fig.16　Ｈ－20・21・23・24・26号住居跡 ……39
Fig.17　Ｈ－28Ａ・28Ｂ・29号住居跡 ……40
Fig.18　Ｈ－30・31・33・35号住居跡 ……41
Fig.19　Ｈ－34・36・37・41・42号住居跡 ……42
Fig.20　Ｈ－40・43・45・56号住居跡 ……43
Fig.21　Ｈ－44・46・47号住居跡 ……44
Fig.22　Ｈ－48～52号住居跡 ……45
Fig.23　Ｈ－54・55・57～59号住居跡 ……46
Fig.24　Ｂ－１・２号掘立柱建物跡、Ｔ－１号竪穴状遺構 ……47
Fig.25　Ｗ－２号溝跡 ……48
Fig.26　Ｗ－３・５号溝跡 ……49
Fig.27　Ｗ－４号溝跡 ……50
Fig.28　Ａ－１号道路状遺構、Ｉ－１号井戸、Ｄ－４・６・７・９・23号土坑 ……51
Fig.29　Ｊ－１・２号住居跡、Ｈ－１～３号住居跡出土遺物 ……52
Fig.30　Ｈ－３号住居跡出土遺物 ……53
Fig.31　Ｈ－３・４号住居跡出土遺物 ……54
Fig.32　Ｈ－３・６～９・11・12号住居跡出土遺物 ……55
Fig.33　Ｈ－11・12・15・16号住居跡出土遺物 …56
Fig.34　Ｈ－16・18・19号住居跡出土遺物 ……57
Fig.35　Ｈ－19・21・23・24・26～28Ａ号住居跡出土遺物 ……58
Fig.36　Ｈ－28Ａ・28Ｂ・29号住居跡出土遺物 …59
Fig.37　Ｈ－31・32号住居跡出土遺物 ……60
Fig.38　Ｈ－31～35・37・39・40・42号住居跡出土遺物 ……61
Fig.39　Ｈ－42～45・47・48・50・51号住居跡出土遺物 ……62
Fig.40　Ｈ－52・55・56・58号住居跡、Ｄ－10・17号土坑、Ｗ－２号溝跡、遺構外出土遺物……63

写真図版目次

PL. 1
完掘全景
Ｊ－１号住居跡全景
Ｊ－１号住居跡炉全景
Ｊ－１号住居跡炉体土器出土状況
Ｊ－２号住居跡全景
PL. 2
Ｊ－２号住居跡炉
Ｈ－１号住居跡全景
Ｈ－２号住居跡全景
Ｈ－３号住居跡全景
Ｈ－４号住居跡全景
Ｈ－４号住居跡竈全景
Ｈ－５号住居跡全景
Ｈ－６号住居跡全景
PL. 3
Ｈ－７号住居跡全景
Ｈ－７号住居跡遺物出土状況
Ｈ－７号住居跡竈全景
Ｈ－９号住居跡全景
Ｈ－10号住居跡全景
Ｈ－11号住居跡全景
Ｈ－12号住居跡全景
Ｈ－13号住居跡全景
PL. 4
Ｈ－13号住居跡炭化材出土状況
Ｈ－14号住居跡全景
Ｈ－15号住居跡全景
Ｈ－16号住居跡全景
Ｈ－16号住居跡遺物出土状況

H－17号住居跡全景
H－18号住居跡遺物出土状況
H－18号住居跡全景
PL. 5
H－19号住居跡全景
H－20号住居跡全景
H－21号住居跡全景
H－23号住居跡竈全景
H－23号住居跡竈袖部断面
H－24号住居跡全景
H－28B号住居跡全景
H－28A号住居跡遺物出土状況近景
PL. 6
H－28A号住居跡遺物出土状況
H－29号住居跡全景
H－30号住居跡全景
H－30号住居跡竈全景
H－31号住居跡竈全景
H－32号住居跡全景
H－34号住居跡全景
H－36号住居跡全景
PL. 7
H－37号住居跡全景
H－38号住居跡全景
H－40号住居跡全景
H－41号住居跡遺物出土状況
H－42号住居跡遺物出土状況
H－43号住居跡全景
H－46号住居跡全景
H－48号住居跡全景
PL. 8
H－50号住居跡全景
H－51号住居跡遺物出土状況
H－52号住居跡全景
H－55号住居跡遺物出土状況
H－56号住居跡遺物出土状況
H－57号住居跡全景
H－58号住居跡全景
B－1号掘立柱建物跡
PL. 9
T－1号竪穴状遺構全景
A－1号道路状遺構全景
I－1号井戸全景
D－6号土坑
D－9号土坑
D－24号土坑
W－1号溝跡全景
W－2号溝跡硬化面確認状況
PL.10
W－3号溝跡全景
W－4号溝跡全景
W－4号溝跡硬化面確認状況
W－4号溝跡土層断面
北区全景
南区西部全景
南区西部全景
完掘全景
PL.11　出土遺物
PL.12　出土遺物
PL.13　出土遺物
PL.14　出土遺物
PL.15　出土遺物
PL.16　出土遺物
PL.17　出土遺物

第Ⅰ章　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施された。

平成14年５月８日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治（区画二課）より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）宛てに提出された。これを受け、市教委では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）に調査実施について通知をしたが、既に市内数カ所において調査団直営による発掘調査が実施されており、加えて本発掘調査を直営で行うことは困難と判断、本件に係る発掘調査は民間調査会社に委託し実施したい旨の回答を得た。これにより、調査依頼者と調査団との間で協議・調整を図り、民間調査会社による発掘調査を進める旨の協定書を締結、これを経てまず平成14年８月19日に調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。その後、同年８月20日付けで民間調査会社である山武考古学研究所　所長　平岡和夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で委託契約を締結し、現地調査開始に至る。

遺跡名称は『元総社小見Ⅱ遺跡』、遺跡略称は１４Ａ１０７である。なお、遺跡名称中の『小見』は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の『Ⅱ』は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するため付したものである。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の立地

前橋市は、地質及び地形から東北部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫原の４地域に分けられる。本遺跡の位置する前橋台地は、浅間山の山体崩壊が原因とされる前橋泥流により形成された洪積台地であり、河川の浸食や湿地化などを経て現在に至っている。台地の東側には広瀬川低地帯が幅３㎞の細長い沖積地として広がり、台地の中央には現利根川が北から南へ貫流している。

前橋台地の西には榛名山が聳え、その榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し相馬ヶ原扇状地を形作り、台地を刻んで細長い微高地を作り上げている。

元総社小見Ⅱ遺跡は、染谷川と牛池川に挟まれた北西から南東に延びる微高地上に立地し、群馬県庁から西へ約３㎞、関越自動車道前橋インターチェンジから北へ約２㎞の地点に位置しており、北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山を望むことが出来る。

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺は上野国府域として想定される地域であり、周辺で行われた発掘調査の成果からは縄文時代からの連綿とした生活の痕跡が発見されている。

縄文時代では国分寺中間地域遺跡や産業道路東・西遺跡があり、前期・中期の集落遺跡が調査されている。本遺跡から北東へおよそ300ｍのところに位置する小見遺跡（2001年発掘調査）では、諸磯ｂ式期・加曽利Ｅ４式期の住居跡が１軒ずつ検出されている。近隣の耕作地では土器や石器等が表採されていることから、

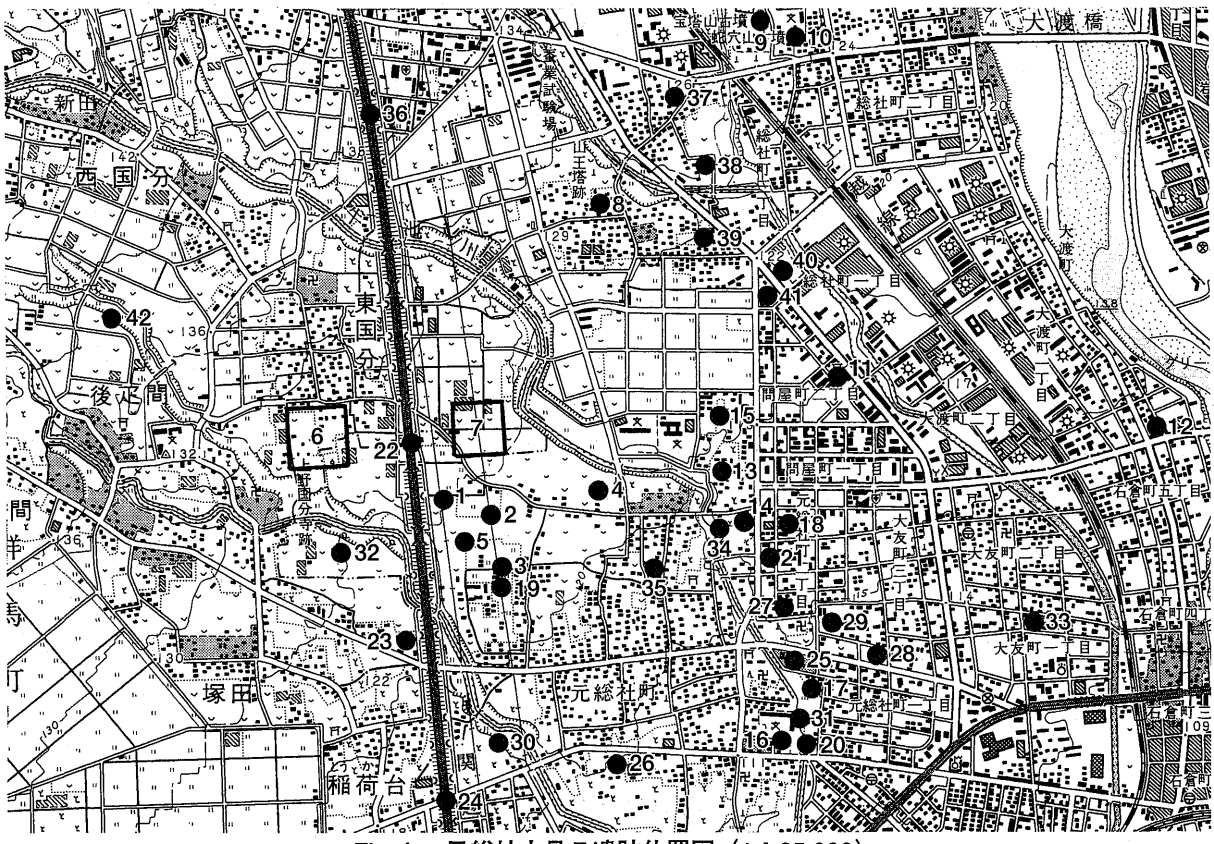


Fig. 1　元総社小見Ⅱ遺跡位置図（1：25,000）

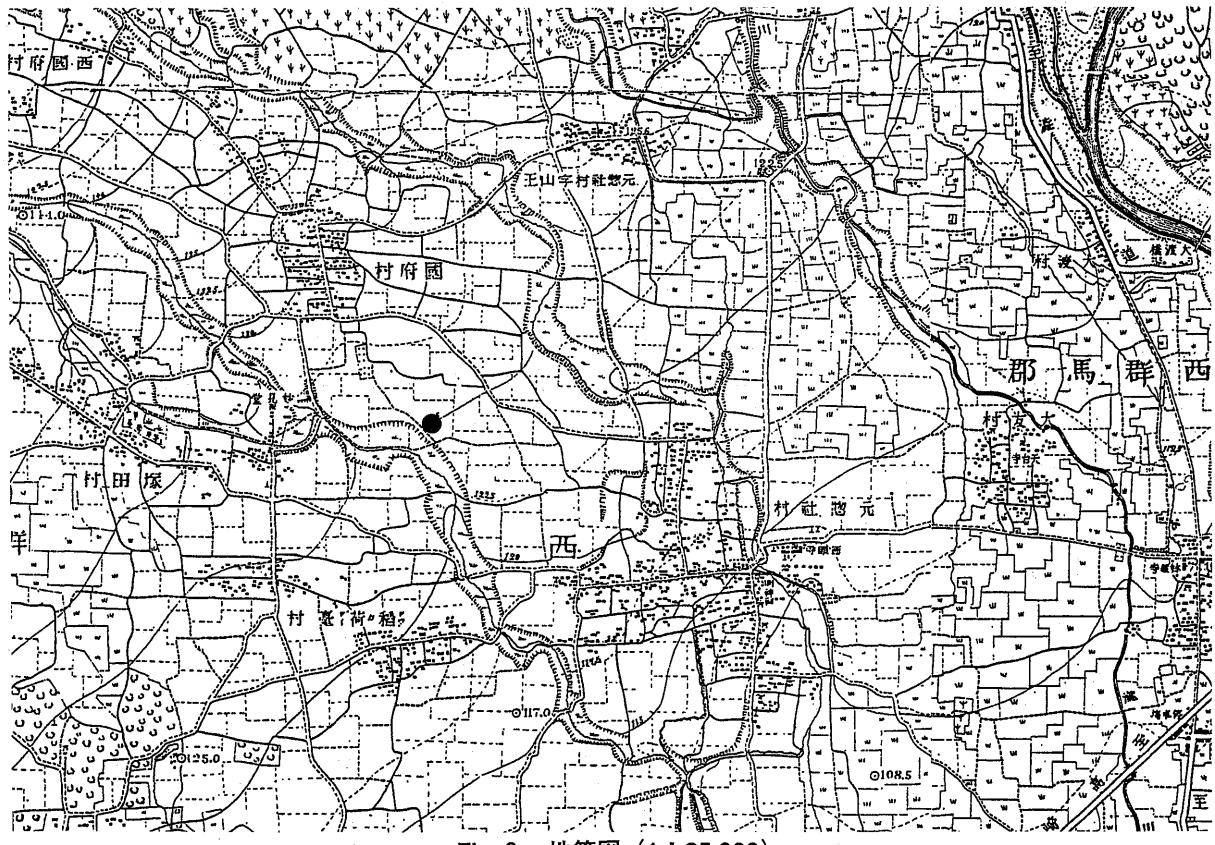


Fig. 2　地籍図（1：25,000）

今後の発掘成果に期待したい。

その他には下東西遺跡、清里南部遺跡群、清里・陣場遺跡、中島遺跡、長久保遺跡、熊野谷遺跡、北原遺跡、大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅴ、元総社稲場遺跡等も挙げられ、時期としては前期から後期に及んでいる。

弥生時代の遺跡としては、本遺跡からおよそ3㎞南に日高遺跡がある。10～15㎝の厚さに堆積した浅間C軽石層に覆われた後期の水田・集落・方形周溝墓・壺棺墓等が検出されており、水田に残された多数の足跡など当時の稲作の姿を留めている。また、これらの水田を残した人々の集落が近接する旧河川の微高地上で検出されており、住居跡は14件を数え、良好な資料を提供している。

その他には、中期後半の環濠集落である清里・庚申塚遺跡と後期の住居が検出された国分寺中間地域、桜ケ丘遺跡、下東西遺跡等が散見される程度である。

古墳時代においては本遺跡のある地域は「車」と呼ばれ、上毛地域における中心地域であった。本遺跡の西南西約3㎞には5世紀後半の三ツ寺Ⅰ遺跡があり、1辺90m四方の規模をもつ豪族の居館跡として知られている。またそこから北西へ1㎞行ったところには同時期の保渡田古墳群があり、八幡塚古墳（全長102m）・愛宕塚古墳（同92.4m）・薬師塚古墳（同68.4m）の前方後円墳3基が「コ」の字に並び、豪族との関連性が推定されている。

それに続くものとして北約2㎞の総社古墳群が挙げられる。この古墳群は横穴式石室が受容され始めたころから形成されたと考えられる。6世紀前半の川原石を用いた積石塚である王山古墳、それと相前後する遠見山遺跡、国指定史跡で前方部と後方部に石室を有する総社二子山古墳、巨石使用の横穴式石室をもつ愛宕山古墳、また県内最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた宝塔山古墳と蛇穴山古墳等、何れもこの地域に強大な権力の存在したことを示す古墳が多数所在する。

本遺跡の北北東1㎞には山王廃寺（放光寺）がある。出土した瓦等から7世紀の第4四半世紀ころの創建と見られ、官寺ではなく「上毛野君氏」による私寺であった可能性が高く、この地が「車評（くるまのこおり）」の中心地であったことを示している。

本遺跡の南東わずか数百メートルの、牛池川・染谷川に挟まれた現元総社町に国府域が想定されている。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の大型掘立柱建物跡1棟が見つかっており、閑泉樋遺跡・元総社明神遺跡・寺田遺跡で大規模な堀跡が相次いで発見され、国府の外郭の推定が可能になった。寺田遺跡からは33点の墨書土器が出土し、「国厨」・「国」・「□曹司」等の表記が見られ、国府を示す証左となっている。

国府は木簡の表記などから藤原京存続時に創建されたものと考えられる。和銅6年（713）「上毛野国」から「上野国」と改称され、弘仁2年（811）には国のランクが「上国」から「大国」に改められて親王任国に昇格している。この地域の重要性がより認識されるのではないだろうか。国府の外郭をなす堀は10世紀代には半ば埋まった状況にあり、管理が放棄されていた可能性がある。国府推定域は住宅も多く発掘調査もなかなか進まない状況であるが、今後の成果により明確にされるであろう。周辺遺跡には他に、閑泉樋南遺跡、小見遺跡、草作遺跡、大友屋敷遺跡、天神遺跡、染谷川遺跡、弥勒山遺跡がある。

国分僧寺と尼寺は本遺跡の北にあり、2寺の間を関越自動車道が縦貫している。本遺跡はちょうど国分2寺と国府域とに挟まれたところに位置している。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら発掘調査が進められるようになった。国分僧寺の発掘調査は昭和55年から始まり、礎石、築地、堀等が確認されている。その結果国分僧寺の最重要伽藍と位置づけられた七重塔の造営時期は8世紀中葉と考えられ、文献資料とも整合している。一方廃絶の時期は調査結果から12・13世紀代と考えられている。尼寺は県教委による簡単な範囲調査が行われ

たが、まだ本格的な調査は行われていない。

周辺の遺跡としては、中尾遺跡、鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡等があり、これらの遺跡からは奈良・平安時代の住居跡が多数検出されている。また、多くの遺跡から、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、硯、墨書土器等の出土がみられ、鳥羽遺跡からは神社跡と推定される特殊遺構も検出されている。

中世には1429年長尾氏により蒼海城が築かれる。蒼海城の縄張り自体も国府の地割を利用したものであることが確実視されており、また、現在の街路の祖形は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものである。

Tab.1　周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	縄　文	弥　生	古　墳	奈良・平安	中・近世
1	元総社小見Ⅱ遺跡（当該遺跡）	住居跡		住居跡	住居跡、掘立柱建物跡	溝跡
2	元総社小見Ⅲ遺跡	住居跡		住居跡	住居跡、土坑墓	溝跡
3	元総社草作Ⅴ遺跡			住居跡	住居跡	溝跡
4	元総社小見内Ⅲ遺跡		住居跡	住居跡	住居跡、道路状遺構	土坑墓等
5	元総社小見遺跡	住居跡		住居跡	住居跡	溝跡
6	上野国分寺跡				金堂基壇、塔基壇	
7	上野国分尼寺跡				南西隅・南東隅築垣	
8	山王廃寺遺跡			塔心礎、根巻石		
9	宝塔山古墳			方墳（７Ｃ末）		
10	蛇穴山古墳			方墳（８Ｃ初）		
11	稲荷山古墳			円墳		
12	王山古墳			前方後円墳（６Ｃ中）		
13	総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区					
14	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡					
15	総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡					
16	元総社小学校校庭遺跡				掘立建柱建物跡、柱穴群、周濠跡	
17	元総社明神遺跡　Ⅰ～ⅩⅢ			住居跡、水田跡、堀跡	住居跡、溝跡	住居跡、溝跡
18	閑泉樋遺跡				溝跡	
19	草作遺跡			住居跡	住居跡	井戸跡
20	寺田遺跡				溝跡	
21	閑泉樋南遺跡			住居跡	溝跡	
22	上野国分僧寺・尼寺中間遺跡	住居跡	住居跡	住居跡		掘立柱建物跡等
23	塚田村東遺跡				住居跡	
24	鳥羽遺跡			住居跡、鍛冶場跡	住居跡、掘立柱建物跡	
25	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡			住居跡	住居跡、溝跡、地下式土坑	
26	天神遺跡・Ⅱ遺跡				住居跡	
27	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	堀跡等
28	堰越遺跡				住居跡、溝跡	
29	堰越Ⅱ遺跡				住居跡	
30	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	
31	元総社寺田遺跡			水田跡、溝跡	住居跡、溝跡	
32	上野国分寺参道遺跡			住居跡	住居跡	
33	大友宅地添遺跡				水田跡	
34	総社閑泉明神北遺跡			畠跡、水田跡、溝跡		溝跡
35	元総社宅地遺跡 １～23トレンチ			住居跡	住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構	溝跡、住居跡
36	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡			住居跡	住居跡、畠跡（Ⅱ・Ⅲ遺跡）	土坑墓（Ⅱ・Ⅲ）
37	村東遺跡			住居跡、溝跡	住居跡	堀跡
38	大屋敷遺跡　Ⅰ～Ⅴ	住居跡		住居跡	住居跡	掘立柱建物跡等
39	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡				住居跡	
40	産業道路東遺跡	住居跡				
41	産業道路西遺跡	住居跡				
42	後疋間遺跡　Ⅰ～Ⅲ			住居跡	住居跡	

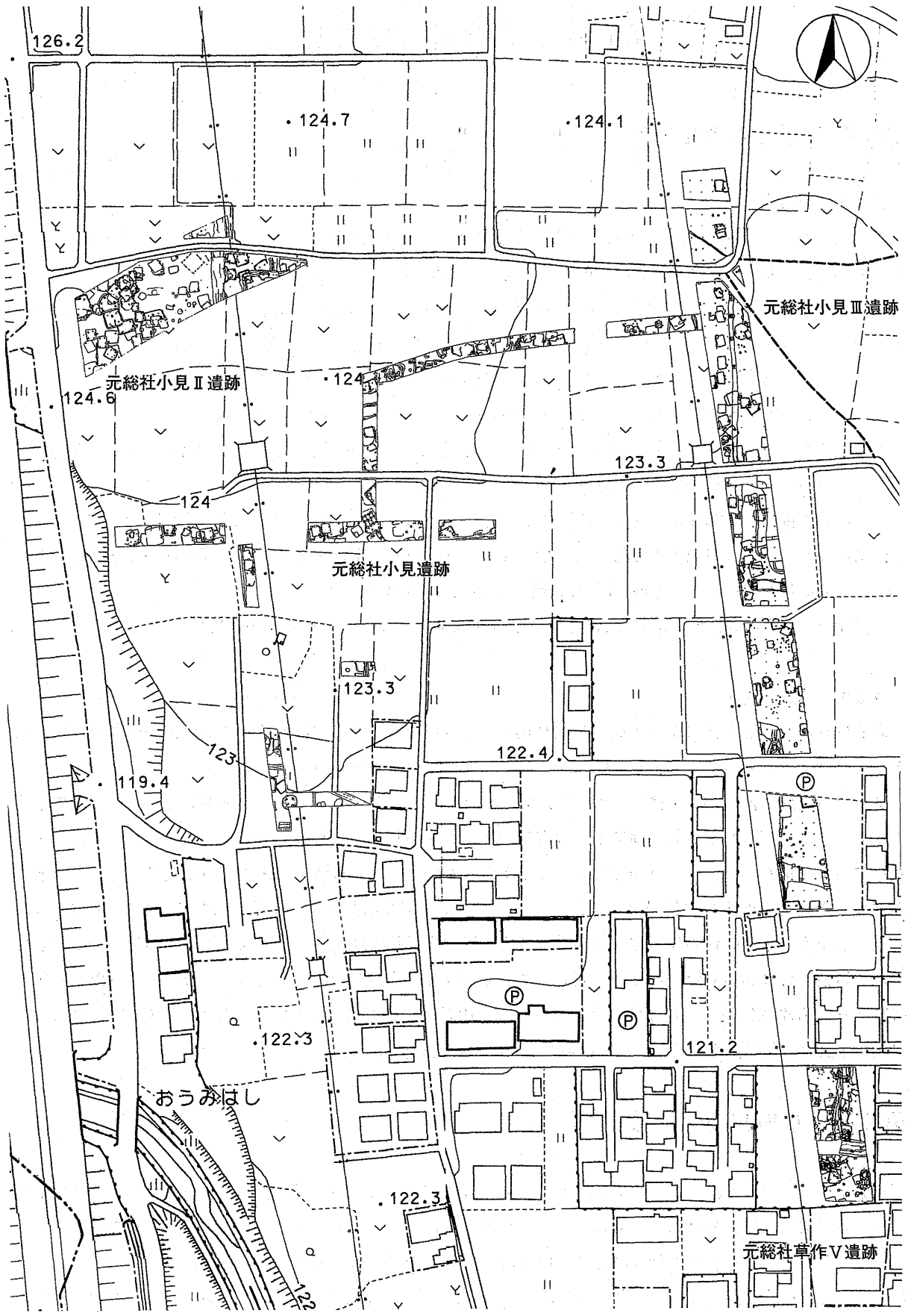


Fig. 3　遺跡周辺の地形図（1：2,500）

第Ⅲ章　調査の方法と経過

第１節　発掘調査の経過

第１項　調査方針

調査を実施した箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業地内における道路部分の調査で、南北幅約27m、東西方向の長さ約80mの東西方向に長い調査区となっている。

グリッドの設定は公共座標に基づいて行った。グリッドの起点（Ｘ０、Ｙ０）における公共座標は以下の通りである。なお、この起点は元総社蒼海遺跡群全体で共通するグリッドである。

世界測地系	第Ⅸ系	Ｘ＝＋44354.898m	Ｙ＝－72491.747m
（旧日本測地系	第Ⅸ系	Ｘ＝＋44000.000m	Ｙ＝－72200.000m）

グリッドは公共座標に基づいて４×４ｍの単位で設定し、南北方向をＹ軸として北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３…、東西方向をＸ軸として西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３…と付番した。

調査は表土掘削、遺構確認、測量基準杭打設、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は１／20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の形状等や性格に応じて、１／10、１／40縮尺を使用した。遺跡全測図は個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて随時行い、白黒35㎜判、カラーリバーサル35㎜判を使用した。

第２項　調査の経過

調査は平成14年８月20日から平成14年12月15日まで行った。８月下旬に現地にて調査区の確認を行い、発掘事務所用ボックスハウス、トイレ等を設置し、発掘器材の搬入を行った。

調査は調査区の西側から東側に向かって進めることとした。西端から表土除去を開始し、続いて遺構確認作業を行った。西側のやや高い地区からは古代の住居跡が多数検出され、縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代に至る遺構が高い密度で重複していることが明らかになった。東側調査区の遺構密度はやや少なく南北方向に走る溝跡等が古代の住居跡と重複して検出された。調査は西側から開始し東側に向かって進行した。西側では奈良・平安時代の住居跡の間に古墳時代の竪穴住居跡や縄文時代の竪穴住居跡・風倒木が重複していた。遺構の掘り込みも深かったが、調査によって順次各時代の遺構の姿が明らかになっていった。西側の溝跡からは道路状に硬化した路面の跡が確認され、中世の竪穴遺構に切られ、ほぼ南北方向に延びていた。平成14年12月中旬に調査を終了し、その後調査区の埋め戻しを行った。

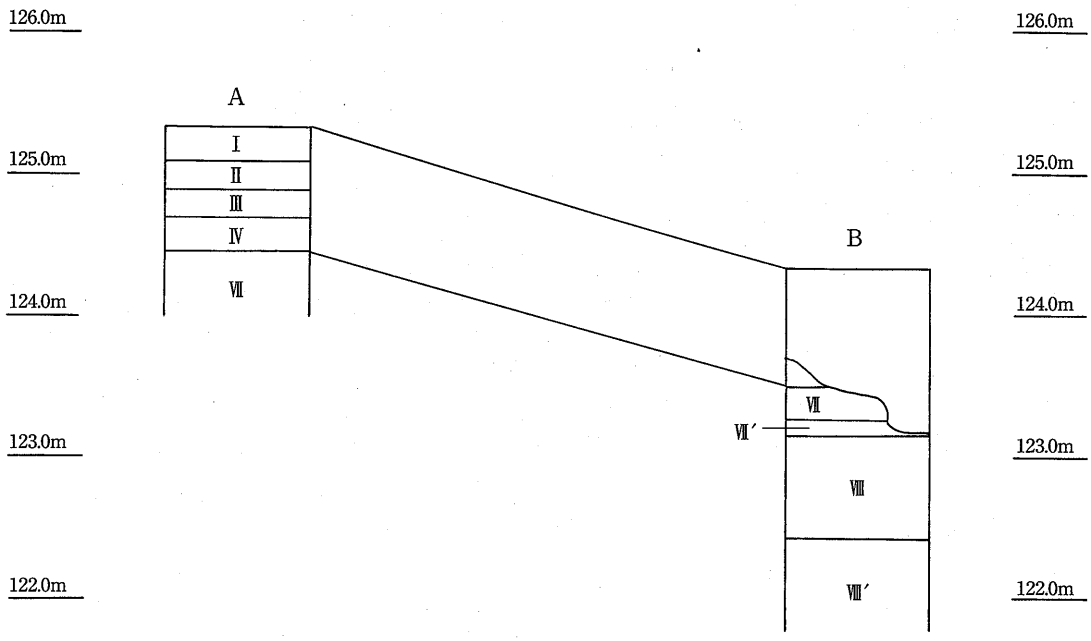
第２節　整理調査の経過

本遺跡の整理作業は、平成14年10月1日から平成15年２月28日まで行った。出土した遺物は全量水洗作業を行い、各遺構ごとに仕分けした。その後、コンピュータ制御によるインクジェットプリンターを使用し、注記を行った。なお、注記不可能な細片についてはビニール袋に入れ、必要事項を記入して整理した。遺物の接合・復元は可能な限り行い、接合にはセメダインＣを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂（バイサム）を用いて修復を行った。現地で作製した実測図は各遺構ごとに整理し、図面保管封筒に保管した。

検出された遺構・遺物の数量に基づき、報告書作成用の割り付けを決定した。遺構図面は図面修正を加えた後にトレース・版組を行った。遺物実測は手実測を基本として行い、トレース・版組を行った。上記作業に並行して原稿執筆を行った。遺物写真撮影には、ブローニー判モノクロームフィルムを使用した。

第Ⅳ章　基本層序

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、地形は全体に北西から南東方向に向かって次第に低くなる。遺跡は染谷川と牛池川に挟まれた微高地上の標高125～126mに立地し、調査地区の最も西側と東側との確認面での比高差は約1.2mで東下がりの地形となっている。調査区の土層堆積は、表土の耕作土層（Ⅰ層）直下に浅間Ｂ軽石を含む砂粒を多く含んだ黒褐色土層（Ⅱ層）、浅間C軽石を含んだ黒色土層（Ⅲ層）、小砂利を含んだ黒褐色土層（Ⅳ層）、褐色の砂質ローム層（Ⅶ層）、薄い縞状に何層にも重なる砂層（Ⅷ層）の順で堆積している。遺構は調査地区の西側のX26、Y127グリッド付近では黒色土層のⅢ層を掘り込んで構築され、遺構の確認面はⅢ層上面である。調査地区の東側のX34、Y129グリッド付近では褐色の砂質土層上面が遺構の確認面である。



基本層序

Ⅰ	黒褐色土	砂粒、軽石粒を含んだ耕作土層。しまりあり。
Ⅱ	黒褐色土	砂粒、軽石粒（02.～0.6mm大）少量。
Ⅲ	黒色土	軽石（As－Cか）φ１cm大以下を含む。やや柔らかい。
Ⅳ	黒褐色土	角丸の1.5cm大の小砂利・砂粒を含んだ黒褐色土。
Ⅶ	褐色土	砂粒を多量に含んだ砂質上。
Ⅶ′	褐色土	やわらかい褐色砂質土。
Ⅷ	にぶい褐色土	褐灰色の砂質土で５mm厚程の薄い縞状堆積で固くしまり有り。
Ⅷ′	褐灰色砂質土	褐灰色砂質土の純層で固くしまりあり。

Fig. 4　基本層序土層図

第Ⅴ章　検出された遺構と遺物

検出された遺構は縄文時代中期後半、古墳時代前期・後期、奈良・平安時代、中世の時期にかけてのものである。遺構数は掘立柱建物跡２棟，竪穴住居跡63軒、竪穴状遺構１基、道路状遺構３条、溝跡５条、土坑25基である。遺構の分布状況は西側のやや地形の高い場所で縄文時代中期の竪穴住居跡や古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されており、古墳時代後期や平安時代の竪穴住居跡は調査地区内全体から検出されている。掘立柱建物跡は調査地区の中央部から検出されている。調査地区の東側では、南北方向に延びる溝跡が２条、南北方向から東西方向に屈曲して延びる溝が１条検出された。このうち東側の南北溝は、底辺の広い逆台形の溝で、底面の両側に側溝状の小溝を持ち中央部は全体に硬化し、底面から数面の硬化面が確認されている。

第１節　竪穴住居跡

縄文時代

Ｊ－１号住居跡（Fig. 8、PL. 1）

位置　X20～24、Y130～132グリッド　形状等　東西6.50m×南北7.55m　深さ0.52m　円形。　床面　地山を床としている。ほぼ平坦で全体に硬化している。　ピット　４基検出されている。西側と東側の床が風倒木により壊されており一部が確認されていない。　炉　住居中央部北寄りで確認されている。径約1.6m、深さ約８㎝の楕円形の掘り込みで、中央部に底部と口縁部の打ち欠かれた炉体土器が埋設されている。　重複　Ｏ－１・２号風倒木痕、Ｈ－１号住居跡より古い。　出土遺物　深鉢４点、打製石斧１点を図示した。　時期　出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。

Ｊ－２号住居跡（Fig. 9、PL. 1）

位置　X22～24、Y128～130　形状等　東西5.29m×南北4.94m　深さ0.60m　円形。　床面　褐色土のほぼ平坦な床。　ピット　壁際に５基検出されている。　炉　住居中央部北寄りで確認されている。長辺約1.6m、短辺1.08m　深さ約10㎝のやや長方形の掘り込みで、中央部に底部と口縁部の打ち欠かれた炉体土器が２個体重複して埋設されている。底面から北東方向に向かって被熱による焼土化が認められる。　出土遺物　深鉢４点、打製石斧１点を図示した。　時期　出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。

古墳～奈良・平安時代

Ｈ－１号住居跡（Fig.10，PL. 2）

位置　X18、Y130グリッド　形状等　深さ0.43m　北側が調査区外となるため全容は不明。　床面　検出部分ではほぼ硬化している。黒褐色粘質土を貼って床としている。　重複　Ｈ－７号住居跡より新しい。

出土遺物　土師器坏１点を図示した。　時期　出土遺物から７世紀末頃と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.10、PL. 2）

位置　X20、Y131・132グリッド　主軸方向　N－92°－E　形状等　東西1.93m×南北2.18m　深さ0.20m

主軸方向が短軸となる長方形。　床面　やや凹凸があるが全体に締っている。特に竈を中心とした南寄りで硬化が著しい。　竈　東壁北寄りに付設される。　重複　Ｏ－１号風到木痕より新しい。　出土遺物　土師器坏１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.10、PL.2）

位置　X20・21、Y134・135グリッド　主軸方向　N－79°－E　形状等　東西2.91m×南北3.94m。深さ0.30m。主軸方向が短軸となる長方形。　床面　北東角付近を除いて全体に硬化が認められる。ほぼ平坦である。　竈　東壁南寄りに付設される。　重複　H－5号住居跡より新しい。　出土遺物　土師器坏、須恵器坏1点、須恵器蓋1点、土師器甕1点、宇瓦1点、女瓦3点、男瓦1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.10、PL.2）

位置　X20・21、Y133・134グリッド　主軸方向　北辺での計測でN－86°－E　形状等　東西3.16m×南北3.57m　深さ0.35m。主軸方向が短軸となる長方形。　床面　ほぼ平坦で締まりがない。　ピット　四隅に4基検出されているが、主柱穴にならない深さである。　竈　東壁中央部に付設さている。　重複　H－14号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器坏4点、須恵器椀1点、須恵器双耳坏1点、鉄製品（刀子）2点を図示した。　時期　出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.11、PL.2）

位置　X20～22、Y133・134グリッド　主軸方向　N－91°－E　形状等　東西4.56m×南北4.01m　深さ0.39m。　床面　平坦で全体に硬化している。　ピット　北西角と東壁南寄りに検出されている。　重複　H－3・18号住居跡より古い。　出土遺物　古墳時代前期の土師器甕の小片が出土している。　時期　出土遺物から4世紀頃と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.12、PL.2）

位置　X20、Y136グリッド　形状等　東西不明×南北不明　深さ0.46m　南側は調査区外となるため全容は不明である。　重複　H－12号住居跡より新しい。　出土遺物　灰釉陶器椀1点を図示した。羽釜破片も出土している。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.11、PL.3）

位置　X18・19、Y130～132グリッド　主軸方向　N－69°－E　形状等　東西不明×南北6.57m　深さ0.52m　西側が調査区外となるため全容は不明。　床面　全体に遺存状態が悪く、貯蔵穴の周囲にのみ硬化面が残存していた。　重複　H－17号住居跡より新しく、H－1・7・11号住居跡より古い。　竈　東壁に付設される。焚き口には構築材として砂岩製の切石が遺存していた。火床部は被熱により焼土化しており、煙道部は長く壁外に延びている。　貯蔵穴　南東角に掘り込みがある。　出土遺物　土師器坏1点、土師器甕3点を図示した。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.11）

位置　X18・19、Y130～132グリッド　主軸方向　南辺での計測でN－85°－E　形状等　主軸方向が長軸となる長方形。　床面　H－7号住居跡の埋土の黒褐色土中に床面を持っており、硬化面がわずかに認められた。　重複　H－7号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器甕1点を図示した。　時期　出土遺物から9～10世紀代と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.12、PL.3）

位置　X20・21、Y129・130グリッド　主軸方向　N－93°－E　形状等　東西3.45m×南北不明　深さ0.24m　主軸方向が短くなる長方形とみられる。　床面　ほぼ平坦で南壁近くの床面の長さ約1.1m、幅約0.65mの範囲が焼土化している。　ピット　南壁際に2基検出されている。　竈　東壁南寄りの位置から検出されている。　出土遺物　須恵器坏1点、須恵器椀2点、灰釉陶器椀1点を図示した。38の椀には則天文字の墨書

が施されている。　時期　出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.12、PL.3）

位置　X21・22、Y130・131グリッド　主軸方向　N－135°－E　形状等　東西4.82×南北4.02m　深さ0.12m。主軸方向が短くなる長方形である。　床面　住居跡の中心部が硬化している。南西角寄りに貯蔵穴が開く。　炉　北東壁寄りのやや北寄りに付設される。　重複　H－24号住居跡より古い。　出土遺物　古墳時代前期の土師器細片が出土している。　時期　出土遺物から4世紀代と考えられる。

H－11号住居跡（Fig.13、PL.3）

位置　X18・19、Y131・132グリッド　主軸方向　N－87°－E　形状等　東西不明×南北3.66m　深さ0.44m。西側が調査区外に延びており全容は不明である。　床面　北側は重複するH－7号住居跡の埋土中に構築している。際だった硬化はみられなかったが全体にしまっている。　竈　東壁に付設される。　重複　H－7号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器坏1点、鉄製品（紡錘車軸部）1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀前半代と考えられる。

H－12号住居跡（Fig.12、PL.3）

位置　X19・20、Y136・137グリッド　形状等　不明　深さ0.43m　床面　硬化面が遺存せず不明瞭な床である。　重複　H－6号住居跡より古い。　出土遺物　須恵器椀1点、宇瓦1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀後半以降と考えられる。

H－13号住居跡（Fig.13、PL.3）

位置　X20～22、Y131～133グリッド　主軸方向　N－71°－E　形状等　東西5.28m×南北5.27m　深さ0.57m。ほぼ方形である。　床面　ほぼ全体が硬化する。南壁中央部から間仕切り溝が延びている。　炉　中央部北西寄りの位置に有り、ほとんど焼土化が見られなかった。　ピット　4基検出されている　貯蔵穴　南西角から少し離れた位置に掘り込み（P6）がある。　埋土　最上層から榛名Hr－FAの堆積層が確認されている。　重複　H－18号住居跡より古い。　出土遺物　古墳時代前期の土師器細片が出土している。　時期　出土遺物から4世紀代と考えられる。

H－14号住居跡（Fig.14、PL.4）

位置　X19、Y134・135グリッド　主軸方向　N－66°－E　形状等　東西3.10m×南北3.91m　深さ0.14m。南北方向に長い長方形。　床面　ほぼ平坦である。　重複　H－4号住居跡より古い。　出土遺物　S字甕細片が出土している。　時期　出土遺物から4世紀代と考えられる。

H－15号住居跡（Fig.14、PL.4）

位置　X19・20、Y131・132グリッド　形状等　不明　深さ0.11m。　床面　全体に硬化が認められた。　ピット　3基検出されている。　出土遺物　須恵器長頸瓶1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

H－16号住居跡（Fig.14、PL.4）

位置　X19・20、Y136・137グリッド　主軸方向　N－70°－E　形状等　不明　深さ0.16m。南北方向に長い長方形。　床面　ほぼ平坦で南西部を除いて全体に硬化している。　重複　H－12号住居跡より古い。

出土遺物　土師器台付甕2点、小型台付甕2点、甕1点、壺2点、器台1点を図示した。　時期　出土遺物から4世紀代と考えられる。

H－18号住居跡（Fig.15、PL.4）

位置　X21～23、Y133・134グリッド　主軸方向　N－73°－E　形状等　東西5.53m×南北3.78m　深さ0.40

m　主軸方向が長い長方形である。　床面　ほぼ平坦で全体に硬化している。　竈　東壁の南よりの位置に付設される。燃焼部内壁は被熱による焼土化が顕著である。　重複　H－13・21号住居跡より新しい。

出土遺物　土師器坏7点、須恵器蓋5点、須恵器小型壺1点、須恵器甕1点、不明鉄製品1点を図示した。ほとんどの遺物が壁際の床上からの出土である。　時期　出土遺物から8世紀代と考えられる。

H－19号住居跡（Fig.15、PL.5）

位置　X20・21、Y135・136グリッド　主軸方向　N－37°－E　形状等　東西3.64m×南北3.56m、深さ0.57mの方形。　床面　ほぼ平坦で4本の主柱穴の内側からP5と貯蔵穴の周囲に硬化が認められた。周溝が竈を除き全周する。　ピット　4基検出され、主柱穴と考えられる。　竈　北東壁東寄りの位置に有り、壁を掘り込まずにぶい褐色粘土を大量に使用して構築されている。　重複　H－3号住居跡より古い。　出土遺物　土師器坏2点、甕2点、甑1点を図示した。　時期　出土遺物から5世紀後半と考えられる。

H－20号住居跡（Fig.16、PL.5）

位置　X23・24、Y134・135グリッド　主軸方向　N－64°－E　形状等　東西2.95m×不明、深さ0.30mの南北方向に長い長方形である。　床面　ほぼ平坦である。　ピット　3基検出されている　重複　H－21号住居跡より新しい。　出土遺物　古墳時代前期の土師器甕破片が出土している。　時期　出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

H－21号住居跡（Fig.16、PL.5）

位置　X22・23、Y133・134グリッド　主軸方向　N－62°－E　形状等　東西3.71m×不明、深さ0.14m。

床面　ほぼ平坦で中央部が硬化している。　炉　東壁寄りの位置に有り、焼土化していた。　重複　H－18・21号住居跡より古い。　出土遺物　古墳時代前期の土師器細片が出土している。墨書痕のある須恵器坏1点を図示したが、埋土中へ攪乱等で混入したものである。　時期　出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

H－23号住居跡（Fig.16、PL.5）

位置　X23、Y131・132グリッド　主軸方向　N－91°－E　形状等　東西3.21m×南北2.64m、深さ0.34m、主軸方向の短い長方形。　竈　東壁やや南寄りに付設される。燃焼部奥には女瓦を橋脚状に組み合わせて竈を補強している。煙道は橋脚部のさらに奥で立ち上がっている。　出土遺物　女瓦1点、鉄製品（鏃子）1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

H－24号住居跡（Fig.16、PL.5）

位置　X22・23、Y129～131グリッド　主軸方向　N－91°－E　形状等　東西3.67m×南北3.56m　深さ0.34m、方形。　床面　竈手前からP1にかけて硬化している。　竈　北東壁やや東寄りに付設されている。燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がり煙道は壁外に掘り込んでいる。燃焼部の中心部には石を設置して支脚としている。　重複　H－10・37号住居跡より新しい。　出土遺物　土師器坏3点を図示した。

時期　出土遺物から6世紀前半代と考えられる。

H－26号住居跡（Fig.16）

位置　X24・25、Y132・133グリッド　主軸方向　N－104°－E　形状等　南西3.06m×不明　深さ0.28m、方形。　床面　ほぼ平坦な床で全体に柔らかい。　竈　東壁に付設されている。H－34号住居跡に壊されて全容は不明。　重複　H－40号住居跡より新しく、H－32・34号住居跡より古い。　出土遺物　平安時代の土師器・須恵器片が出土している。土師器台付甕1点を図示しているが、H－40号住居跡から埋没過程で流れ込んだ遺物と考えられる。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。

H－28A号住居跡（Fig.17、PL.5）

位置　X24、Y134グリッド　主軸方向　N－80°－E　形状等　東西2.85m×南北4.29m　深さ0.37m、主軸方向の短い長方形。　床面　北西部を除いてほぼ全体が硬化する。　竈　東壁南寄りに付設されている。

貯蔵穴　南東角付近に掘り込まれている。　重複　H－28B号住居跡より古い。　出土遺物　須恵器坏2点、須恵器椀3点、三足盤、女瓦を図示した。　時期　出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－28B号住居跡（Fig.17、PL.5）

位置　X24・Y132・133グリッド　主軸方向　北辺での計測でN－86°－E　形状等　東西4.18m×南北6.18m　深さ0.30m、主軸方向の短い長方形。　床面　北西部を除いてほぼ全体が硬化する。　竈　東壁南寄りに付設されている。　重複　H－28A号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器坏2点、須恵器椀1点、ミニチュア甕1点、緑釉陶器手付小瓶1点、鉄製品の刀子1点、鋳造鉄片1点、釘2点を図示した。96の刀子は99の釘を巻くように折り曲げられて出土している。　時期　出土遺物から10世紀前半代と考えられる。

H－29号住居跡（Fig.17、PL.6）

位置　X24・25、Y132グリッド　主軸方向　N－104°－E　形状等　東西2.37m×南北3.21m、深さ0.41m、主軸方向の短い長方形で、東壁北部と南壁東部を壁外に拡張している。　床面　ほぼ平坦である。中央部が硬化する。壁周溝は西・北壁と東壁北寄りの一部で検出されている。　ピット　3基検出され、主柱穴と考えられず、P1は竈脇の甕埋設孔と考えられる。　竈　東壁南角に付設される。粘性のある黒褐色土で構築されている。燃焼部には支脚石が並んで2つ、燃焼室と煙道の間には女瓦を柱材にして砂岩の切石を橋脚状に渡した補強材の懸架が見られる。　出土遺物　須恵器坏1点、須恵器高台付皿1点、小皿1点、椀1点、須恵器羽釜1点、灰釉陶器椀1点、青磁段皿1点を図示した。　時期　出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－30号住居跡（Fig.18、PL.6）

位置　X24、Y129グリッド　主軸方向　N－83°－E　形状等　東西不明×南北3.68m、深さ0.37m、H－35号住居跡と重複するため全容は不明。　床面　全体にややしまっている。黒褐色土を薄く貼る。ほぼ平坦である。　竈　東壁を掘り込んで構築されている。燃焼室は被熱により焼土化している。　重複　H－35号住居跡より古い。　出土遺物　土師器甕2点、土師器長胴甕1点、女瓦1点を図示した。このうち、叩き文字のある女瓦はH－35号住居跡からの攪乱等による混入遺物と思われる。　時期　出土遺物から7世紀頃と考えられる。

H－31号住居跡（Fig.18、PL.6）

位置　X23・24、Y128・129グリッド　主軸方向　N－92°－E　形状等　深さ0.39mの主軸方向が短い長方形。　床面　北壁際を除いて全体に硬化が認められる。ほぼ平坦である。　竈　東壁南寄りに付設される。袖部には石を立てて内壁の補強材としている。煙道には女瓦を横方向に置いて煙道天井部としている。　重複　H－33号住居跡、D－6・7号土坑より古い。　出土遺物　土師器小型鉢1点、須恵器椀1点、灰釉陶器椀1点、灰釉陶器長頸瓶1点、女瓦1点、鉄製品（紡錘車）1点、釘2点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀後半代と考えられる。

H－33号住居跡（Fig.18）

位置　X21、Y128・129グリッド　主軸方向　N－94°－E　形状等　東西2.25m×南北3.12m、深さ0.50m。主軸方向に短い長方形である。　床面　西壁際にやや軟質部があるが全体に硬化している。　竈　東壁やや南寄りに検出されている。　重複　H－31号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器椀3点を図示した。
時期　出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H－34号住居跡（Fig.19、PL.6）

位置　X25・26、Y132・133グリッド　主軸方向　N－70°－E　形状等　東西2.64m×南北3.00m　深さ0.74m。ほぼ方形。　床面　明瞭な硬化面がなく砂質の褐色土を床としているようで床面として認識できなかった。　竈　東壁に掘り込みが確認されたが遺存状態は悪い。　重複　H－26・32・40号住居跡より新しい。

出土遺物　釘1点を図示した。　時期　切り合い関係から10世紀頃の住居跡と考えられる。

H－35号住居跡（Fig.18）

位置　X24・25、Y127・128グリッド　主軸方向　北西壁での計測でN－53°－E　形状等　東西3.21m×南北4.02m、深さ0.40m。主軸方向に短い長方形である。　床面　黒褐色土を床とする。ほぼ平坦だが床の硬化は弱い。　重複　H－30号住居跡より新しい。　出土遺物　緑釉陶器唾壺1点、鉄鏃1点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀頃と考えられる。

H－36号住居跡（Fig.19、PL.6）

位置　X26・27、Y127グリッド　主軸方向　N－67°－E　形状等　東西1.57m×南北不明　深さ0.27m。床面　黒褐色土を床としており床の硬化は不明瞭であった。　竈　東壁南寄りに検出されている。　時期　出土遺物から平安時代と考えられる。

H－37号住居跡（Fig.19、PL.7）

位置　X22・23、Y129・130グリッド　主軸方向　N－56°－E　形状等　東西3.79m×南北不明　深さ0.47m。　床面　ほぼ平坦で、竈前面が硬化している。　ピット　3基検出され、いずれも主柱穴である。

竈　東壁南寄りに付設される。暗褐色粘質土で構築され、燃焼部から煙道に至る部分に砂岩が使用されている。　貯蔵穴　南東角近くにあり、規模は長軸85cm×短軸63cm、深さ50cmである。　重複　H－24号住居跡より古い。　出土遺物　土師器甕1点を図示した。　時期　出土遺物から5世紀後半と考えられる。

H－40号住居跡（Fig.20、PL.7）

位置　X24～26、Y131～133グリッド　主軸方向　N－74°－E　形状等　東西6.22m×南北5.21m、深さ0.70m。主軸方向が短くなる長方形である。　床面　地山を床としている。主柱穴内側で硬化が認められるがやや南に硬化の範囲が延びている。　ピット　主柱穴とみられるものは4基検出されている。　炉　北壁に近いやや西寄りにある。　重複　H－26・28B・32・34号住居跡、D－4号土坑より古い。　出土遺物　土師器台付甕1点を図示した。　時期　出土遺物から4世紀代と考えられる。

H－41号住居跡（Fig.19、PL.7）

位置　X27・28、Y129・130グリッド　主軸方向　N－93°－E　形状等　東西2.70m×南北2.42m　深さ0.32m。主軸方向に長い長方形である。　床面　黒褐色土の地山を床としている。　竈　東壁中央やや南寄りに付設される。袖部には男瓦を構築材として使用している。　時期　遺構の形態等から平安時代と考えられる。

H－42号住居跡（Fig.19、PL.7）

位置　X28・29、Y129・130グリッド　主軸方向　N－87°－E　形状等　東西2.89m×南北3.40m　深さ0.25m、主軸方向が短軸となる長方形。　床面　黒褐色土の地山を床としている。　ピット　南壁際に検出（P14）されているが、性格は不明である。　竈　東壁南角近くに付設される。　出土遺物　須恵器椀4点を図示した。　時期　出土遺物から9世紀後半～10世紀前半代と考えられる。

H－43号住居跡（Fig.20、PL.7）

位置　X29、Y130・131グリッド　主軸方向　N－74°－E　形状等　東西3.72m×南北不明　深さ0.11m、

主軸方向が短軸となる長方形。　床面　黒褐色土の地山を床としている。　竈　東壁南寄りに付設されていた。　重複　H－56号住居跡と重複している。　出土遺物　石製紡錘車１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半～10世紀前半と考えられる。

H－44号住居跡（Fig.21）

位置　X31・32、Y128・129グリッド　主軸方向　N－93°－E　形状等　東西2.59m×南北3.34m、深さ0.07m、主軸方向が短軸となる長方形。　床面　ほぼ平坦で全体にしまっている。　竈　東壁南寄りに付設される。　重複　H－57号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器椀１点、高台付盤１点、不明銅製品１点を図示した。　時期　出土遺物から９世紀後半と考えられる。

H－45号住居跡（Fig20）

位置　X31・32、Y127グリッド　主軸方向　N－97°－E　形状等　東西3.02m×南北3.03m、深さ0.17m、ほぼ正方形である。　床面　西壁寄りと北壁を除き硬化している。ほぼ平坦である。　ピット　２基検出されているが主柱穴とは考えられず、性格は不明である。　竈　西壁やや南寄りに付設される。　重複　H－46号住居跡より新しい。　出土遺物　須恵器坏２点、皿１点、羽釜１点を図示した。　時期　出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－46号住居跡（Fig.21、PL.７）

位置　X32・33、Y127・128グリッド　主軸方向　南辺の計測でN－74°－E　形状等　東西4.12m×南北4.30m　深さ0.37m、ほぼ方形である。　床面　ほぼ平坦で木根等による小攪乱のため床の残存状況が悪い。検出部分で壁周溝が全周する。　ピット　６基検出されている。P1・2・4・5が主柱穴になるものと思われる。　重複　H－45号住居跡より古い。　出土遺物　時期の決定できる明瞭な出土遺物が見られない　時期　遺構の形態からから６～７世紀頃と考えられる。

H－47号住居跡（Fig.21）

位置　X33、Y129グリッド　主軸方向　N－92°－E　形状等　東西不明×南北不明　深さ0.11m。　床面　ほぼ平坦である。　竈　東壁南寄りに付設される。　重複　H－55号住居跡より新しい。W－３号溝跡よりも古い。　出土遺物　土師器坏１点、鐙瓦１点を図示した。土師器坏は６世紀後半～７世紀代のものでH－55号住居跡の埋土中の遺物の可能性がある。　時期　出土遺物から９世紀頃と考えられる。

H－48号住居跡（Fig.22、PL.７）

位置　X34・35、Y127～129グリッド　主軸方向　N－60°－E　形状等　東西4.50m×南北5.55m、深さ0.28m、南北方向に長い長方形。　床面　全体に床の硬化面が残らず不明瞭で、壁周溝は北半部で検出されている。　ピット　３基検出され主柱穴になるものと考えられる。　重複　T－１号竪穴状遺構、W－３号溝跡より古い。　出土遺物　臼玉１点を図示した。　時期　出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

H－50号住居跡（Fig.22、PL.８）

位置　X31、Y130・131グリッド　主軸方向　N－60°－E　形状等　不明　深さ0.38m。　床面　地山の褐色土を床としている。　ピット　柱穴は検出されなかった。　竈　東壁に付設される。両袖部に粘土ブロックを混ぜた黒褐色土を使用し構築されている。燃焼部奥壁寄りに砂岩を加工した支脚が残存する。　重複　H－15号住居跡より古く、12～15区W－１号溝跡との新旧は不明瞭。　出土遺物　土師器甕１点を図示した。土師器甕は竈の南側の床上に置かれた状態で出土している。　時期　出土遺物から７世紀代と考えられる。

H－51号住居跡（Fig.22、PL.８）

位置　X31・32、Y127・128グリッド　主軸方向　N－78°－E　形状等　不明　深さ0.22m　床面　平坦

で全体にしまっている。　重複　W－1号溝より古い。　出土遺物　土師器壺1点、土師器甑1点を図示した。すべて壁直下の床上からの出土である。　時期　出土遺物から6世紀代と考えられる。

H－52号住居跡（Fig.22、PL.8）

位置　X36・37、Y128グリッド　主軸方向　N－77°－E　形状等　東西1.91m×南北2.30m、深さ0.48mの正方形。　床面　竈前面から南寄りの範囲で硬化が認められる。壁周溝は南壁と東・西壁で検出されている。　竈　東南角に付設されている。燃焼部に支脚として石が立てられていた。　出土遺物　須恵器椀3点、須恵器坏1点を図示した。いずれも埋土中層からの出土である。　時期　出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－54号住居跡（Fig.23）

位置　X38、Y127・128グリッド　主軸方向　N－100°－E　形状等　不明　深さ0.48m　床面　平坦でやや硬化している。　重複　O－1風倒木痕より新しい。　時期　不明である。

H－55号住居跡（Fig.23、PL.8）

位置　X32～34、Y128・129グリッド　主軸方向　N－76°－E　形状等　東西3.60m×南北3.02m　深さ0.49m　主軸方向に長い長方形。　床面　ほぼ平坦で竈手前で硬化が認められる。　ピット　3基検出されているが主柱穴にはならない。　重複　H－47号住居跡、W－3号溝より古い。　出土遺物　土師器坏1点を図示した。　時期　出土遺物から6世紀後半代と考えられる。

H－56号住居跡（Fig.20、PL.8）

位置　X30・31、Y131・132グリッド　主軸方向　N－52°－E　形状等　東西2.82m×南北不明　床面　ピット　深さ0.34m。　出土遺物　土師器小型甕1点を図示した。

H－57号住居跡（Fig.23、PL.8）

位置　X31・32、Y128・129グリッド　主軸方向　N－57°－E　形状等　東西不明×南北4.08m　深さ0.31m　床面　平坦で竈前面が硬化している。　竈　東壁やや南寄りに付設される。　重複　H－44号住居跡より古い。　時期　不明。

H－58号住居跡（Fig.23、PL.8）

位置　X26・27、Y128グリッド　主軸方向　N－79°－E　形状等　東西3.15m×南北2.06m　深さ0.32m、主軸方向に長い長方形。　床面　黒褐色土を床としている。　竈　東壁に付設され、袖石として砂岩の切石が構築材として使われている。　出土遺物　須恵器蓋1点を図示した。　時期　出土遺物から8世紀代と考えられる。

第2節　掘立柱建物跡

調査地区の中央部に2棟分確認されたが、B－2号掘立柱建物跡はB－1号掘立柱建物跡の東側に2本の柱列が確認されたのみで確実に建物になるかどうかは不明である。

B－1号掘立柱建物跡（Fig.24、PL.8）

位置　X27～29、Y127～129グリッド　主軸方向　N－47°－W　規模　南西－北東軸4間（5.42m）×北西－南東軸3間（5.40m）　形状　側柱建物であるが、北東部が調査区外となるため柱穴1カ所未確認。柱間寸法は、南西－北東軸方向の南側列は南西側から順番に1.16m、1.24m、1.75m、1.24mである。北列は1.24m、1.40m、1.42mである。　柱穴　平面形は円形及び楕円形である。各柱穴径は、0.30～0.43m、深さは0.32～0.55mである。確認できた柱痕は直径12～18cmである。　時期　時期を特定できる遺物はなく詳細は不明であが、他遺構との主軸方向の一致から、おおむね7世紀後半代のものと考えられる。

第3節　竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（Fig.24、PL.9）

位置　X35・36、Y128・129グリッド　長軸方向　N－99°－E　規模　長軸3.33m×短軸2.55m　深さ1.38m　形状　長方形。　床面　特に硬化は認められなかった。　ピット　3基検出されている。P1・P2は柱穴になるものと思われる。　出土遺物　無し。　時期　中世と考えられるが詳細は不明である。

第4節　溝　跡

溝跡は調査地区内から5条検出されている。このうち規模が大きく特徴のあるものについて記述を行い、他のものについては一覧表（Tab.5）にまとめた。

W－2号溝跡（Fig.25、PL.9）

位置　X32・33、Y126～132グリッド　規模　長さ35.30m、幅4.72m、深さ0.82m。　形状　底面は約2.20～2.40mの幅でほぼ平坦で、側壁は直線的に立ち上がる。　硬化面　硬くしまりのある硬化面が埋土中層から底面にかけて4面捉えられた。　埋土　浅間C軽石粒を含んだ黒褐色土層を主体としておりやや砂っぽい埋土である。　出土遺物　土師質土器小皿1点を図示した。その他に馬歯片等も出土している。　時期　出土遺物から中世と考えられるが詳細は不明である。

W－3号溝跡（Fig.26、PL.10）

位置　X35～39、Y127～130グリッド　規模　長さ19.57m、幅2.10m。深さ0.63m。　形状　底面は約0.7～1.0mの幅の浅い皿状で、側壁は緩やかに立ち上がる。　埋土　砂岩の小礫を含んだ黒褐色土層を主体とした埋土である。　時期　中世と考えられるが詳細は不明である。

W－4号溝跡（Fig.27、PL.10）

位置　X37・38、Y127・128グリッド　規模　長さ5.04m、幅4.43m。深さ0.70m。　形状　底面は約3.48mの幅で、両側側溝幅0.42～0.62m、路面幅2.26mで、壁は直線的に緩やかに立ち上がる。　埋土　黒褐色土を主体とした埋土で、側溝部を除いた路面の範囲で10層に分層したがいずれも薄い硬化層である。中層には砂の堆積層が3枚見られ、轍状に細長く窪んだ部分に砂層が見られた。　出土遺物　奈良・平安時代の土師器・

須恵器の細片と布目瓦の小片が出土している。　時期　不明である。

第５節　道路状遺構

Ａ－１号道路状遺構（Fig.28）

位置　X24・25、Y129・130グリッド　規模　幅2.4～2.7m。　形状　東西に走行する硬化面が一枚確認された。　硬化面　部分的に土坑によって壊されている。　重複　D－23号土坑よりも古い。　時期　不明。

第６節　井戸跡（Fig.28、PL.9）

調査地区内から１基の井戸が確認されている。出土遺物がなく時期は不明であるが、埋土にはAs－B軽石を含み中世以降のものと思われる。

第７節　土　坑（Fig.28、PL.9）

土坑は調査地区内から24基検出されている。詳細については土坑一覧表（Tab.７）にまとめた。

第８節　遺構外出土遺物（Fig.40、PL.17）

表採遺物や遺構埋土出土であっても明らかに時期がことなり、流れ込みと判断されたものを遺構外遺物とした。縄文時代の遺物では、後期初頭ころの三十稲葉式土器（163）やハート型土偶の脚部片（162）がある。中期後半の加曾利E式期の住居から出土している打製石斧と同種の石斧は、遺構外から36点出土している。掲載できなかったが大形の石器で、安山岩製の凹石、小形の石器類としてスクレーパー類・磨製石斧・石錐・石核・剥片石器が出土している。小形の石器の石材はほとんどが頁岩であるが、磨製石斧の中には新潟産と思われる蛇紋岩製のものもある。スクレーパーの中には安山岩製のものもある。石核はチャートと頁岩が、剥片石器はほとんどが頁岩であまり調整を施していない刃部に使用痕が見られる。黒曜石では石鏃・石錐・サイドスクレーパー・石核・剥片石器が出土している。

奈良・平安時代では、緑釉陶器の椀・皿や托、須恵器の凸帯壺片、上野国分寺式鐙瓦が遺構外遺物として出土している。

第Ⅵ章　まとめ

本遺跡からは縄文時代中期、古墳時代から奈良・平安時代、中世の各時代にわたる遺構が検出されている。この中で量的に主体を占めるのは古墳時代前期から平安時代にかけての遺構と遺物である。

本遺跡は、国府推定域の北西側に位置し、調査区の北側には国分尼寺が隣接する地域である。ここでは元総社遺跡群で通有の時期区分にしたがい、Ⅰ期（～７世紀前半）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭）、Ⅲ期（10世紀前半～）の３時期に区分して集落跡を概観する。

Ⅰ期（～７世紀前半）

縄文時代

縄文時代の竪穴住居跡は調査地区の西側に２軒が接近してつくられている。円形のプランで、似た形態の炉体土器を埋設した炉を持っている。遺物は加曾利Ｅ式期の土器と打製石斧が出土している。

古墳時代前期

古墳時代前期の住居跡は調査地区の西側でまとまって確認されている。特に13号住居跡では埋土最上層中にＨｒ－ＦＡ層が確認されている。遺構の形態は、４本の主柱穴を持ち構造のしっかりしたタイプと主柱穴を持たないタイプがあり、主柱穴を持つタイプでは13号住居跡のような方形のものと、40号住居跡のように東西方向に長いものがある。10号住居跡のように４本柱を持たないタイプでは、東西方向に長い長方形のもの（16・21号住居跡）と南北方向に長いもの（20号住居跡）が見られる。出土遺物は全体に少ないがＨ－16・40号住居跡からＳ字状口縁台付甕が出土している。

古墳時代後期

竈が付設される住居跡ではＨ－19号住居跡の竈が古い様相を持っている。出土遺物は体部が半球形で内面篦磨きの土師器坏がＨ－19号住居跡から出土しており、５世紀後半から末頃の時期のものと思われる。６世紀代の竪穴住居跡はＨ－７・24・51・55号住居跡で、７世紀前半のものでは、Ｈ－30号住居跡があげられる。主軸方向はＮ－42°－ＥからＮ－90°－Ｅの範囲を中心にまとまりがある。

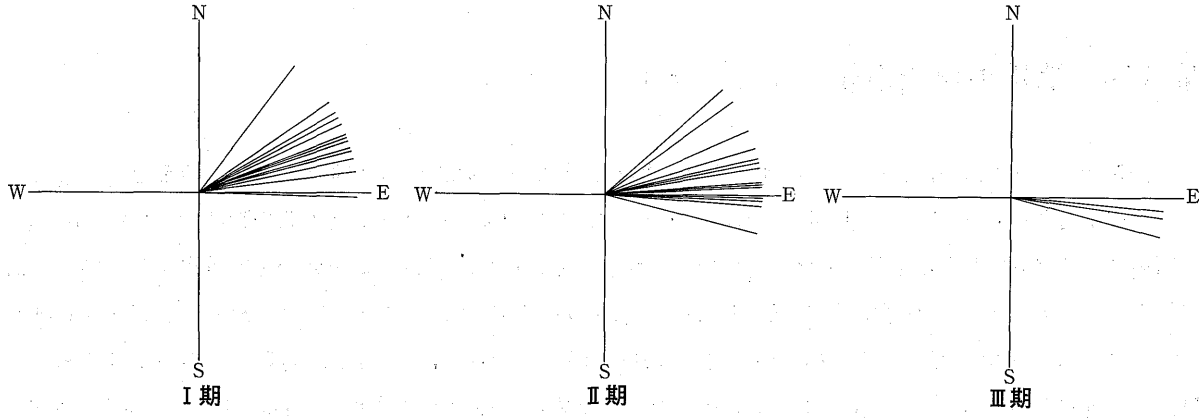


Fig. 5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向

Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭）

この時期に該当する住居跡は調査区全域に分布している。主軸方向はＮ－48°－ＥからＮ－104°－Ｅの範囲にまとまりがある。

７世紀後半～８世紀

８世紀代の住居は少なく、調査区の西側の国分僧寺・尼寺中間地域寄りに５軒程見られる。８世紀段階の集落は国分寺中間地域の集落の東縁に当たるため分布が薄いものと思われる。８世紀前半頃までの時期の旧地形を想定すると、竪穴住居跡の分布傾向から見て、中央部に低湿地が入り込み不安定な部分があったものと考えられる。

また、８世紀の集落の境目の縁に南北に延びる溝跡（Ｗ－４号溝）があるが、底面から埋土中層にかけて数面の硬化面が確認され、側溝や轍状の小溝を持っているため道路状遺構と考えられる。この道路状の遺構は国分僧寺東限線から３町の位置にあり、国分尼寺の西側線に当たると見られる。

出土遺物はＨ－18号住居跡から須恵器坏・蓋を主体に遺物が多く出土しており、「大」の文字の書かれた墨

書土器も出土している。H－4号住居跡からは須恵器の双耳坏が出土している。

9世紀

9世紀代の住居は調査区の全体に広がっている。おそらく8世紀代の溝や道路造成等による地形整備の結果、地形が安定し、中間地域の集落が8世紀から9世紀にかけて拡大していったものと考えられる。出土遺物がなく時期のはっきりしていない掘立柱建物跡については、近接するH－35号住居跡との軸線の一致等から9世紀代の可能性も考えられる。

出土遺物ではH－28A号住居跡から須恵器の三足盤が、H－35号住居跡からは灰釉陶器の唾壺が、H－3号住居跡からは左偏向唐草文の宇瓦が出土している。墨書土器では、則天文字の「天」が書かれた須恵器の椀が出土している。遺構外からは緑釉陶器の托も出土している。三足盤や托、唾壺といった寺院関係の遺物の廃棄が目につく時期である。

金属製品では、H－11・31号住居跡から紡錘車が、H－23号住居跡からは鑷子が、H－32号住居跡からは鉄斧が出土している。

Ⅲ期（10世紀前半～）

この時期に該当する住居跡も調査地区全体から確認されているが、遺存状況が悪いものが多かった。主軸方向はN－95°－EからN－105°－Eの範囲にまとまりがあり、ほとんどの竪穴住居跡の竈は東壁に付設されている。

出土遺物は、H－44号住居跡から足高高台の盤か椀の大型品が、H－29号住居跡から青磁皿が出土している。墨書土器では、須恵器の椀の体部に書かれた呪術記号と思われる文字「㘝」が見られる。

その他に調査地区内からは、中層に硬化面を持ち南北方向に直線的に延びる幅の広い大きな溝（W－2号溝）や、南北方向から屈曲して東西方向に延びる溝跡（W－3号溝）が確認されている。W－2号溝では馬歯や中世の土師質土器の小皿が出土し、埋土中にはAs－B軽石粒を含んでいるため埋没時期は中世まで下る。W－3号溝は中世の竪穴遺構に切られており、W－2号溝を含めてこれらの溝が、古代の土地区画の溝や道路を継続維持・再利用している可能性が考えられる。

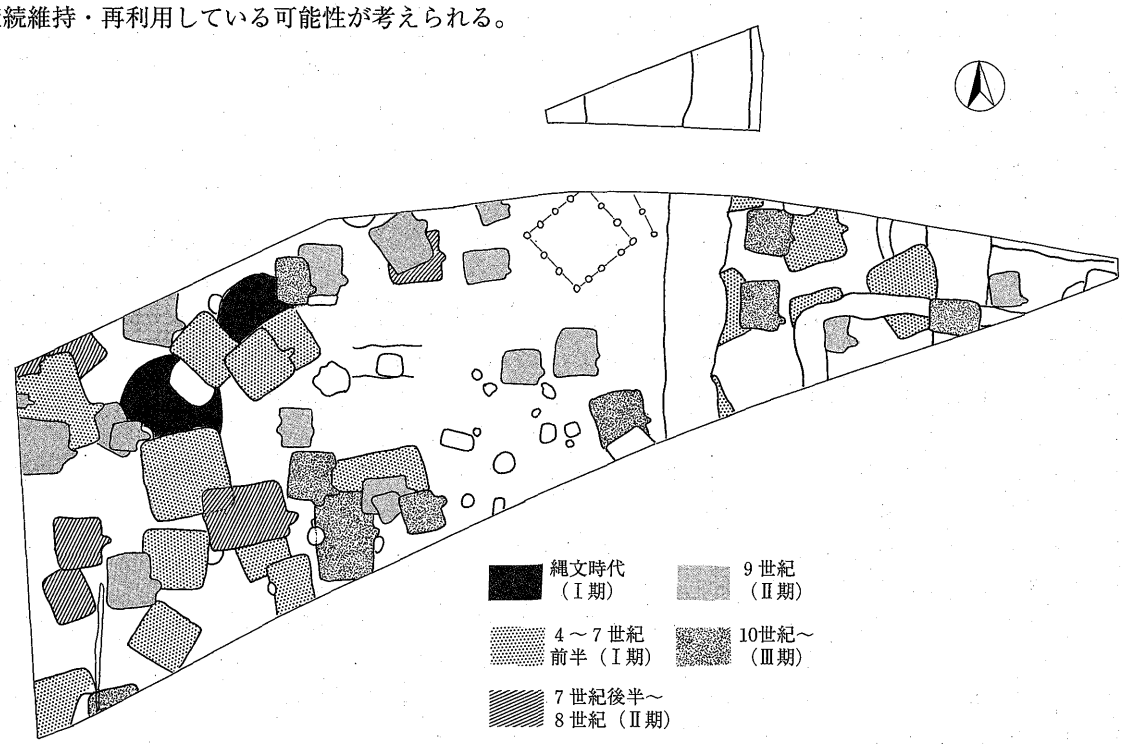


Fig. 6　時期別の竪穴住居跡配置図

Tab.2　竪穴住居跡（縄文）一覧表

遺構名	グリッド	規　模（m）			平面形状	炉	壁溝	貯蔵穴	主な出土遺物	時　　期
		東西	南北	壁高						
J－1	X20～22、Y130～132	6.50	7.55	0.52		有	有	－	深鉢、打製石斧	加曾利E式
J－2	X22～24、Y128～130	5.29	4.94	0.60		有	有	－	深鉢、打製石斧	加曽利E式

Tab.3　住居跡（古墳～平安）一覧表

遺構名	グリッド	規　模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	主な出土遺物	掲載遺物番号	時　　期
		東西	南北	壁高								
H－1	X18、Y130	－	－	0.43	－	－	－	－	－	土師器坏	11	7世紀末
H－2	X20、Y131・132	1.93	2.18	0.20	正方形	N-92°-E	東	無	無	土師器坏	12	9世紀後半
H－3	X20・21、Y134・135	2.91	3.94	0.30	横長長方形	N-79°-E	東	無	無	土師器坏	13～22	8世紀末～9世紀初
H－4	X19・20、Y133・134	3.16	3.57	0.35	横長長方形	N-86°-E	東	無	無	須恵器坏、刀子	23～30	8世紀後半
H－5	X20～22、Y133・134	4.56	4.01	0.39	正方形	N-91°-E	－	－	－	－	－	4世紀
H－6	X20、Y136	－	－	0.46	－	N-°-E	－	有	－	灰釉陶器椀	31	10世紀代
H－7	X18・19、Y130～132	－	6.57	0.52	－	N-69°-E	東	有	南東	土師器坏・甕	32～35	6世紀後半
H－8	X18・19、Y130～132	－	－	－	－	N-°-E				土師器甕	36	9世紀～10世紀
H－9	X20・21、Y129・130	3.45	－	0.24	－	N-93°-E	東	－	－	須恵器坏・椀	37～40	9世紀後半
H－10	X21・22、Y129・130	4.82	4.02	0.12	横長長方形	N-135°-E	－	有	?	－	－	4世紀
H－11	X18・19、Y131・132	－	3.66	0.44	－	N-87°-E	東	－	?	須恵器坏、紡錘車	41・42	9世紀前半
H－12	X19・20、Y136・137	－	－	0.43	－	－	－	－	－	須恵器椀、宇瓦	43・44	9世紀後半
H－13	X20～22、Y131～133	5.28	5.27	0.57	正方形	N-71°-E	－	有	－	－	－	4世紀
H－14	X19、Y134・135	3.10	3.91	－	－	N-66°-E	－	－	－	－	－	8世紀代
H－15	X19・20、Y131・132	－	－	0.11	－	－	－	－	－	須恵器長頸瓶	45	9世紀代
H－16	X19・20、Y136・137	－	－	0.16	－	N-70°-E	－	無	－	土師器台付甕	46～53	4世紀
H－17	X19、Y130	－	－	0.16	－	N-48°-E	－	－	－	－	－	8世紀代
H－18	X21～23、Y132・133	5.53	3.78	0.40	縦長長方形	N-73°-E	東	有	南東	土師器坏、須恵器坏	54～68	8世紀代
H－19	X20・21、Y135・136	3.64	3.56	0.57	正方形	N-37°-E	北	－	?	土師器坏・甕	69～73	5世紀後半
H－20	X23・24、Y134・135	2.95	－	0.30	－	N-64°-E	－	無	－	－	－	4世紀
H－21	X22・23、Y133・134	3.71	－	0.14	－	N-62°-E	炉	無	－	－	74	4世紀
H－22	X22、Y130・131	－	－	－	正方形	－	－	－	－	－	－	8世紀～9世紀
H－23	X23、Y131・132	3.21	2.64	0.34	横長長方形	N-91°-E	東	無	無	女瓦、鑷子	75・76	9世紀代
H－24	X22・23、Y129～131	3.67	3.56	0.34	正方形	N-91°-E	東	有	?	土師器坏	77～79	6世紀前半
H－25	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
H－26	X24・25、Y132・133	3.06	－	0.28	正方形	N-104°-E	－	無	－	土師器台付甕	80	9世紀代
H－27	X25、Y132・133	－	－	－	－	－	－	－	－	土師器椀、須恵器坏	81～83	10世紀後半
H－28A	X24、Y133・134	2.85	4.29	0.37	横長長方形	N-80°-E	東	有	南東	須恵器坏、三足盤	84～90	9世紀後半
H－28B	X24、Y132・133	4.18	6.18	0.30	横長長方形	N-86°-E	東	有	南東	須恵器坏・椀、緑釉	91～99	10世紀前半
H－29	X23・24、Y132	2.37	3.21	0.41	－	N-104°-E	東	有	－	須恵器椀、皿	100～106	10世紀後半
H－30	X25、Y127・128	－	3.68	0.37	－	N-83°-E	東	有	南東	土師器甕、女瓦	107～110	7世紀
H－31	X23・24、Y128・129	－	－	0.39	横長長方形	N-92°-E	東	無	無	土師器鉢、須恵器椀	111～118	9世紀後半
H－32	X25、Y132・133	－	－	0.30	－	－	－	－	－	鉄斧	119	－
H－33	X23、Y128・129	2.25	3.12	0.50	横長長方形	N-94°-E	東	有	無	須恵器椀	120～122	10世紀前半
H－34	X25・26、Y132・133	2.64	3.00	0.74	正方形	N-70°-E	－	無	無	釘	123	－
H－35	X24・25、Y127・128	3.21	4.02	0.40	横長長方形	N-53°-E	東	有	無	緑釉陶器唾壺	124～125	9世紀
H－36	X26・27、Y127	1.57	－	0.27	－	N-67°-E	東	無	無	－	－	－
H－37	X22・23、Y129・130	3.79	－	0.47	－	N-56°-E	北東	有	南東	土師器甕	126	5世紀後半
H－38	X23・24、Y134・135	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

遺構名	グリッド	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	主な出土遺物	掲載遺物番号	時期
		東西	南北	壁高								
H－39	X25・26、Y132・133	－	－	－	－	－	－	－	－	須恵器坏	127	9世紀後半
H－40	X24～26、Y131～133	6.22	5.21	0.70	横長長方形	N-74°-E	－	有	－	台付甕	128	4世紀
H－41	X27・28、Y129・130	2.70	2.42	0.32	正方形	N-93°-E	東	無	無	－	－	?
H－42	X27・28、Y129・130	2.89	3.40	0.25	横長長方形	N-87°-E	東	無	無	須恵器椀	129～132	9世紀～10世紀
H－43	X27、Y130・131	3.72	－	0.11	横長長方形	N-74°-E	東	無	無	紡錘車	133	
H－44	X31・32、Y128・129	2.59	3.34	0.07	横長長方形	N-93°-E	東	有	南東	椀	134～136	10世紀
H－45	X31・32、Y127	3.02	3.03	0.17	正方形	N-97°-E	東	無	南東	坏	137～140	10世紀後半
H－46	X32・33、Y127・128	4.12	4.30	0.37	正方形	N-74°-E	東	有	南東	－	－	
H－47	X33、Y129	－	－	0.11	－	N-92°-E	東	有	無	坏、鐙瓦	141～142	9世紀代？
H－48	X34・35、Y127～129	4.50	5.55	0.28	－	N-60°-E	－	有	－	臼玉	143	古墳時代後期
H－49	X31、Y127	－	－	0.18	－	N-93°-E	東		－	－	－	－
H－50	X31、Y130・131	－	－	0.38	－	N-60°-E	東	無	－	土師器甕	144	6世紀
H－51	X31・32、Y127・128	－	－	0.22	－	N-78°-E	－	無	－	土師器壺・甕	145～146	6世紀
H－52	X36・37、Y128	1.91	2.3	0.48	正方形	N-77°-E	東	有	無	土師器椀	147～150	9世紀後半～
H－53	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
H－54	X38、Y127・128	－	－	0.48	－	N-100°-E	－	無	－	－	－	－
H－55	X32～34、Y128・129	3.60	3.02	0.49	－	N-76°-E	東	無	無	土師器坏	151	6世紀後半
H－56	X30・31、Y131・132	2.82	－	0.34	－	N-52°-E	－	無	－	土師器甕	152	－
H－57	X31・32、Y128・129	－	4.08	0.31	－	N-57°-E	東	有	南東	－	－	－
H－58	X26・27、Y128	3.15	2.06	0.32	縦長長方形	N-79°-E	東	無	無	須恵器蓋	153	－
H－59	X27・28、Y125	－	－	0.26	－	N-78°-E	東	無	－	－	－	－

Tab.4　竪穴状遺構一覧表

遺構名	グリッド	規模（m）			平面形状	時期	主な出土遺物
		東西	南北	壁高			
T－1	X37・38、Y128・129	3.33	2.55	1.38	長方形	中世	

Tab.5　溝跡一覧表

遺構名	グリッド	規模（m）			主軸方位	時期	備考
		全長	上幅	深さ			
W－1	X20、Y134～136	7.95	0.34	0.14	N-90°-E	不明	
W－2	X32・33、Y126～132	35.30	4.72	0.82	N-90°-E	中世	
W－3	X35～39、Y127～130	19.57	2.10	0.63	N-340°-E, N-91°-E	中世	
W－4	X37・38、Y127・128	(5.04)	4.43	0.70	N-0°-E	不明	
W－5	X36、Y127	2.64	0.92	0.17	N-356°-E	不明	

Tab.6　道路状遺構一覧表

遺構名	グリッド	規模（m）			主軸方位	側溝	時期	備考
		全長	全幅	深さ				
A－1	X26・27、Y129・130	(5.05)	2.4～2.7	－	N-86°-E	－	不明	
A－2	欠番	－	－	－	－	－	－	
A－3	X38～40、Y127	(9.40)	－	－	N-278°-E	－	不明	

Tab.7　土坑一覧表

遺構名	グリッド	規　模（m）			平面形状	時　　期	備　　考
		長軸	短軸	深さ			
D－1	X25、Y135	0.84	0.67	0.23	楕円形	中世以降	
D－2	X25、Y135	0.62	0.61	0.35	楕円形	中世以降	
D－3	X25、Y134	1.41	1.35	0.46	円形	中世以降	
D－4	X25、Y132	0.72	0.52	0.27	楕円形	平安	
D－5	X26、Y134	1.44	0.89	0.13	楕円形	中世以降	
D－6	X25・26、Y128	1.75	1.35	0.90	長方形	中世以降	
D－7	X25・26、Y128	2.40	1.12	0.93	長方形	中世以降	
D－8	欠番	－	－	－	－	－	
D－9	X28、Y133	2.61	1.32	0.40	長方形	中世以降	
D－10	X22、Y132	1.50	0.77	0.30	楕円形	平安	
D－11	X28、Y132	0.87	0.82	0.29	楕円形	中世以降	
D－12	X28、Y134	1.05	0.91	0.32	楕円形	中世以降	
D－13	X29、Y134	－	0.69	0.25	長方形	中世以降	
D－14	X29、Y134	1.81	1.57	－	円形	中世以降	井戸
D－15	X30、Y133	1.57	1.23	0.41	楕円形	中世以降	
D－16	X30、Y133	0.74	0.45	0.29	楕円形	中世以降	
D－17	欠番	－	－	－	－	－	
D－18	X30、Y133	0.63	0.48	0.39	楕円形	中世以降	
D－19	X30、Y133	1.23	1.23	0.15	方形	中世以降	
D－20	X28、Y133	0.69	0.65	0.35	楕円形	中世以降	
D－21	X30、Y132	1.39	0.96	0.12	不整形	中世以降	
D－22	X28、Y132	1.15	1.04	0.21	不整形	中世以降	
D－23	X27、Y130	1.99	1.94	0.72	方形	中世以降	
D－24	X25、Y129	1.68	1.54	0.59	楕円形	縄文時代	
D－25	X23・24、Y129	－	1.29	0.63	楕円形	縄文時代	

Tab.8　遺物観察表

番号	遺構番号	器　種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　　徴	備　考
1	J－1－炉	深鉢 縄文土器	①27.6，②－，③－	①細砂粒多量②酸化焔③浅黄色④2/3	口縁部文様帯：縦方向の短い沈線の下に2本の弧状隆帯と渦巻き文。胴部：地文は単節斜縄文。波状沈線と間隔の短い2本の直線によるの沈線文。	炉体土器
2	J－1－埋	深鉢 縄文土器	①－，②－，③－	①細砂粒②酸化焔③にぶい橙浅黄色④-	朱彩の「J」字文描き。	
3	J－1－埋	深鉢 縄文土器	①－，②－，③－	①細砂粒多量②酸化焔③橙色④-	口縁部に楕円区画の渦巻き文。区画内単節斜縄文。	
4	J－1－埋	深鉢 縄文土器	①－，②－，③－	①細砂粒多量②酸化焔③にぶい橙色④-	隆帯区画内縦の沈線文。	
5	J－1－埋	打製石斧 石器	長：13.1cm幅：5.3cm厚さ：1.7cm重さ：176g			
6	J－2－炉	深鉢 縄文土器	①－，②［20.3］，③12.0	①細砂粒多量②酸化焔③黄橙色④1/2	胴部：縦2本の沈線区画間に1本の沈線が緩やかに蛇行して垂下する。地文は単節斜縄文。平底。	炉体土器
7	J－2－炉	深鉢 縄文土器	①［23.4］，②－，③－	①細砂粒多量②酸化焔③浅黄色④2/3		
8	J－2－埋	深鉢 縄文土器	①，②－，③－	①細砂粒多量②酸化焔③にぶい赤褐色④口縁部片	口縁部～胴部：地文の条線上に上から3本・2本・1本1単位の連弧文、くびれ部には横方向2本1単位の平行沈線文を施す。	
9	J－2－埋	深鉢 縄文土器	①，②－，③9.9	①②③④		
10	J－2－埋	打製石斧 石器	長：12.3幅：4.6厚さ：1.8重さ：104g			
11	H－1－埋	坏 土師器	①［15.5］，②－，③－	①石英を含む微砂粒（0.5mm～以下）②酸化焔・良好③橙色④2/5	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
12	H－2－埋	坏 土師器	①［12.4］，②2.6，③［7.7］	①角閃石を含む微砂粒②酸化焔・良好③橙色④1/3	口縁部：外傾、横撫で。体部：指頭圧痕。底部：篦削り。平底。	
13	H－3－床	坏 土師器	①9.8，②3.3，③7.2	①石英微粒・白色軟質粒②酸化焔③にぶい褐色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底。	口縁部油煙痕
14	H－3－床	坏 須恵器	①12.8，②3.8，③5.8	①石英微粒多量②弱還元③灰褐色④1/1	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り無調整。	
15	H－3－埋	蓋 須恵器	①［18.1］，②3.6，③摘み径4.4	①黒色粒少量②還元焔③灰色④1/3	リング状摘み。	
16	H－3－埋	甕 土師器	①［20.8］，②－，③－	①細砂粒・雲母粒極少量②酸化焔・良好③橙色④1/3	口縁部：コの字口縁。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
17	H－3－埋	女瓦	厚さ1.6	①石英・長石砂粒（φ2～3mm大）②酸化焔③にぶい黄橙色	一枚作り。凸面縄目叩き→撫で。端部面取り3回、側部面取り2回。篦書き文字瓦。	文字瓦「一十」
18	H－3－埋	女瓦	長さ36.0，幅28.8，厚さ1.9	①長石砂粒②酸化焔③橙色④1/1	一枚作り。凸面縦位の撫で。端部面取り3回、側部面取り2回。篦書き文字瓦。	文字瓦「十」
19	H－3－埋	女瓦	長さ38.3，幅24.5，厚さ2.8	①長石・石英砂粒（φ1mm以下）多量②弱還元焔③にぶい黄橙色④5/6	一枚作り。凸面縦位の篦削り。端部面取り1回、側部面取り2回。	
20	H－3－埋	男瓦	長さ38.0，幅16.5，厚さ1.9	①長石・石英細粒（φ1mm大）②酸化焔③にぶい橙色④5/6	凸面横位の篦撫で。端部面取り2回、側部面取り3回。	
21	H－3－埋	男瓦	長さ42.2，幅18.0，厚さ1.8	①チャート礫（φ5mm～大）、石英細粒（φ1mm～大）②弱還元焔③灰黄色④4/5	凸面縦～斜位の撫で。端部面取り2回、側部面取り3回。	
22	H－3－床	宇瓦	長さ－，幅－，厚さ1.9	①長石砂粒φ3～4mm大②弱還元③浅黄橙色④1/6	瓦当文は創建意匠の逆の左偏向唐草文。女瓦部凹凸面撫で。頸は段頸。	
23	H－4－床	坏 須恵器	①11.7，②4.2，③6.2	①黒色粒少量（φ3mm大）②還元焔③灰白色④1/1	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り無調整。	
24	H－4－床	高台付坏 須恵器	①13.5，②5.3，③8.6	①黒褐色軟質粒②還元焔③灰白④3/4		
25	H－4－床	双耳坏 須恵器	①13.8，②4.6，③10.2	①長石砂粒（41mm大）灰色砂粒（φ1mm以下）少量（チャートか？）②還元焔③灰色④1/1	体部に断面長方形の一対の取っ手が付く。	
26	H－4－床	坏 須恵器	①13.0，②4.0，③8.0	①精良。目立つ鉱物粒なし②還元焔③灰白色④1/1	底部及び体部下端ヘラ削り。	口縁部に油煙痕
27	H－4－埋	坏 須恵器	①［11.7］，②4.0，③6.9	①細砂粒②還元・不良③灰白④5/6	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	

番号	遺構番号	器　種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　　徴	備　考
28	H－4－埋	坏 須恵器	①［12.5］，②3.6，③7.5	①長石砂礫②還元焔③灰④3/5	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	
29	H－4－埋	刀子 鉄製品	全長：（14.3）刃部基幅1.5：厚さ：0.3重さ：12.49ｇ		棟関直角。刃関直角。	
30	H－4－埋	刀子 鉄製品	全長：（15.1）刃部基幅1.3：厚さ：0.3重さ：13.51ｇ		棟関直角。刃関直角。	
31	H－6－埋	椀 灰釉陶器	①－②－，③［7.0］	①緻密②良好③灰白色④1/8	高台断面三角形	
32	H－7－埋	長胴甕 土師器	①19.6，②39.0，③6.0	①長石礫、チャート礫②良好酸化?③浅黄橙色④4/5	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り、内面ヘラ撫で。	
33	H－7－床	坏 土師器	①［13.1］，②－，③－	①石英微粒②酸化焔・良好③黒色④1/3	口縁部：直立、体部との境に稜を有す。底部：削り。丸底。	
34	H－7－床	甕 土師器	①［15.8］，②－，③－	①石英を含む微粒子②酸化焔③にぶい黄橙色④1/15	口縁部：外反。胴部：外面削り。	
35	H－7－床	甕 土師器	①15.1，②－，③－	①黄白色粒子②酸化焔③浅黄色④2/3（底部欠損）	口縁部：外反。胴部：外面磨き。	
36	H－８－埋	甕	①［24.1］－，②－，③－	①石英微粒②良好還元?③灰色④頸部片1/25	文様：頸部外面波状文。	
37	H－9－床	坏 須恵器	①12.2，②4.0，③4.7	①石英微粒②弱還元焔③灰褐色④2/3	轆轤調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り無調整。	
38	H－9－床	椀 須恵器	①13.0，②4.5，③5.9	①白色軟質粒②酸化焔③にぶい褐色④1/1	轆轤調整。底部：回転糸切り無調整。高台貼り付け。	墨書則天文字「天」
39	H－9－埋	椀 須恵器	①13.2，②4.9，③6.4	①白色微粒②還元焔③灰白色④2/3	轆轤調整。底部：回転糸切り無調整。高台貼り付け。	
40	H－9－埋	椀 灰釉陶器	①［13.2］②4.4，③［6.1］	①緻密②良好③灰黄色④2/5	灰釉浸け掛け。三日月高台	
41	H－11－埋	坏 須恵器	①12.1，②4.1，③7.4	①黒褐色小粒少量②還元焔③灰白色④3/4	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	
42	H－11－埋	紡錘車 鉄製品	全長：28.3茎部幅：0.64茎部厚さ：0.54重さ：81.85ｇ			
43	H－12－埋	椀 須恵器	①12.9，②4.9，③7.3	①白色軟質粒少量（軽石微粒か）②還元不良③にぶい黄色④2/3	轆轤調整。口縁部：外反。高台：短い付け高台で外側に開く。	
44	H－12－埋	宇瓦	長さ－，幅－，厚さ3.0	①半透明砂礫、石英？②還元焔③灰白色④小片	瓦当文は重弧文。凹面横方向の削り。	
45	H－15－埋	長頸瓶 須恵器	①－，②－，③8.5	①軟質白色粒②還元焔③灰色④1/2		
46	H－16－埋	台付甕 土師器	①［14.5］，②30.2，③10.0	①透明細砂粒、片岩細粒②酸化焔③浅黄色④1/3	口縁部：S字状口縁。胴部外面ハケ目。内面撫で。	
47	H－16－床	台付甕 土師器	①［15.6］，②－，③8.9	①白色軟質粒②酸化焔③橙色④1/5	口縁部：外傾。胴部外面ハケ目。内面撫で。	
48	H－16－床	小型台付 甕・土師器	①9.2，②11.9，③6.2	①チャート礫（φ4～8㎜大少量）②酸化?良好③橙色④1/1	口縁部：外傾、内面ハケ目。体部・脚部外面ハケ目。	
49	H－16－床	小型台付 甕・土師器	①11.8，②－，③－	①チャート礫、白色微粒②酸化?③橙色④脚部破損	口縁部：外傾、内面ハケ目。体部外面ハケ目。	
50	H－16－床	甕 土師器	①［29.4］，②－，③－	①白色砂粒（φ1.5㎜大）少量②酸化焔③橙褐色灰色④1/8	口縁部：内彎気味に外傾。胴部：内外面磨き。	
51	H－16－床	壺 土師器	①－，②－，③8.7	①細砂粒多量②酸化焔③橙色④1/5	胴部：篦削り後ていねいな篦撫で。底部：木葉痕。	
52	H－16－床	壺 土師器	①11.6，②17.9，③5.1	①石英、角閃石、金雲母細粒少量②酸化焔③にぶい橙色④2/3	外面削り後撫で。	
53	H－16－床	器台 土師器	①8.3，②8.6，③11.2	①黄白色粒少量②酸化焔・良好③橙色④1/1	受け部：内面磨き。脚部:外面磨き	
54	H－18－床	坏 土師器	①13.2，②3.3，③－	①白色軟質粒、角閃石状の黒色光沢の柱状微粒少量②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底。	口縁部に油煙痕
55	H－18－床	坏 土師器	①13.5，②3.5，③－	①白色軟質粒、角閃石微粒②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底。	
56	H－18－床	坏 土師器	①13.2，②3.5，③－	①長石微粒、黒色微粒極少量②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底気味。	底部に墨書「大」。
57	H－18－床	坏 土師器	①12.9，②3.0，③－	①石英、角閃石微粒②酸化焔③橙色④3/4	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底。	
58	H－18－埋	坏 土師器	①13.2，②3.6，③－	①白色微礫少量（φ1㎜大）②酸化焔③橙色④底部一部欠損	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底気味。	
59	H－18－埋	坏 土師器	①13.3，②3.1，③－	①石英、角閃石微粒②酸化焔③橙色④2/3	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底気味。	

番号	遺構番号	器　種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　　徴	備　考
60	H－18－床	坏 土師器	①13.1，②－，③－	①石英*含む微粒②酸化焔良好③にぶい橙色④4/5	口縁部：内彎、横撫で。底部：削り。平底気味。	
61	H－18－床	蓋 須恵器	①18.2，②4.5，③摘み径3.3	①精良。黒色粒②還元焔③灰白色④1/1	天井部：一部回転篦削り調整。	重ね焼き痕
62	H－18－床	蓋 須恵器	①19.1，②4.2，③摘み径5.0	①長石礫少量、黒色粒②還元焔③灰色④1/1	リング状摘み。	
63	H－18－床	蓋 須恵器	①19.1，②3.3，③摘み径4.9	①長石小粒少量、微砂粒多量②還元焔③灰色④1/1	リング状摘み。	
64	H－18－埋	蓋 須恵器	①17.1，②4.4，③摘み径4.0	①黒色微粒②還元焔③灰色④1/1	天井部：一部回転篦削り調整。	
65	H－18－埋	蓋 須恵器	①［18.2］，②4.1，③摘み径3.6	①チャート・長石細粒黒褐色スコリア粒②還元焔③灰白色④3/4		
66	H－18－埋	小型壺 須恵器	①7.1，②6.6，③6.3	①精良、微砂粒②還元焔③灰色④1/1	底部回転糸切り。	
67	H－18－埋	甕 須恵器	①［21.9］，②－，③－	①長石を含む微砂粒②還元焔・やや不良③灰白色④1/2	胴部：外面に平行叩き後撫で。	
68	H－18－埋	不明鉄製品	外径：4.5内径3.5：厚さ：0.5重さ：25.1ｇ		リング状。断面方形。	
69	H－19－埋	坏 土師器	①11.7，②3.5，③－	①石英を含む微砂粒、チャート礫（φ5㎜大）②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	内外面黒色処理
70	H－19－埋	坏 土師器	①［12.4］，②［5.3］，③－	①角閃石か？黒色結晶粒・白色鉱物粒極少量②酸化焔③橙色④1/4	口縁部：内斜口縁、横撫で。体部～底部：押さえ・篦撫で。内面磨き。丸底。	
71	H－19－床	甕 土師器	①［12.6］，②－，③－	①石英を含む細砂粒（φ0.5㎜～以下）②酸化焔③明赤褐色④1/2	口縁部：外反。胴部：外面上半部磨き。下半部篦削り。	
72	H－19－埋	甕 土師器	①14.8，②－，③－	①白・灰色軟質粒（φ1㎜以下に）②酸化焔③浅黄橙色④1/3	口縁部：外反。胴部：外面撫で。	
73	H－19－床	甑 土師器	①17.2，②19.6，③8.7	①石英を含む細砂粒②酸化焔③明赤褐色④1/2	口縁部：外反。胴部：外面上半部篦撫で。下半部篦削り。	
74	H－21－埋	坏 須恵器	①［13.4］，②－，③－	①片岩細粒②還元焔③にぶい黄橙色④1/15	轆轤調整。口縁部：外傾。体部側面墨書文字。	墨書「□」
75	H－23－竈	女瓦	長さ－，幅－，厚さ2.2	①石英礫、安山岩岩片粒②還元焔③灰色	一枚作り。凸面撫で。端部面取り2回、側部面取り3回。	篦記号「卌」
76	H－23－埋	鏃子 鉄製品	全長：8.2幅0.65：厚さ：0.25重さ：8.23ｇ			
77	H－24－埋	坏 土師器	①10.7，②3.1，③－	①細粒多長石、角閃石、チャート？石英）②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：直立、横撫で。底部：削り。丸底。	
78	H－24－埋	坏 土師器	①［12.2］，②［5.3］，③－	①微砂粒②酸化焔③橙色④1/6	口縁部：内斜口縁、横撫で。体部～底部：外面篦削り。内面磨き。丸底。	
79	H－24－埋	坏 土師器	①11.4，②4.0，③－	①白色細粒少量②酸化焔③橙色④7/8	口縁部：外反、体部との境に稜を有す。体～底部：篦削り。丸底。	
80	H－26－埋	台付甕 土師器	①10.8，②－，③－	①微砂粒多量②酸化焔③黒褐色④6/7	口縁部：外傾。胴部外面ハケ目後磨き。内面撫で。	
81	H－27－埋	椀 土師器	①［14.4］，②－，③－	①チャート礫（φ1cm～数㎜大）②弱還元焔③にぶい黄色④1/3	轆轤調整。口縁部：外反。	高台はがれ
82	H－27－埋	坏 須恵器	①12.4，②4.0，③6.0	①石英微粒子②還元焔・やや焼成不良③にぶい黄橙色④ほぼ完形14/15	轆轤調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り。	
83	H－27－埋	坏 須恵器	①11.3，②3.5，③5.4	①石英を含む細砂粒②還元焔・やや焼成不良③灰黄色④完形	轆轤調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り。	
84	H－28A－貯	坏 須恵器	①13.8，②3.7，③7.5	①目立つ鉱物粒なし②還元焔・やや焼成不良③灰白色④ほぼ完形	轆轤調整。口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	
85	H－28A－床	坏 須恵器	①［14.5］，②5.2，③［6.6］	①石英微粒子多量②酸化焔③にぶい橙色④1/3	轆轤調整。口縁部：外傾。体部：内面黒色処理後篦磨き。底部：回転糸切り。	
86	H－28A－貯	椀 須恵器	①14.7，②4.7，③7.4	①片岩の大礫9㎜～6㎜）②還元焔③灰色④1/1	轆轤調整。口縁部：外傾。高台:短い付け高台で外側に開く。	

番号	遺構番号	器　種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　　徴	備　考
87	H－28A－床	椀 須恵器	①［14.0］，②5.0，③6.8	①片岩②還元焔③明オリーブ灰色④1/2	轆轤調整。口縁部：外反。高台:短い付け高台で外側に開く。	
88	H－28A－埋	椀 須恵器	①［22.4］，②10.5，③［10.0］	①石英・チャート粒を含む細砂粒②酸化焔③にぶい橙色④1/3	轆轤調整。口縁部：外反。高台:短い付け高台で外側に開く。	内面黒色処理、篦磨き。
89	H－28A－貯	三足盤 須恵器	①27.7，②－，③17.0	①白色軟質岩片粒②還元焔③黄灰色④脚部折損。	轆轤調整。口縁部：外反。三足。	
90	H－28A－埋	女瓦	長さ－，幅－，厚さ2.2	①②還元不良③灰黄色④		文字瓦「□□」
91	H－28B－床	坏 須恵器	①11.1，②3.6，③5.5	①チャート礫少量②還元焔やや瓦質の焼成③灰黄色④1/1	轆轤調整。口縁部：内彎。底部：回転糸切り。	
92	H－28B－竈	坏 須恵器	①［11.4］，②4.4，③［5.7］	①チャート粒（角丸）2㎜大少量②還元焔③黒色④1/5	轆轤調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り。	
93	H－28B－竈	椀 須恵器	①12.6，②5.2，③7.1	①石英・角閃石を含む微粒子②還元焔③浅黄色④3/5	轆轤調整。口縁部：外傾。高台:付け高台で外側に開く。	
94	H－28B－埋	ﾐﾆﾁｭｱ甕 土師器	①7.3，②7.0，③4.0	①目立つ鉱物粒なし②良好③浅黄橙色④1/1	口縁部：短く外反、横撫で。胴上半部：轆轤調整。下半外面削り。	
95	H－28B－埋	手付小瓶 緑釉陶器	①－，②－，③－	①緻密②還元焔③黄灰色④頸部破片		
96	H－28B－埋	刀子 鉄製品	全長：4.4幅：0.9厚さ：0.2重さ：6.44ｇ			
97	H－28B－埋	鋳造鉄片 鉄製品	全長：7.2幅：3.6厚さ：1.6重さ：129.50ｇ			
98	H－28B－埋	釘 鉄製品	全長：6.3幅：0.5厚さ：0.5重さ：4.21ｇ			
99	H－28B－埋	釘 鉄製品	全長：5.3幅：0.8厚さ：0.7重さ：17.07ｇ			
100	H－29－埋	坏 須恵器	①12.0，②3.3，③6.0	①石英を含む細砂粒②酸化焔③橙色④1/1	轆轤調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り。	口縁部油煙痕か
101	H－29－埋	高台付皿 須恵器	①［14.0］，②4.7，③9.3	①チャート礫、白・黒色微粒②酸化焔③浅黄橙色④2/3	轆轤調整。高台部：長く「ハ」の字に開く。	
102	H－29－埋	小皿 須恵器	①［11.0］，②2.3，③4.8	①橙～褐色粒②酸化焔③にぶい橙色④3/4	轆轤調整。口縁部：内彎。底部：回転糸切り。	
103	H－29－埋	椀 須恵器	①13.4，②6.6，③9.0	①チャート礫②酸化焔③淡黄色④3/4	轆轤調整。口縁部：内彎。高台部：回転糸切り。長く「ハ」の字に開く。	
104	H－29－埋	羽釜 須恵器	①［22.7］，②－，③－	①灰色岩片粒②還元焔③灰白色④1/10	轆轤調整。	
105	H－29－埋	椀 灰釉陶器	①－，②－，③8.0	①緻密②良好③灰白色④2/3	三日月高台	
106	H－29－埋	皿 青磁	①［16.0］，②－，③－	①緻密②良好・堅緻③淡緑色④1/8		
107	H－30－埋	甕 土師器	①19.7，②－，③－	①角丸、球状黒褐色粒（φ1㎜大）やや目立つ②酸化焔良好③にぶい橙色④4/5	口縁部：外反、横撫で。胴部：削り。	
108	H－30－埋	長胴甕 土師器	①21.3，②37.5，③5.3	①②酸化焔③浅黄橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。胴部：削り。	
109	H－30－埋	甕 土師器	①20.8，②［32.4］，③－	①石英砂粒を含む②酸化焔③にぶい橙色④4/5		
110	H－30－埋	女瓦	長さ－，幅－，厚さ2.3	①細砂粒②酸化焔③にぶい黄橙色④	凸面撫で。叩き文字。側部面取り3回。	叩き文字「山田」
111	H－31－埋	小形鉢 土師器	①［8.5］，②7.0，③4.2	①片岩粒3、石英粒②弱還元、不良③灰白色④1/1	口縁部：短く外反。胴上半部：轆轤調整。下半外面削り。	高台はがれ
112	H－31－床	椀 須恵器	①12.7，②5.3，③6.8	①石英微粒②酸化焔③橙色④1/1	轆轤調整。口縁部：外反。断面三角形の低高台	
113	H－31－床	椀 灰釉陶器	①15.1，②5.0，③8.3	①緻密②還元焔③淡黄色④2/3	三日月高台	
114	H－31－床	長頸瓶 灰釉陶器	①－，②－，③5.7	①緻密②還元焔③灰色④1/1	短い高台	
115	H－31－竈	女瓦	長さ37.3，幅26.0，厚さ2.0	①②還元不良③灰色④－		
116	H－31－埋	紡錘車 鉄製品	全長：18.5円盤径：5.3円盤厚さ：0.2茎部厚さ：0.5重さ：44.89ｇ			
117	H－31－埋	釘 鉄製品	全長：5.4幅：0.8厚さ：0.5重さ：10.46ｇ			

番号	遺構番号	器　種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　　徴	備　考
118	H－31－埋	釘 鉄製品	全長：6.0幅：0.8厚さ：0.5重さ：7.94 g			
119	H－32－埋	鉄斧 鉄製品	全長9.0：刃部幅4.5：厚さ：0.7重さ：163.44 g		曲刃。	
120	H－33－床	椀 須恵器	①16.0，②5.2，③8.0	①長石粒・チャート礫②還元焔③灰白色④ほぼ完形	轆轤調整。口縁部：外反。高台:断面逆三角形の付け高台。	
121	H－33－床	椀 須恵器	①［16.5］，②5.8，③7.3	①長石を含む微砂粒②還元焔③灰白色④1/3	轆轤調整。口縁部：外反。高台:断面逆三角形の付け高台。	内底面に篦記号「×」
122	H－33－床	椀 須恵器	①［14.0］，②6.1，③7.0	①長石礫、灰色岩片②還元焔・やや軟質③オリーブ灰色④2/3	轆轤調整。口縁部：内彎。高台:付け高台で外側に短く開く。	
123	H－34－埋	釘 鉄製品	全長：6.5幅：1.3厚さ：1.0重さ：8.14 g			
124	H－35－埋	唾壺 緑釉陶器	①［20.0］，②－，③［7.6］	①緻密、小気泡②良好③オリーブ黄色④1/6	口縁部：外反。	
125	H－35－埋	鉄鏃 鉄製品	全長：7.7鏃身部長：1.6鏃身部幅1.2：厚さ：0.2重さ：10.20 g			
126	H－37－床	甕 土師器	①13.7，②18.0，③5.3	①細砂粒②酸化焔③明褐灰色④		
127	H－39－埋	坏 須恵器	①［12.3］，②4.1，③5.1	①チャート粒（φ1mm大）②酸化焔③にぶい黄色④2/3	轆轤調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り。	口縁部に油煙痕
128	H－40－埋	台付甕 土師器	①［14.6］，②－，③－	①チャート角丸礫極少量②酸化焔③にぶい黄色④1/3	口縁部：S字状口縁。胴部外面ハケ目。内面撫で。	
129	H－42－埋	椀 須恵器	①［14.2］，②4.5，③5.3	①黒色粒②還元焔③灰白色④3/5	轆轤調整。口縁部：外傾。	高台剥がれ。
130	H－42－床	椀 須恵器	①16.7，②5.8，③8.3	①黒褐色粒・同砂礫②還元焔③灰白色④4/5	轆轤調整。口縁部：外反。断面三角形の高台	
131	H－42－床	椀 須恵器	①15.0，②6.8，③6.8	①長石・石英細粒②未還元③灰色④2/3	轆轤調整。口縁部：外反。低高台	重ね焼き痕
132	H－42－床	椀 須恵器	①［12.9］，②4.7，③7.1	①チャート・角閃石細粒②還元やや甘い③灰白色④1/3	轆轤調整。口縁部：外反。低高台で外傾。	
133	H－43－埋	紡錘車 石製品	径：5.3厚さ：1.7孔径：1.0重さ：66.07 g			
134	H－44－埋	椀 須恵器	①［16.0］，②6.6，③8.1	①細砂粒②酸化焔③橙色④1/2	轆轤調整。口縁部：外反。	
135	H－44－床	高台付盤 須恵器	①－，②，③－［17.5］	①チャート礫、砂粒②酸化焔③にぶい橙色④高台部片	轆轤調整。脚部：長く「ハ」の字に開く。	
136	H－44－埋	不明銅製品	全長：幅：厚さ：重さ：11.93 g			
137	H－45－埋	坏 須恵器	①11.6，②3.9，③5.0	①チャート・角丸礫(4mm大)②酸化焔③にぶい橙色④2/3	轆轤調整。口縁部：外傾。底部回転糸切り離し。	
138	H－45－埋	坏 須恵器	①10.1，②3.4，④4.0	①チャート・橙色粒（2mm以下）石英・輝石？を含む微粒多量②酸化焔③浅黄橙色④1/3	轆轤調整。口縁部：外傾。底部回転糸切り離し。	
139	H－45－埋	皿 須恵器	①11.0，②2.7，③7.0	①チャート礫②酸化焔③橙色④1/1	轆轤調整。口縁部：外傾。高台「ハ」の字に開く。	
140	H－45－埋	羽釜 須恵器	①［19.9］，②－，③－	①片岩粒②還元焔③灰黄褐色④口縁部片		
141	H－47－床	坏 土師器	①12.0，②4.5，③－	①石英を含む微粒子多量②酸化焔③にぶい橙色④1/1	口縁部：直立､体部との境に稜を有す。体～底部：篦削り。丸底。	黒色土器
142	H－47－埋	鐙瓦	①，②，③厚さ1.8	①片岩小粒，白色軽石細粒，②還元・良好③灰色④	単弁５葉蓮華文。中房子葉は１＋５。	
143	H－48－埋	白玉 石製品	径：1.1厚さ：0.5孔径：0.3重さ：0.91 g		滑石製	
144	H－50－床	甕 土師器	①16.7，②26.0，③5.5	①石英を含む微粒子②酸化焔③にぶい黄橙色④1/1	口縁部：外反。胴部:外面削り後撫で。下端篦削り。底部：木葉痕。	
145	H－51－床	壺 土師器	①11.4，②12.0，③－	①白色粒や角閃石？等を含む細砂粒多量②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：短く外傾。胴部：磨き。	
146	H－51－床	甑 土師器	①［23.0］，②27.0，③9.8	①細砂粒多量②酸化焔③橙色④2/3	口縁部：短く外反。胴部：削り。	
147	H－52－床	坏 須恵器	①11.4，②5.0，③4.9	①チャート礫（4mm大）極少量②中間焔③に黒～灰白色④2/3	轆轤調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り。	
148	H－52－床	椀 須恵器	①13.6，②5.1，③7.2	①長石主体の微砂粒多量②還元焔③灰白色④1/1	轆轤調整。口縁部：外反。高台:付け高台で外側に短く開く。	
149	H－52－床	椀 須恵器	①14.2，②5.8，③6.2	①黒褐色スコリア粒（φ3mm大）②還元焔③灰白色④1/1	轆轤調整。口縁部：外反。高台:付け高台で短い。	体部外面に墨書「凰」

番号	遺構番号	器　種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　　徴	備　考
150	H－52－床	椀 須恵器	①13.9，②5.4，③6.3	①石英砂粒多量②還元焔③灰色④2/3	轆轤調整。口縁部：外反。高台:付け高台で短い。	
151	H－55－埋	坏 土師器	①11.9，②4.3，③－	①チャート・長石②酸化焔良好③橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
152	H－56－床	小型甕 土師器	①11.9，②4.3，③6.0	①細砂粒多量②還元焔③灰褐色④		
153	H－58－埋	蓋 須恵器	①17.0，②2.5，③摘み径4.9	①黒色粒②還元焔③灰白色④3/4		転用硯
154	D－10－埋	椀 須恵器	①15.2，②5.2，③7.2	①細砂粒多量②酸化焔③にぶい黄橙色④9/10	轆轤調整。口縁部：内湾気味に外傾。高台：付け高台で外側に開く。	
155	D－10－埋	椀 須恵器	①［14.4］，②6.2，③7.8	①輝石か角閃石微粒を含んだ微粒子多量②還元焔③浅黄色④3/4	轆轤調整。口縁部：内湾。体部：内面黒色処理、篦磨き。高台：付け高台で外側に開く。	
156	W－2－埋	灯明皿 土師質土器	①10.9，②1.7，③5.6	①細粒中量②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：外傾。底部：回転糸切り。平底。	
157	遺構外	椀 緑釉陶器	①［12.0］，②－，③－	①緻密、軟質②良好③浅黄色④1/8	口縁部片	
158	遺構外	皿 緑釉陶器	①［16.0］，②－，③－	①緻密、軟質②良好③緑～オリーブ黄色④1/8	口縁部片	被熱痕
159	遺構外	托 緑釉陶器	①［14.0］，②［2.4］，③［5.8］	①緻密、小気泡②弱い還元③緑色④	低い三日月高台。内面に受け部が付く。	被熱痕
160	遺構外	壺 須恵器	①－，②－，③－	①石英細粒極少量・灰色砂粒極少量（チャートか）②堅緻③暗灰色④胴部片	胴部：上位に凸帯が廻る。	
161	遺構外	鐙瓦	①直径17.0，②，③厚さ2.4	①石英・角閃石微粒②還元焔③にぶい橙色④脚部片		
162	遺構外	土偶	①－，②－，③－	①石英・角閃石微粒②良好③にぶい橙色④脚部片	脚部：刺突文。	
163	遺構外	深鉢 縄文土器	①－，②－，③－	①透明微粒（石英か）を含む微砂粒②酸化焔③灰褐色④-	魚鱗文。	

引用文献

群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)』

群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)』

群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991　『上野国分僧寺・尼寺中間地域(5)』

群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992　『上野国分僧寺・尼寺中間地域(8)』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000　『元総社小見遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社小見内Ⅲ遺跡』

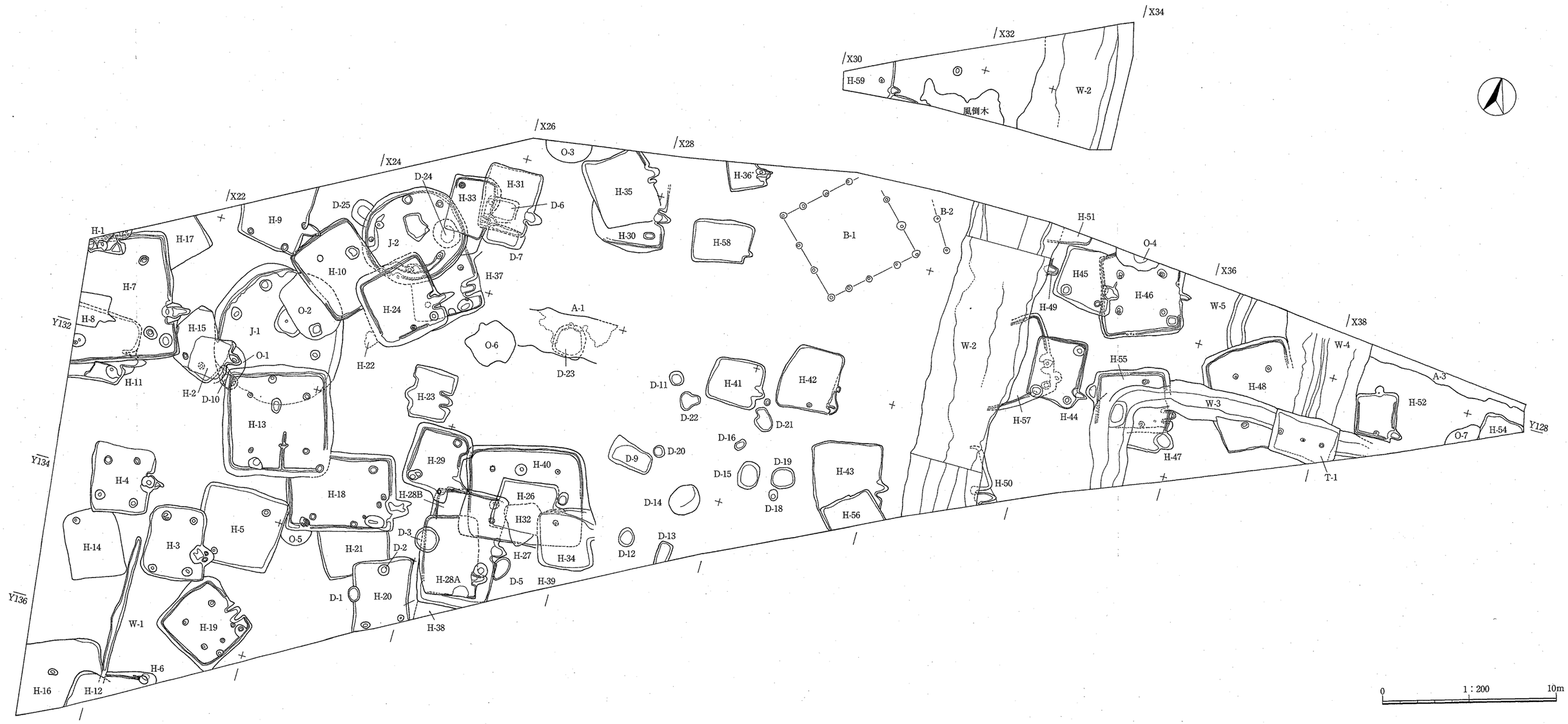
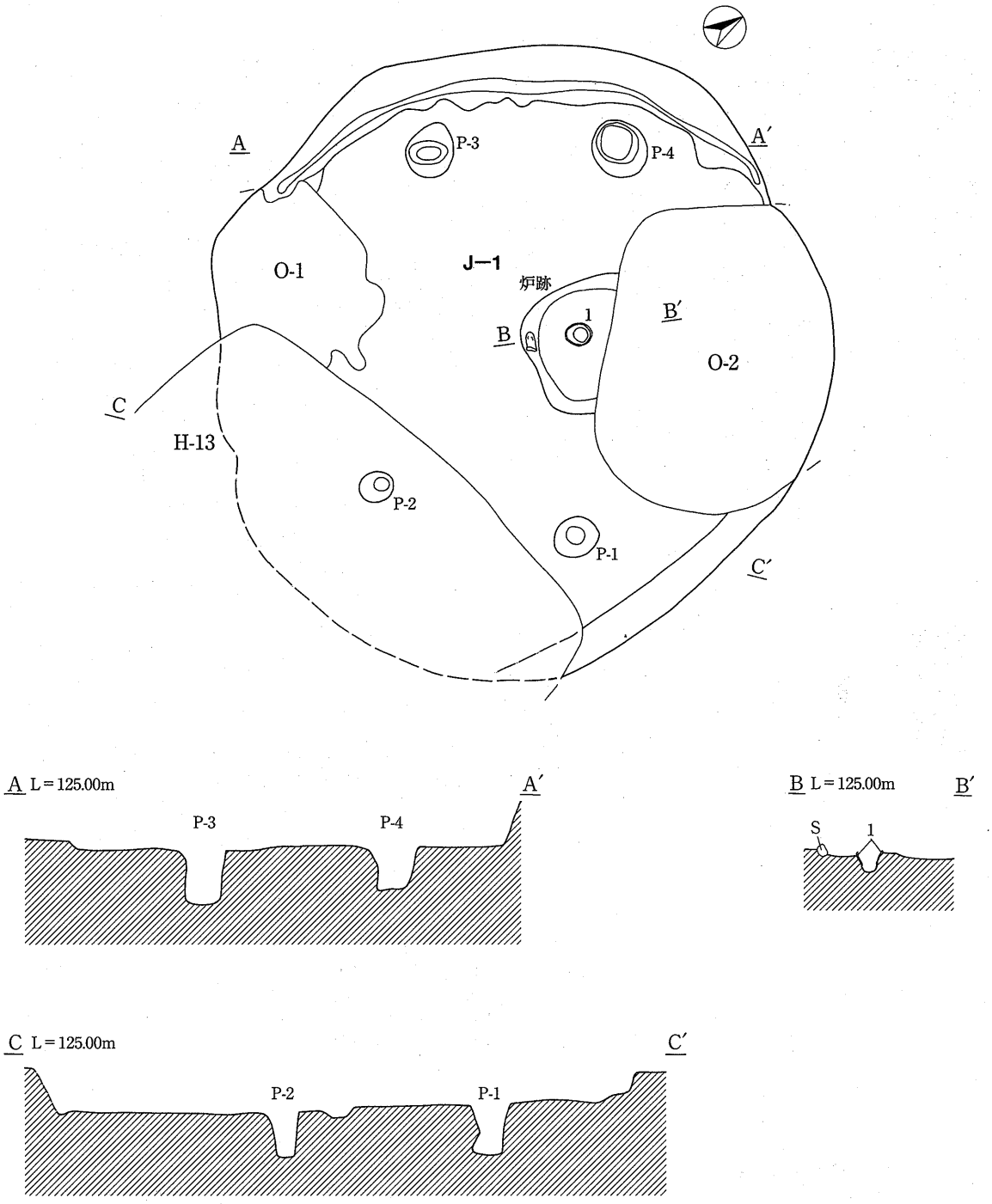


Fig. 7　元総社小見Ⅱ遺跡全体図

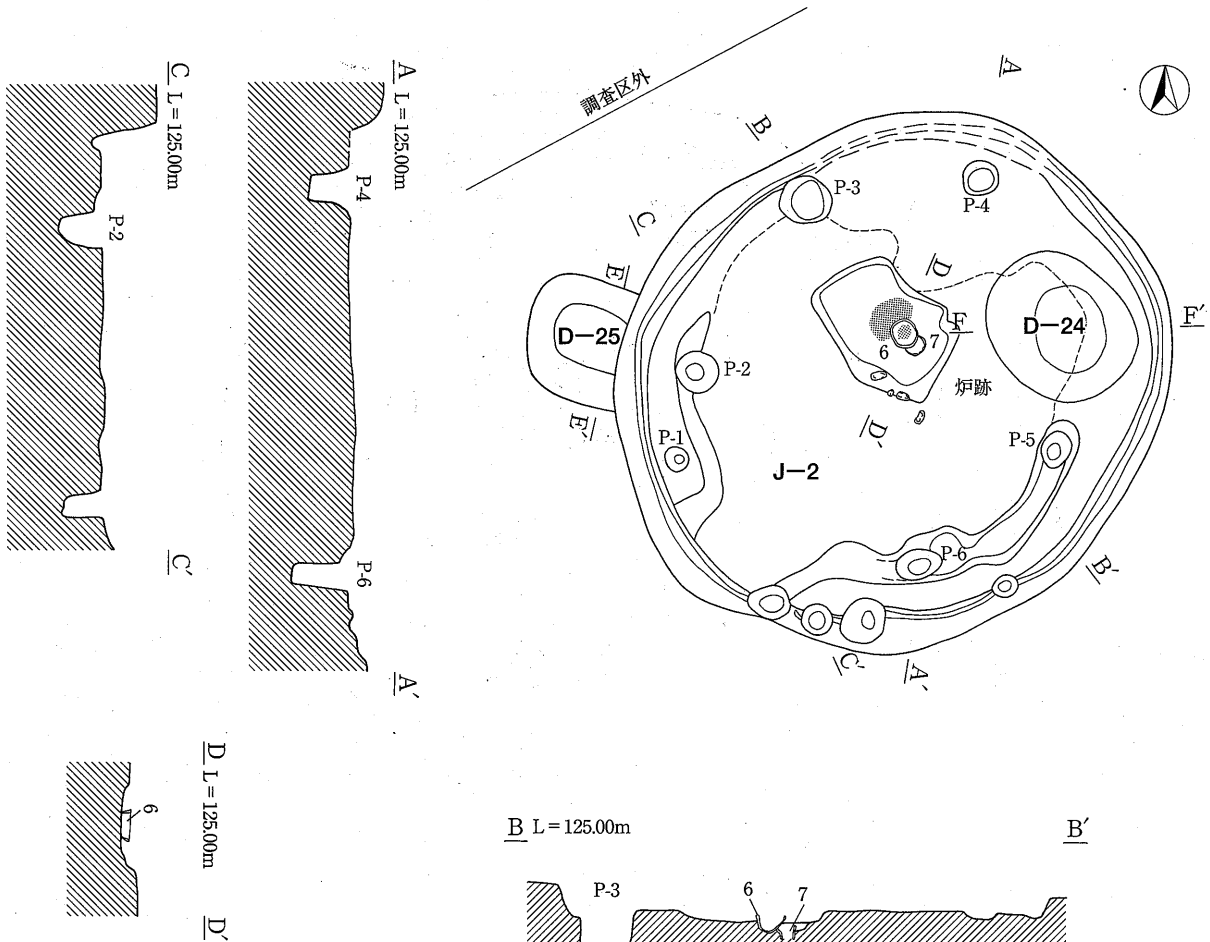


J－1号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.55	0.51	0.63
P-2	0.43	0.39	0.55
P-3	0.72	0.59	0.66
P-4	0.70	0.64	0.52

0　1：80　2 m

Fig. 8　J－1号住居跡



J－2号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

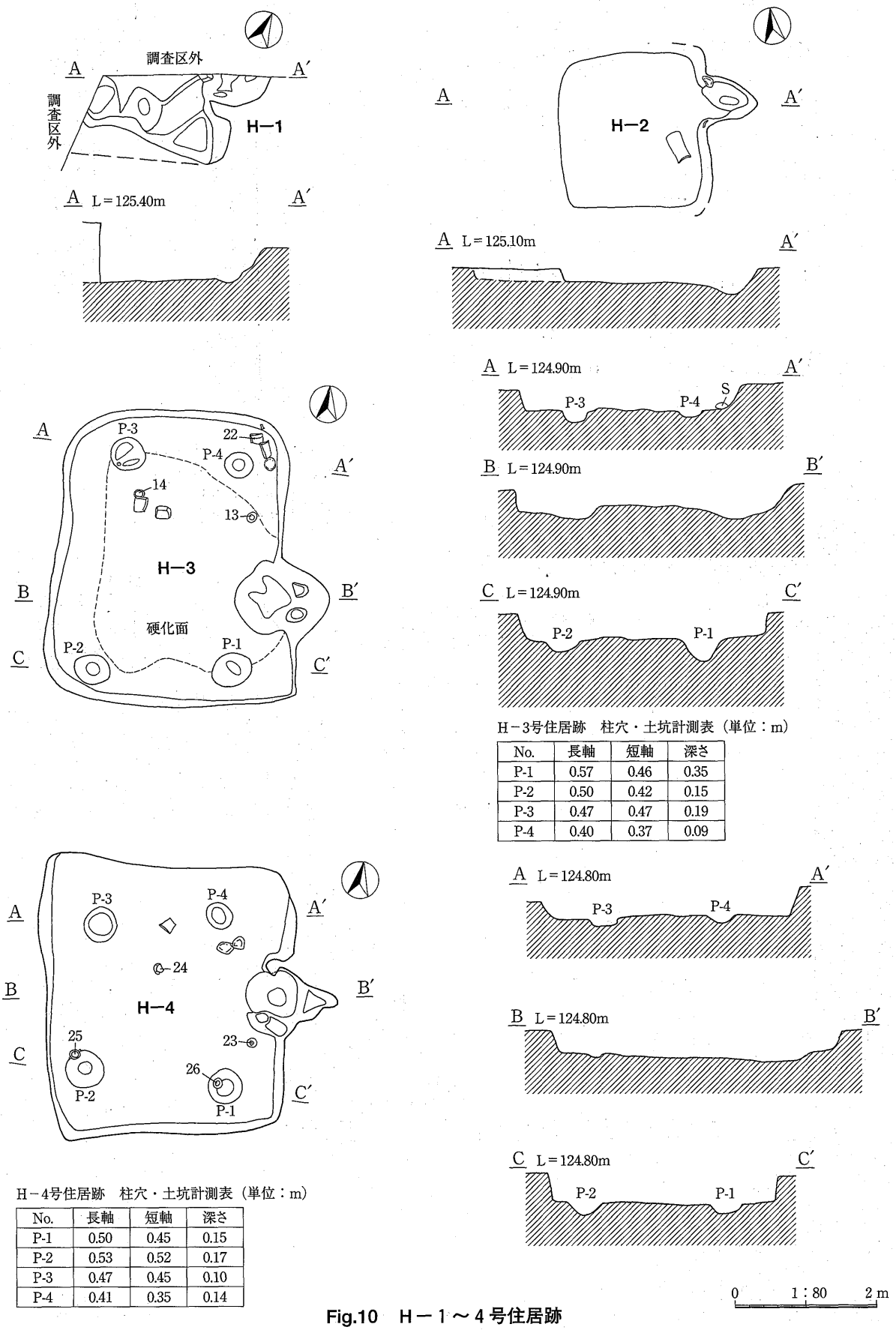
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.25	0.25	0.27
P-2	0.48	0.42	0.45
P-3	0.54	0.50	0.43
P-4	0.40	0.37	0.44
P-5	0.40	0.31	0.26
P-6	0.49	0.33	0.66

D−25号土坑
1　黒色土　　焼土粒中量・白色細粒中量含む。しまりあり
2　黒褐色土　　白色細粒中量含む。しまりあり。

D−24号土坑
1　黒褐色土　　軽石粒少量、小石（φ1～2㎝）少量含む。褐色砂粒少量。
2　黒色土　　軽石細粒・オレンジ色細粒を含む。固くしまりあり。

0　1：80　2 m

Fig. 9　J－2号住居跡



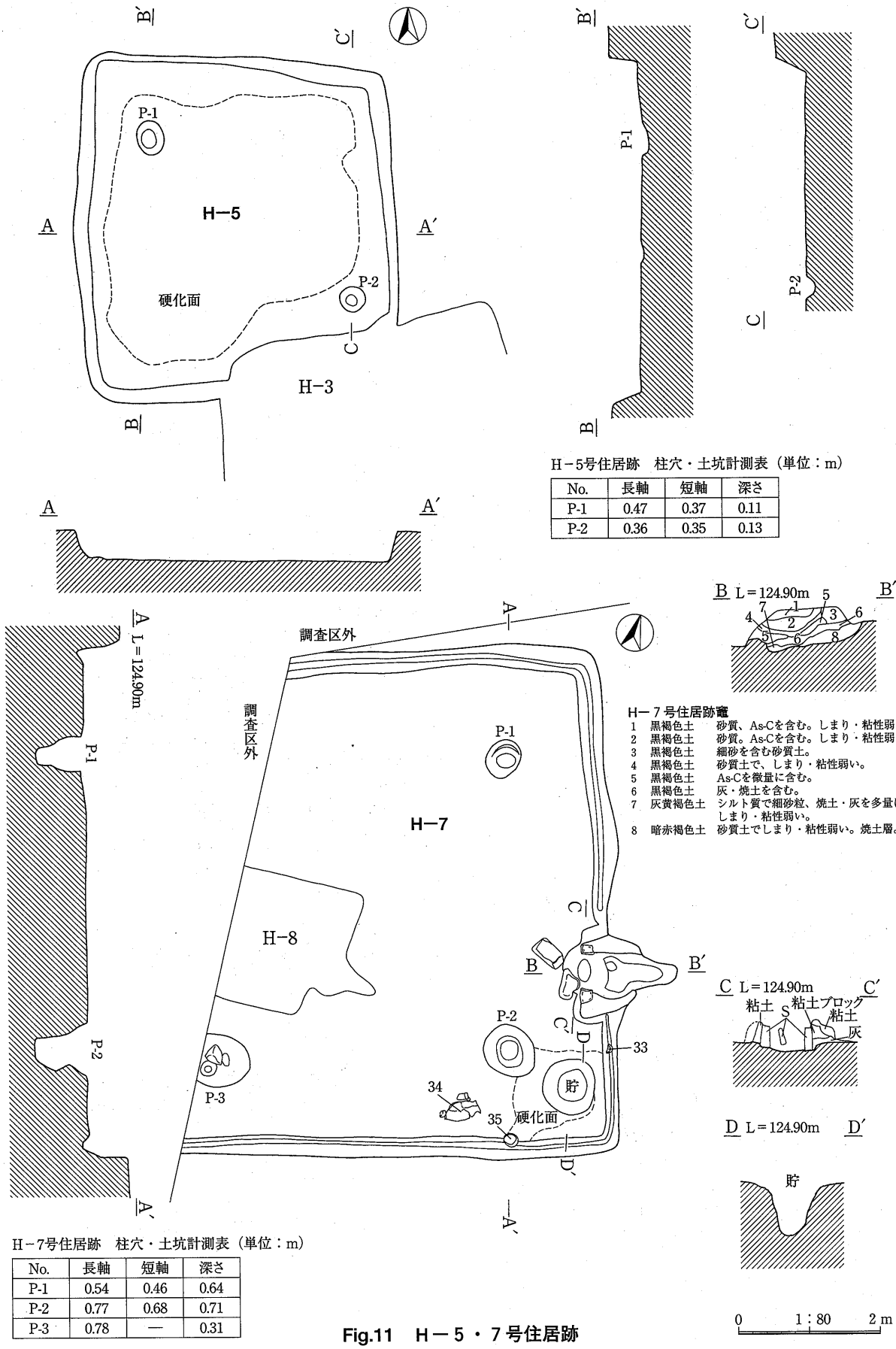
H−3号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.57	0.46	0.35
P-2	0.50	0.42	0.15
P-3	0.47	0.47	0.19
P-4	0.40	0.37	0.09

H−4号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.50	0.45	0.15
P-2	0.53	0.52	0.17
P-3	0.47	0.45	0.10
P-4	0.41	0.35	0.14

Fig.10　H−1〜4号住居跡



H−5号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.47	0.37	0.11
P-2	0.36	0.35	0.13

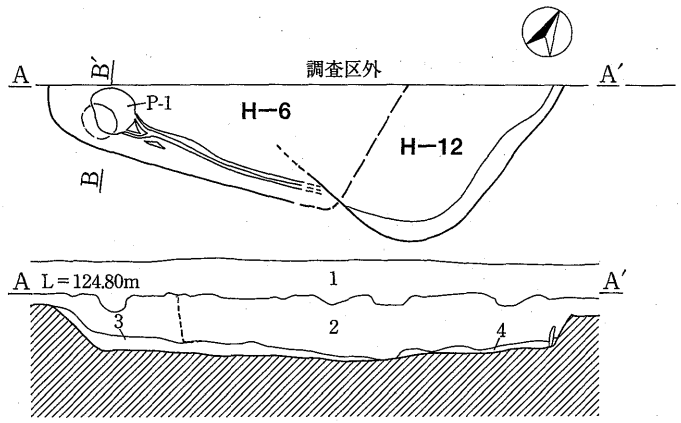
H−7号住居跡竈

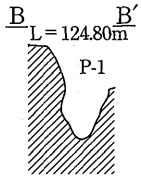
1　黒褐色土　砂質、As-Cを含む。しまり・粘性弱い。
2　黒褐色土　砂質。As-Cを含む。しまり・粘性弱い。
3　黒褐色土　細砂を含む砂質土。
4　黒褐色土　砂質土で、しまり・粘性弱い。
5　黒褐色土　As-Cを微量に含む。
6　黒褐色土　灰・焼土を含む。
7　灰黄褐色土　シルト質で細砂粒、焼土・灰を多量に含む。しまり・粘性弱い。
8　暗赤褐色土　砂質土でしまり・粘性弱い。焼土層。

H−7号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.54	0.46	0.64
P-2	0.77	0.68	0.71
P-3	0.78	—	0.31

Fig.11　H−5・7号住居跡

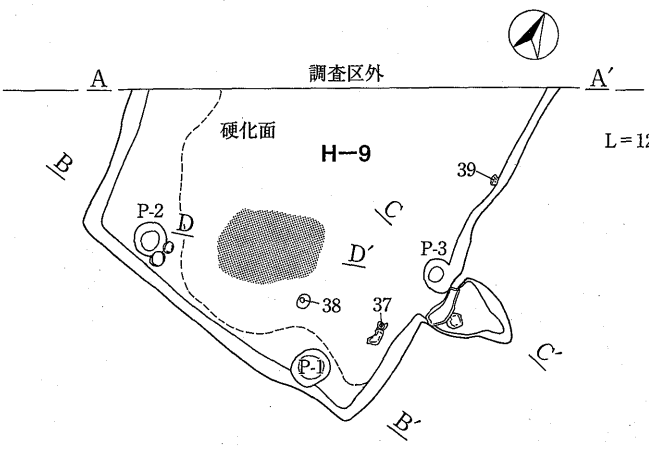


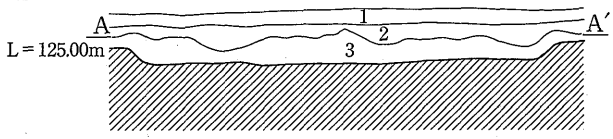


H−6・12号住居跡
1　黒褐色土　耕作土
2　黒褐色土　As-Bを少量含む、しまり弱く粘性も弱い。
　　12号住居の埋土。
3　黒褐色土　シルト質で、しまり弱い。
4　黒褐色土　シルト質で、しまり弱い。

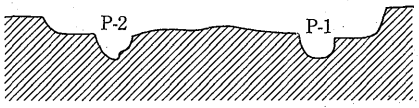
H−6号住居跡　柱穴・土坑計測表(単位:m)

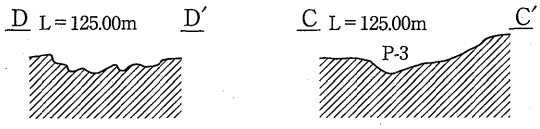
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.48	0.42	0.62





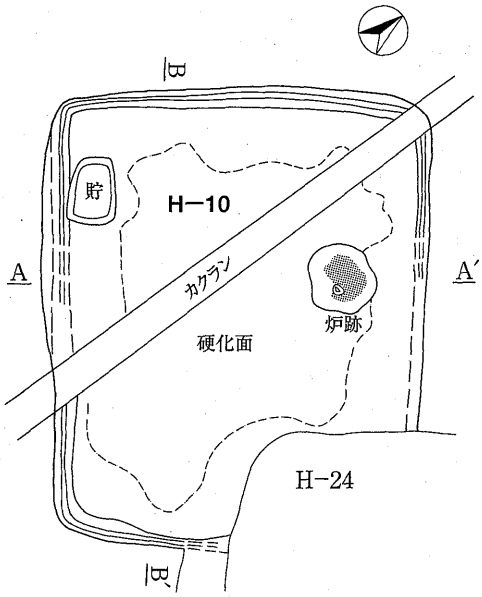
H−9号住居跡
1　耕作土。
2　黒褐色土　砂質。As-B含む、しまり・粘性弱い。
3　黒褐色土　細砂〜砂質。しまり・粘性弱い。

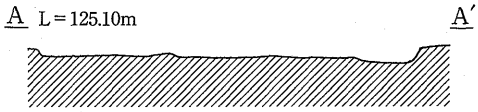


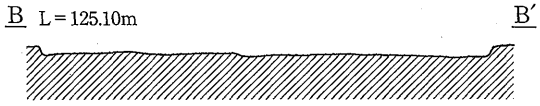


H−9号住居跡　柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.41	0.37	0.22
P-2	0.35	0.34	0.25
P-3	0.37	—	0.26

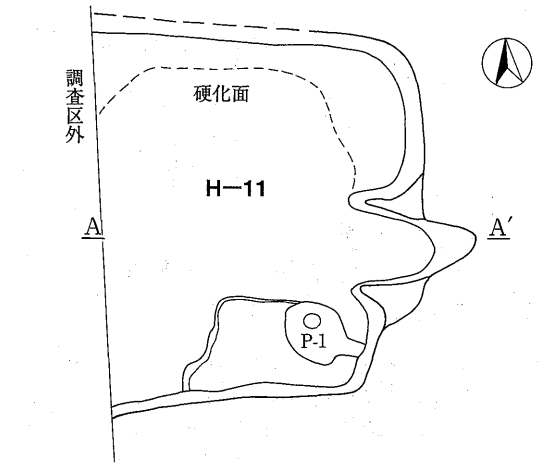


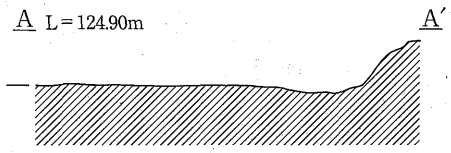




0　1:80　2 m

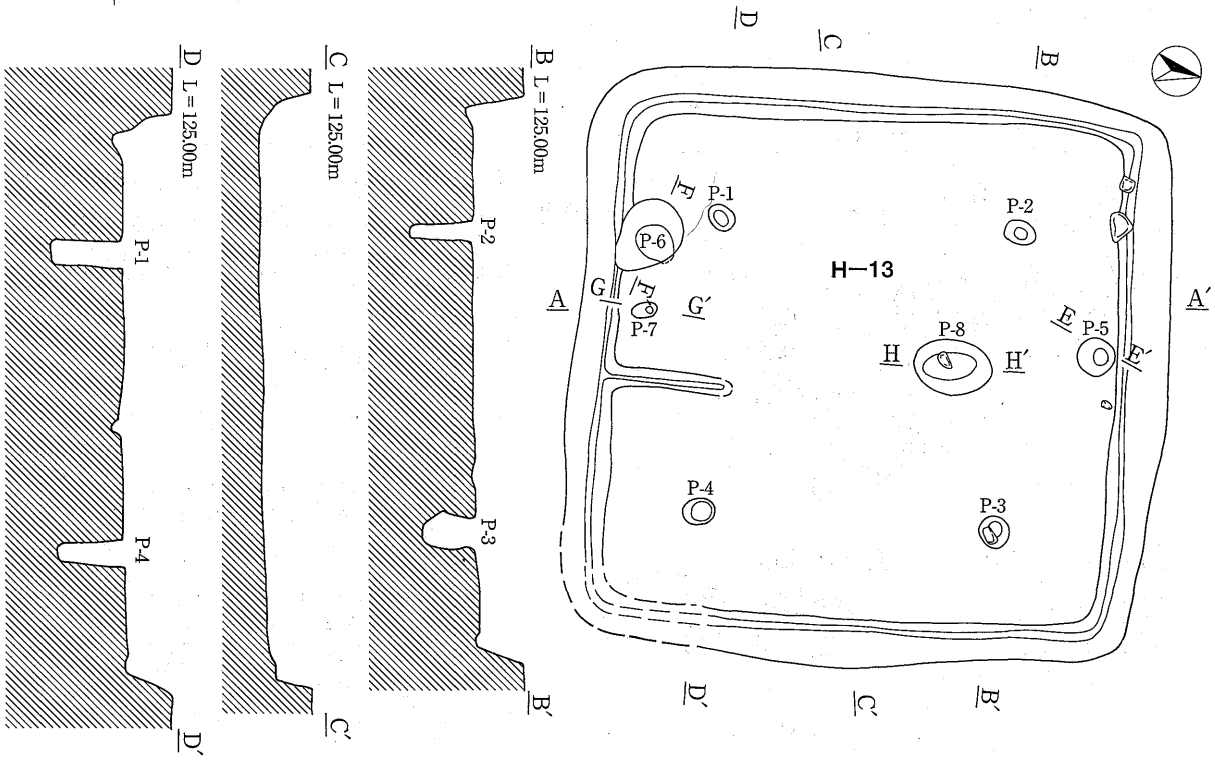
Fig.12　H−6・9・10・12号住居跡





H－11号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

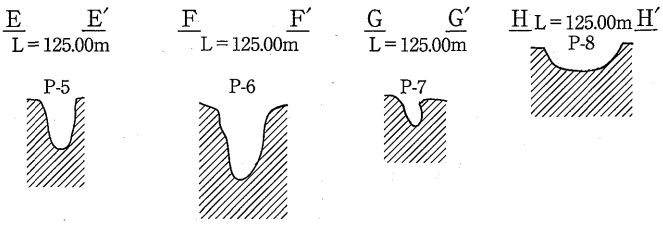
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.70	0.59	0.11



H—13号住居跡
1　黒褐色土　FA・灰白～灰黄色土ブロックを含む。しまりあり、粘性弱い。
2　黒色土　砂質土でしまり弱く粘性も弱い。
3　黒褐色土　砂質土でしまり弱く粘性も弱い。

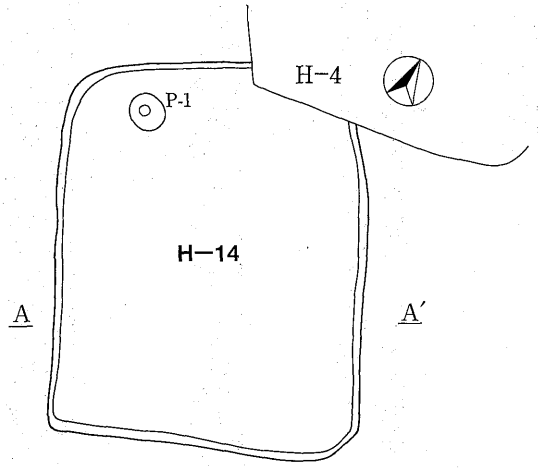
H－13号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

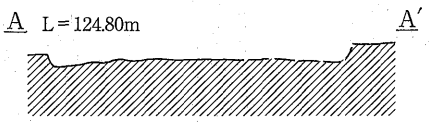
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.29	0.26	0.76
P-2	0.34	0.25	0.68
P-3	0.34	0.33	0.57
P-4	0.31	0.29	0.71
P-5	0.39	0.38	0.59
P-6	0.72	0.64	0.84
P-7	0.28	0.16	0.28
P-8	0.55	0.84	0.14



0　1：80　2 m

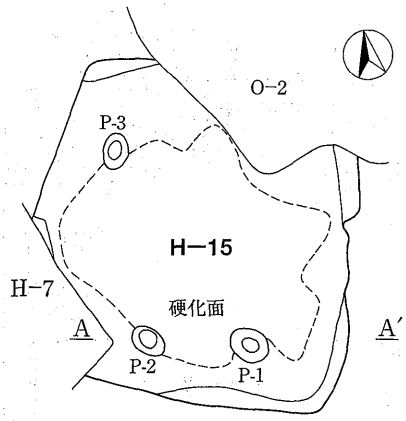
Fig.13　H—11・13号住居跡

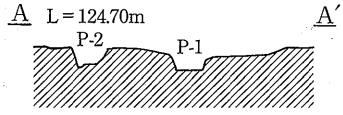




H－14号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

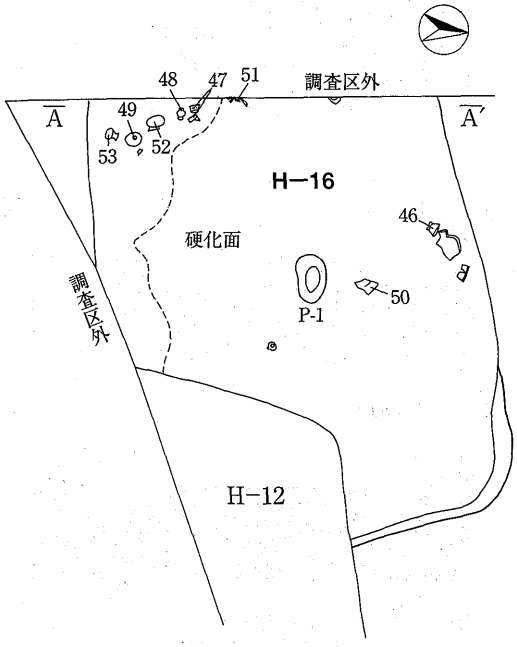
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.41	0.35	0.13

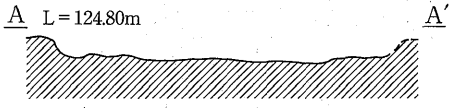




H－15号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

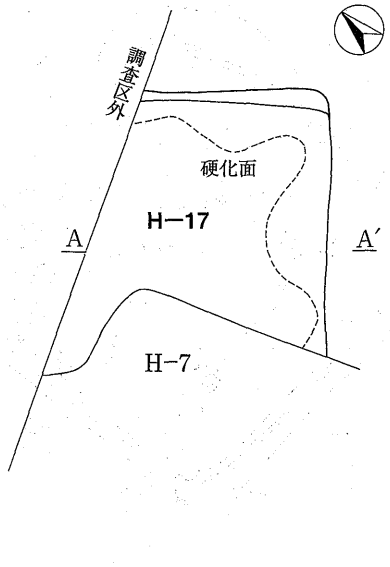
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.42	0.34	0.12
P-2	0.32	0.30	0.18
P-3	0.37	0.20	0.16

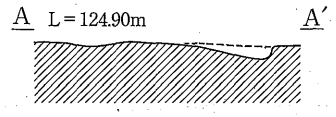




H－16号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.55	0.30	0.07





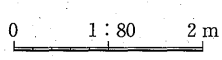
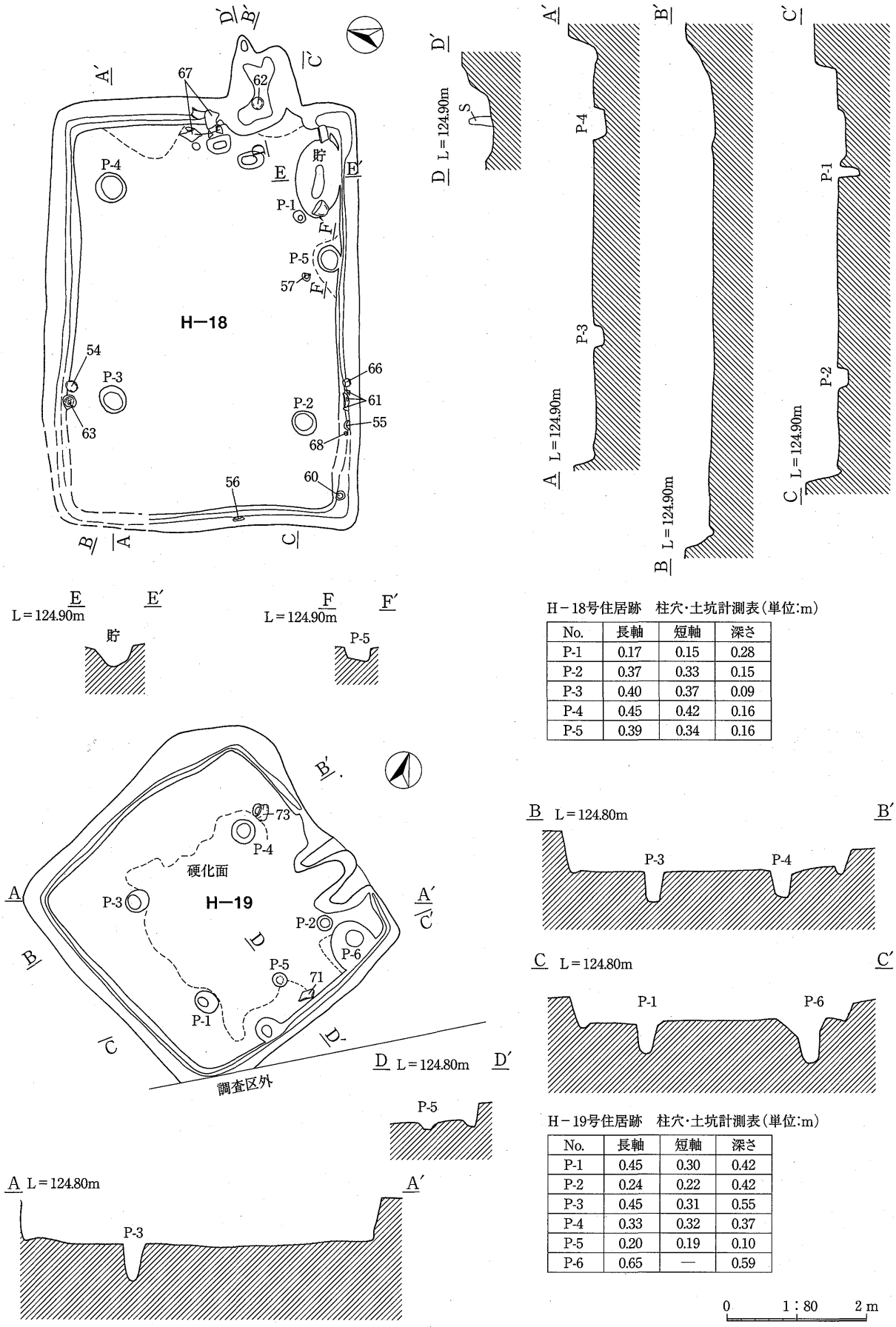


Fig.14　H－14～17号住居跡



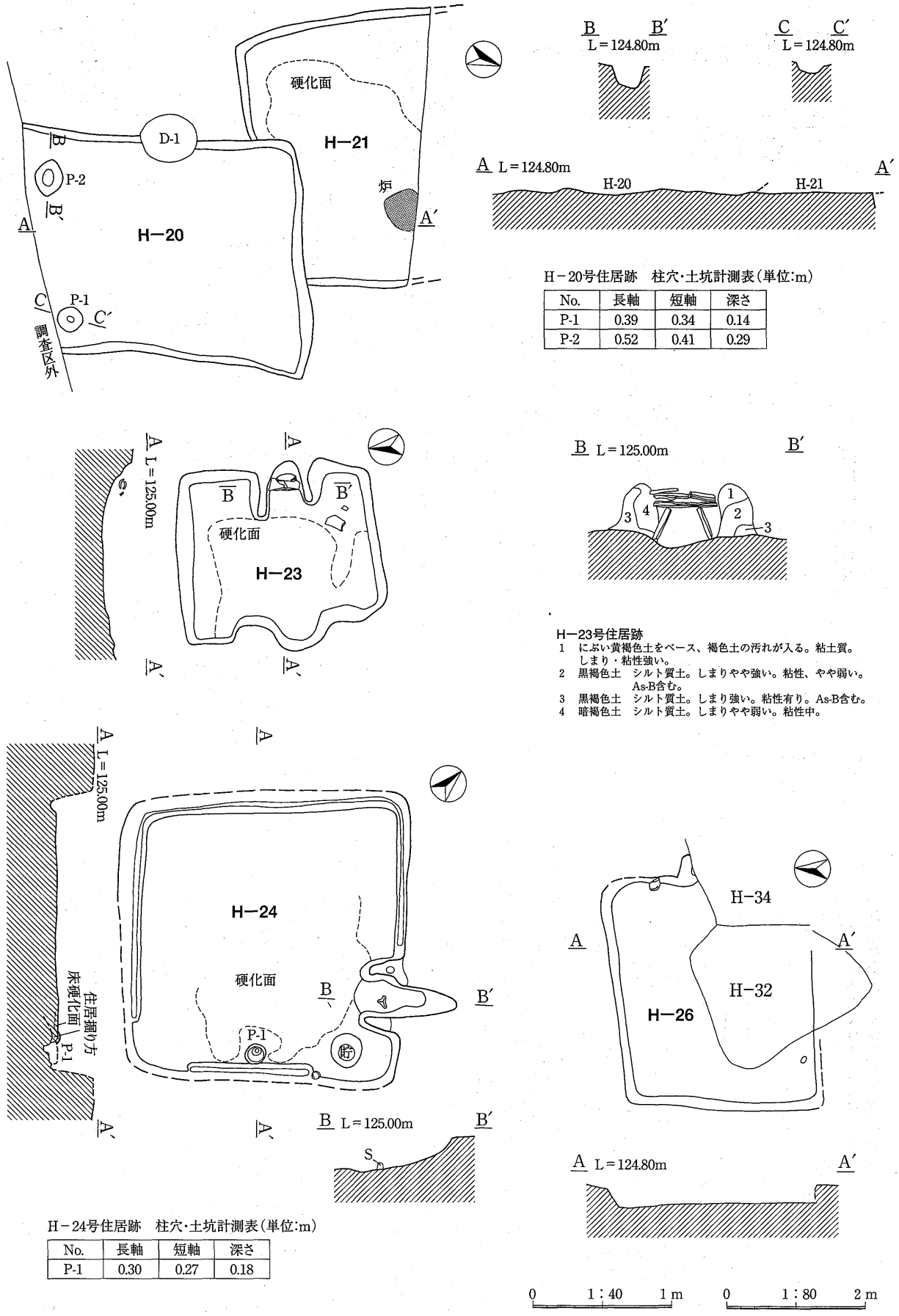
H−18号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.17	0.15	0.28
P-2	0.37	0.33	0.15
P-3	0.40	0.37	0.09
P-4	0.45	0.42	0.16
P-5	0.39	0.34	0.16

H−19号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.45	0.30	0.42
P-2	0.24	0.22	0.42
P-3	0.45	0.31	0.55
P-4	0.33	0.32	0.37
P-5	0.20	0.19	0.10
P-6	0.65	—	0.59

Fig.15　H−18・19号住居跡



H−20号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.39	0.34	0.14
P-2	0.52	0.41	0.29

H−23号住居跡
1　にぶい黄褐色土をベース、褐色土の汚れが入る。粘土質。しまり・粘性強い。
2　黒褐色土　シルト質土。しまりやや強い。粘性、やや弱い。As-B含む。
3　黒褐色土　シルト質土。しまり強い。粘性有り。As-B含む。
4　暗褐色土　シルト質土。しまりやや弱い。粘性中。

H−24号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.30	0.27	0.18

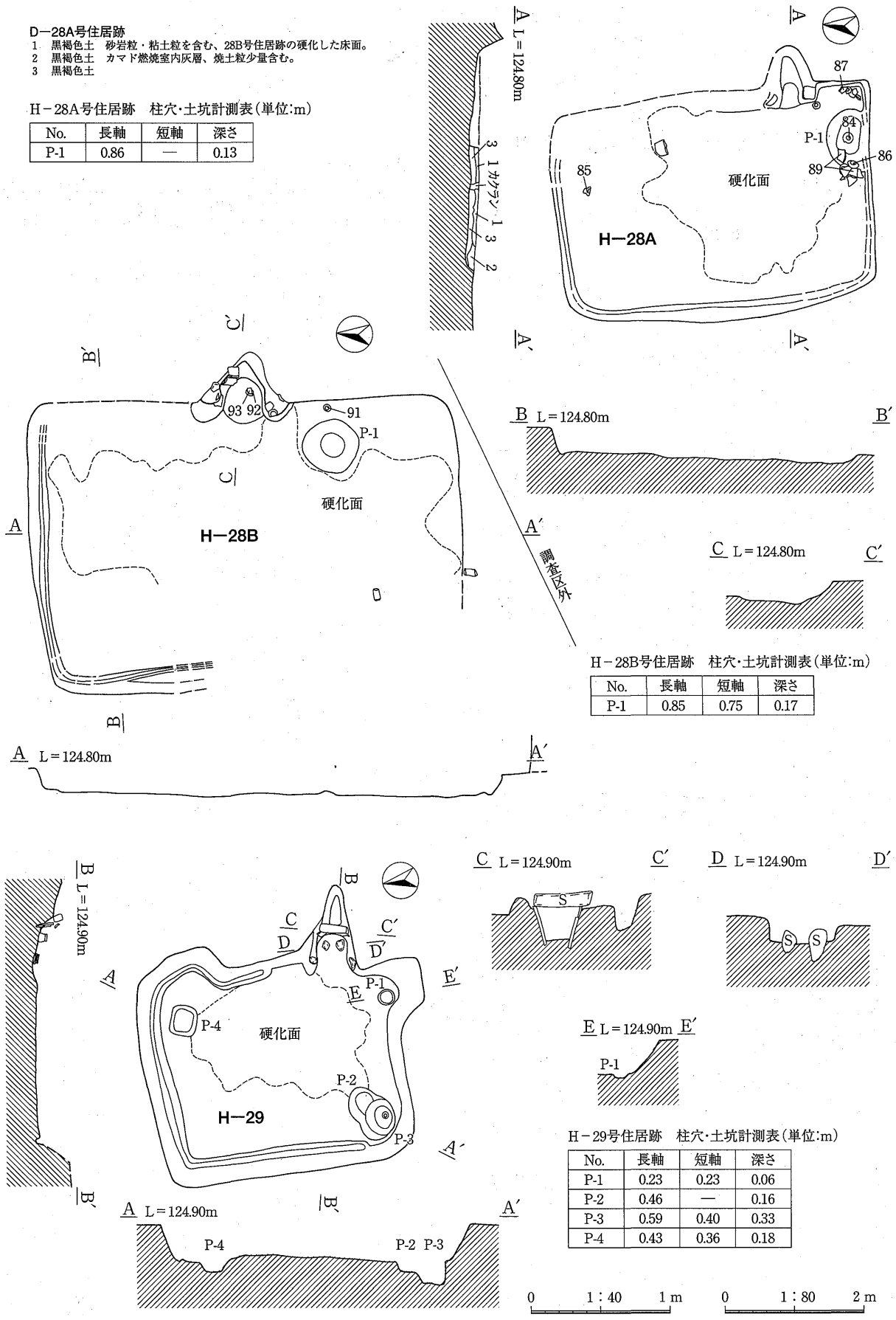
0　1:40　1 m　　0　1:80　2 m

Fig.16　H−20・21・23・24・26号住居跡

D—28A号住居跡
1　黒褐色土　砂岩粒・粘土粒を含む、28B号住居跡の硬化した床面。
2　黒褐色土　カマド燃焼室内灰層、焼土粒少量含む。
3　黒褐色土

H－28A号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.86	—	0.13



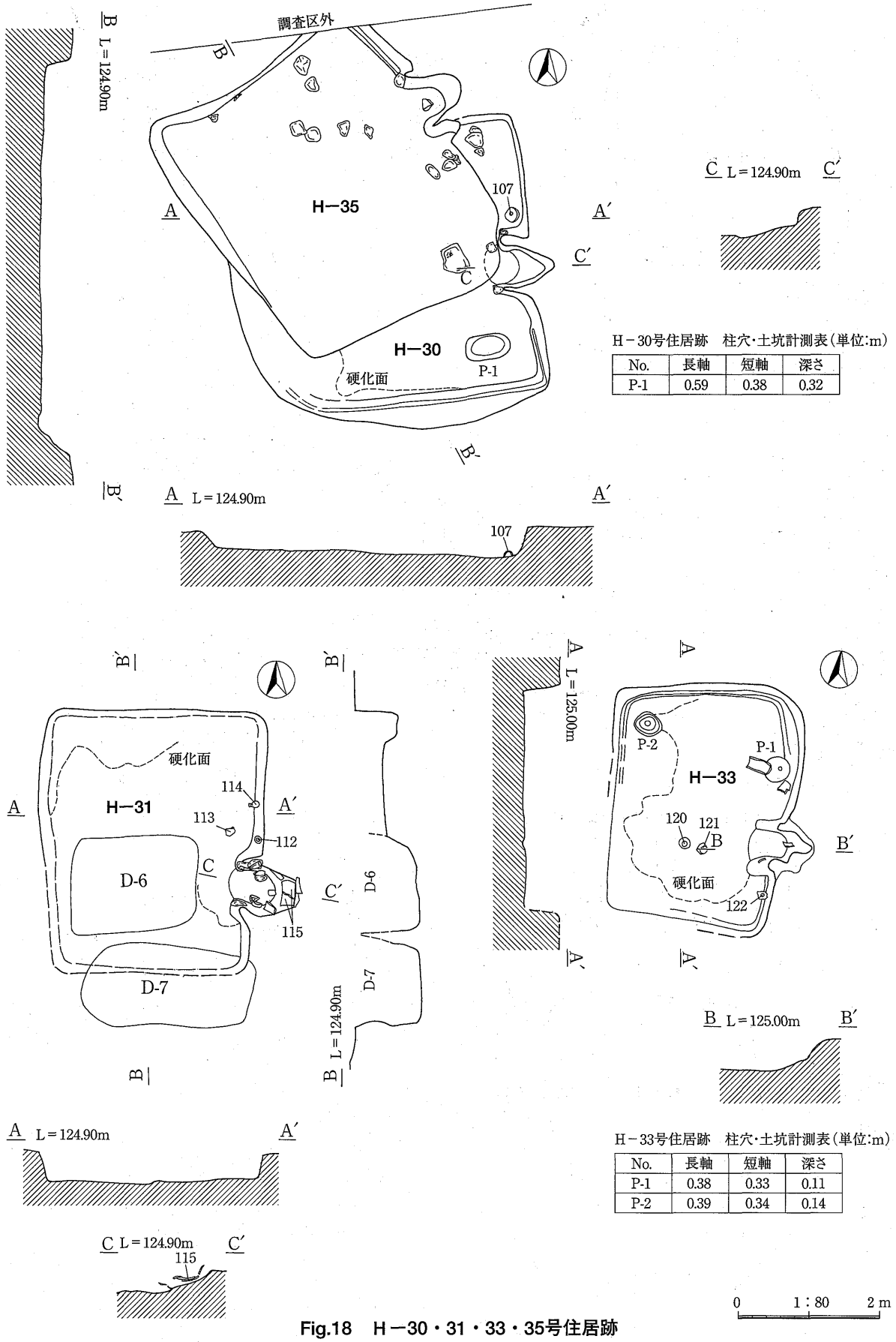
H－28B号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.85	0.75	0.17

H－29号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.23	0.23	0.06
P-2	0.46	—	0.16
P-3	0.59	0.40	0.33
P-4	0.43	0.36	0.18

Fig.17　H—28A・28B・29号住居跡



H−30号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

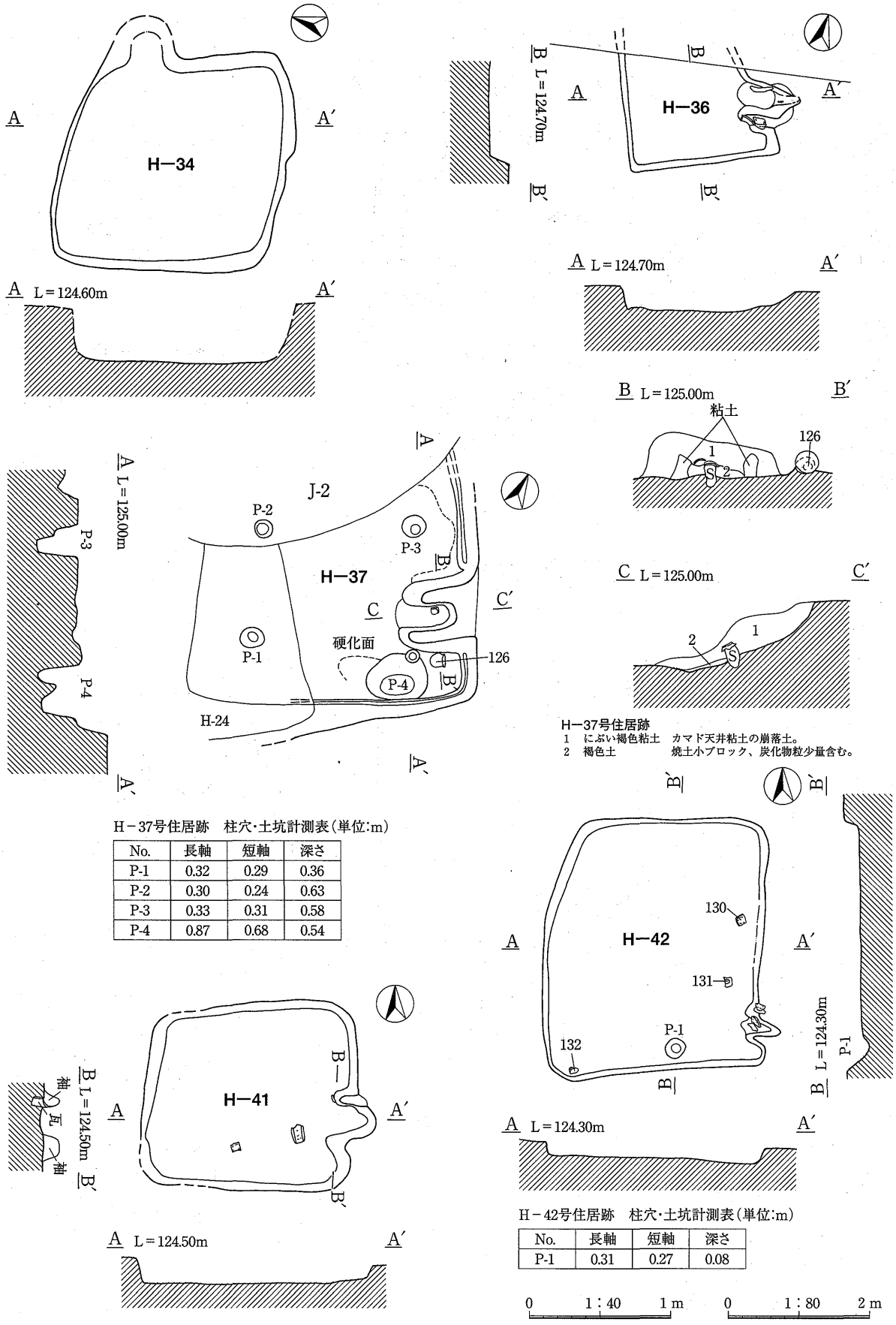
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.59	0.38	0.32

H−33号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.38	0.33	0.11
P-2	0.39	0.34	0.14

0　1：80　2 m

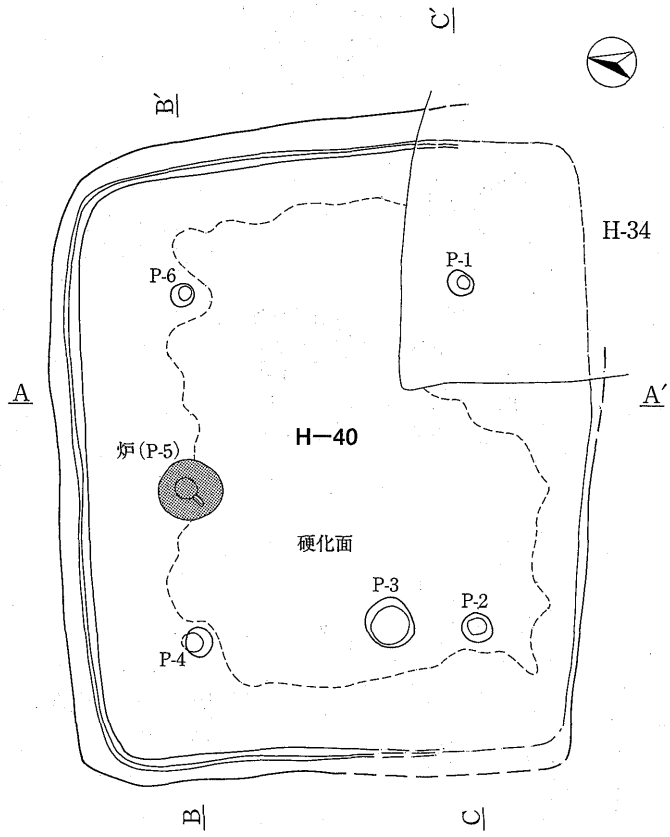
Fig.18　H−30・31・33・35号住居跡



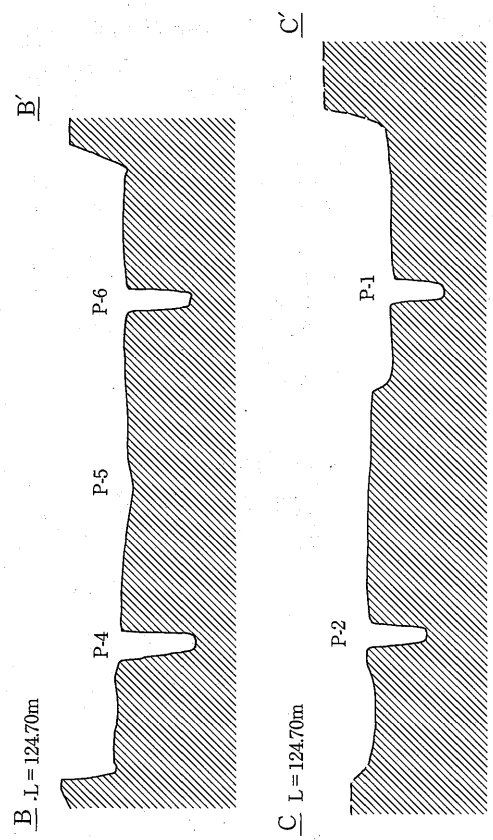
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.32	0.29	0.36
P-2	0.30	0.24	0.63
P-3	0.33	0.31	0.58
P-4	0.87	0.68	0.54

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.31	0.27	0.08

Fig.19　H—34・36・37・41・42号住居跡

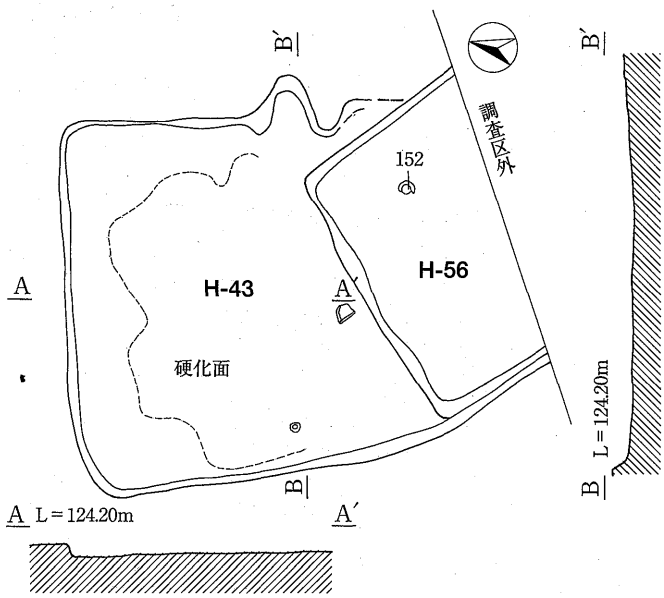


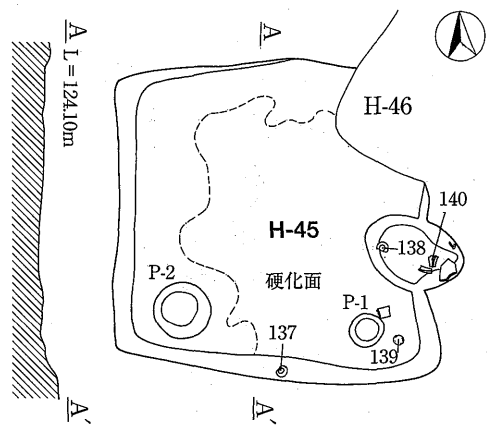
H—40号住居跡
1　暗褐色土　As-C中量含む。やわらかい。
2　黒色土　As-Cを含む。やわらかい。
3　極暗褐色内　As-Cを含む。やわらかい。
4　黒色土　As-Cを少量含む。やわらかい。



H－40号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.29	0.28	0.73
P-2	0.30	0.29	0.63
P-3	0.52	0.51	0.21
P-4	0.30	0.28	0.82
P-5	0.65	0.63	0.06
P-6	0.25	0.24	0.65



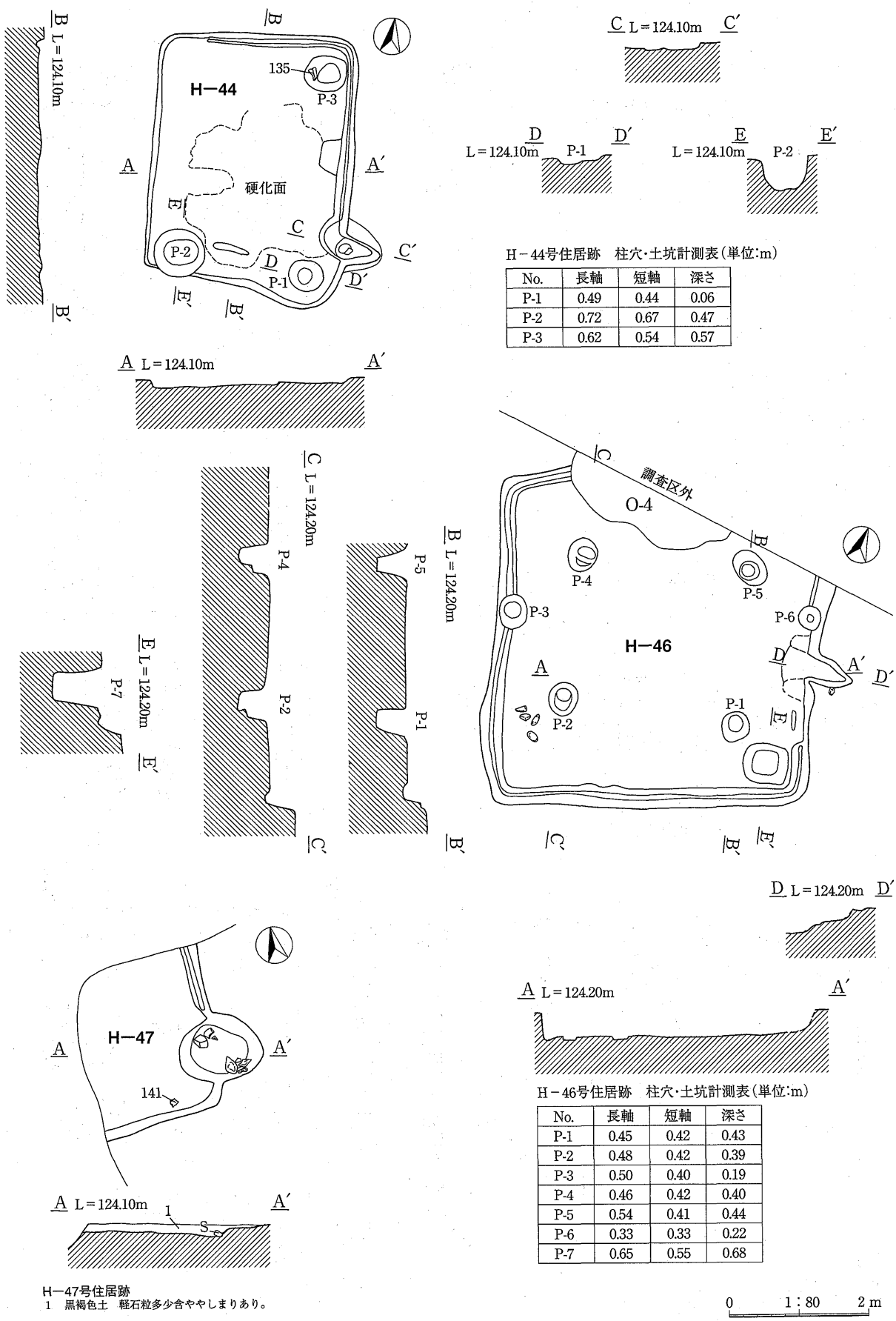


H－45号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.36	0.36	0.09
P-2	0.60	0.56	0.17

0　1：80　2 m

Fig.20　H—40・43・45・56号住居跡



H－44号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.49	0.44	0.06
P-2	0.72	0.67	0.47
P-3	0.62	0.54	0.57

H－46号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.45	0.42	0.43
P-2	0.48	0.42	0.39
P-3	0.50	0.40	0.19
P-4	0.46	0.42	0.40
P-5	0.54	0.41	0.44
P-6	0.33	0.33	0.22
P-7	0.65	0.55	0.68

H−47号住居跡
1　黒褐色土　軽石粒多少含ややしまりあり。

0　1：80　2 m

Fig.21　H−44・46・47号住居跡

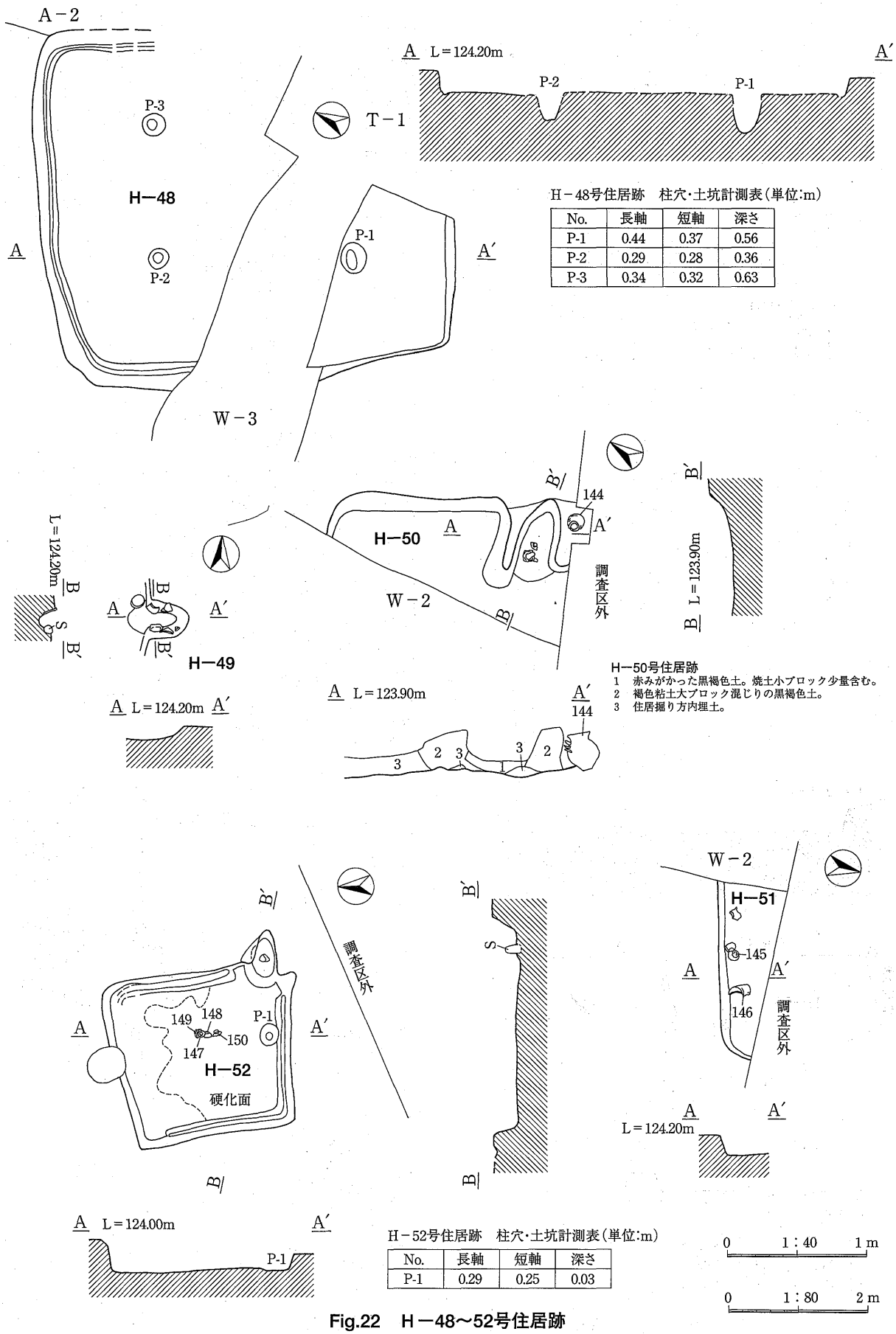
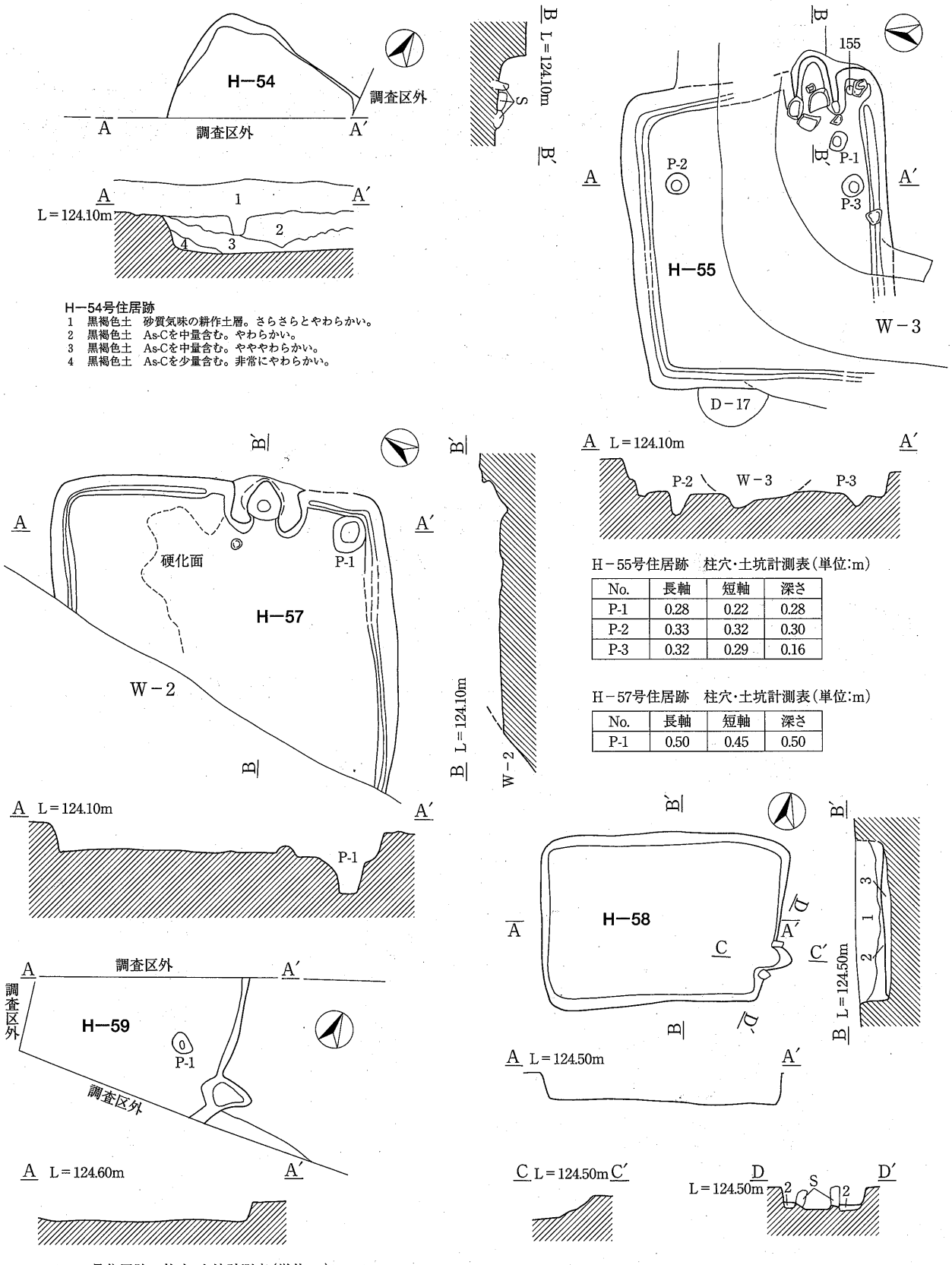


Fig.22　H－48～52号住居跡



H—54号住居跡
1　黒褐色土　砂質気味の耕作土層。さらさらとやわらかい。
2　黒褐色土　As-Cを中量含む。やわらかい。
3　黒褐色土　As-Cを中量含む。ややわらかい。
4　黒褐色土　As-Cを少量含む。非常にやわらかい。

H－55号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.28	0.22	0.28
P-2	0.33	0.32	0.30
P-3	0.32	0.29	0.16

H－57号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.50	0.45	0.50

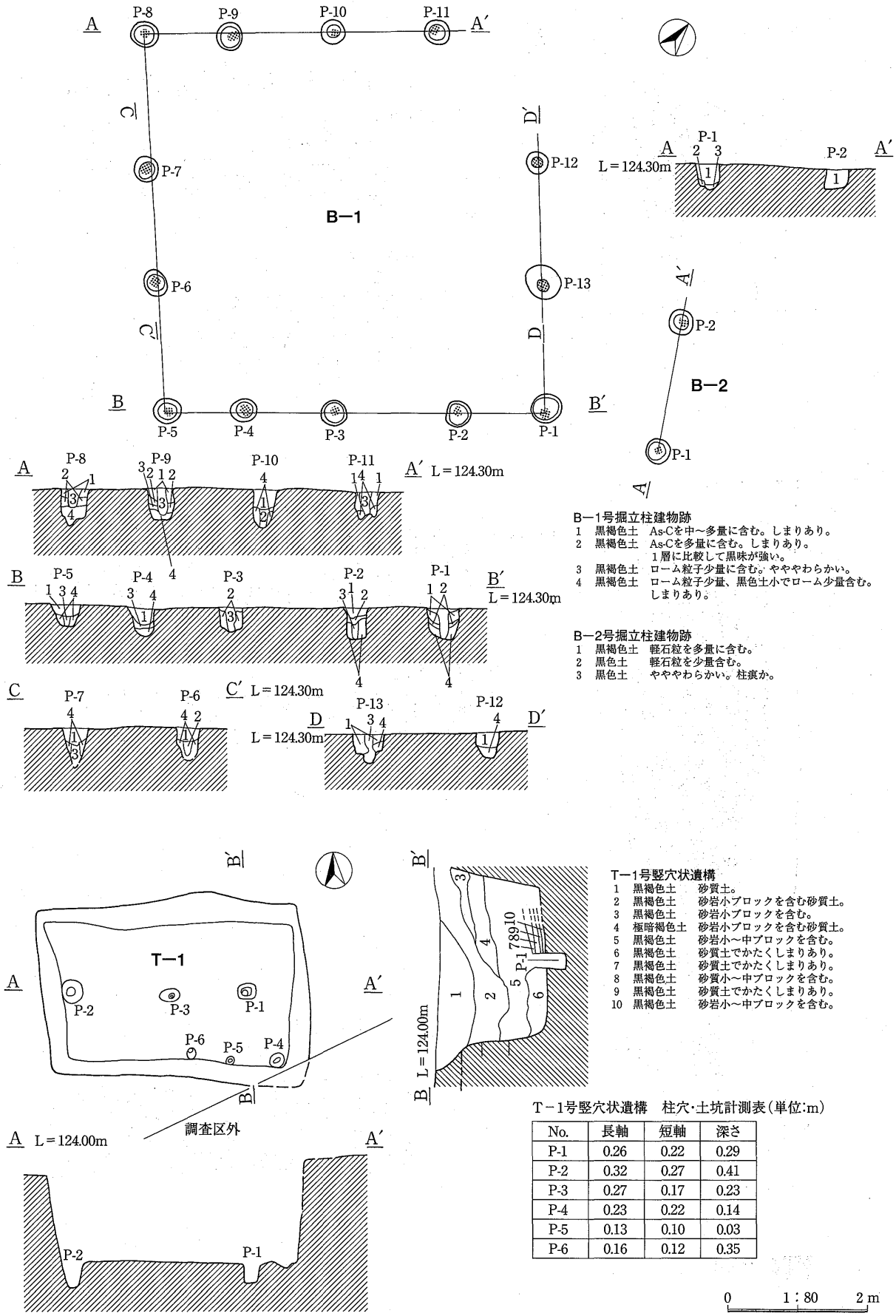
H－59号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.33	0.22	0.49

H—58号住居跡
1　黒褐色土　As-Cを多量含む。ややしまりあり。
2　黒褐色土　As-Cを少量含む。しまりあり。
3　黒褐色土　ローム小ブロック少量含む。しまりあり。

0　1：80　2 m

Fig.23　H—54・55・57～59号住居跡



B—1号掘立柱建物跡
1　黒褐色土　As-Cを中～多量に含む。しまりあり。
2　黒褐色土　As-Cを多量に含む。しまりあり。
　　1層に比較して黒味が強い。
3　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。ややわらかい。
4　黒褐色土　ローム粒子少量、黒色土小でローム少量含む。
　　しまりあり。

B—2号掘立柱建物跡
1　黒褐色土　軽石粒を多量に含む。
2　黒色土　軽石粒を少量含む。
3　黒色土　ややわらかい。柱痕か。

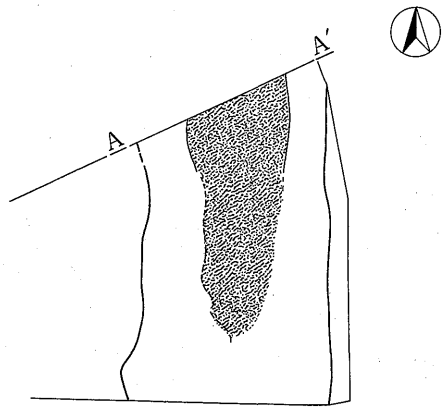
T—1号竪穴状遺構
1　黒褐色土　砂質土。
2　黒褐色土　砂岩小ブロックを含む砂質土。
3　黒褐色土　砂岩小ブロックを含む。
4　極暗褐色土　砂岩小ブロックを含む砂質土。
5　黒褐色土　砂岩小～中ブロックを含む。
6　黒褐色土　砂質土でかたくしまりあり。
7　黒褐色土　砂質土でかたくしまりあり。
8　黒褐色土　砂質小～中ブロックを含む。
9　黒褐色土　砂質土でかたくしまりあり。
10　黒褐色土　砂岩小～中ブロックを含む。

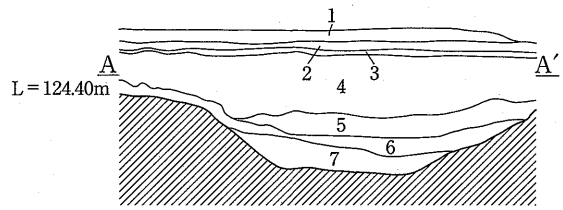
T－1号竪穴状遺構　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.26	0.22	0.29
P-2	0.32	0.27	0.41
P-3	0.27	0.17	0.23
P-4	0.23	0.22	0.14
P-5	0.13	0.10	0.03
P-6	0.16	0.12	0.35

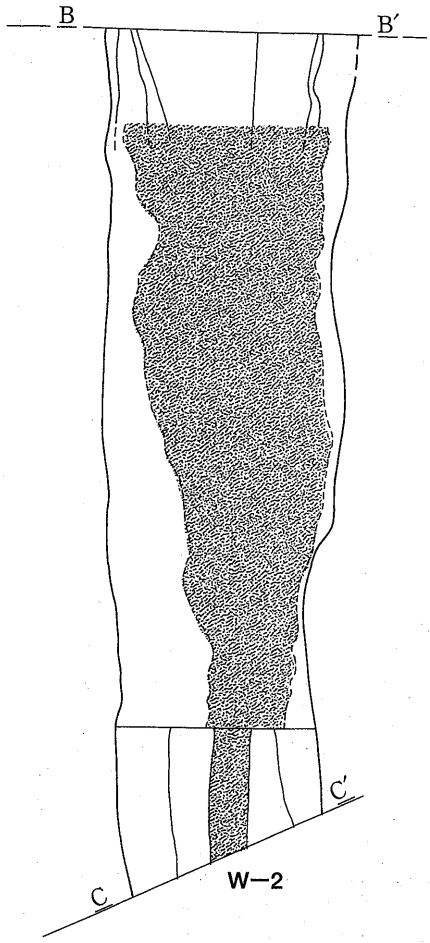
0　1：80　2m

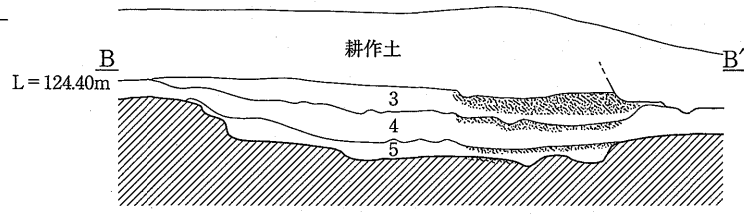
Fig.24　B－1・2号掘立柱建物跡、T－1号竪穴状遺構



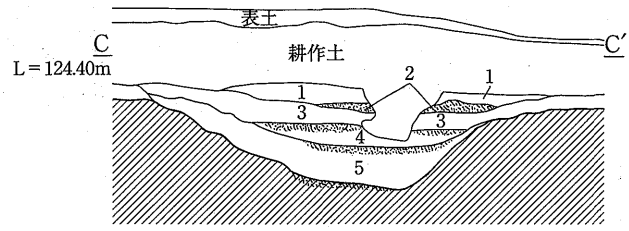


W—2号溝（A－A′）
1　耕作土。
2　水田床土。
3　黒褐色土　細砂質土。しまりやや強い。
　　粘性弱、（上層の影響で少量のFe分含む。）
4　黒褐色土　As-C粒多量、下層にAs-B含む。かたくしまりあり。
5　黒褐色土　As-C、As-B混じる。かたくしまりあり。
6　黒褐色土　砂質土のうすい5枚の硬化面あり。非常にかたい。
7　黒褐色土　軽石粒少～中量、炭化物少量。ややわらかい。





W—2号溝（B－B′・C－C′）
1　黒褐色土　炭化物粒極少量、軽石粒、As-Cを少量含む。
2　黒褐色土　炭化物粒極少量、軽石粒、As-Cを少量含む。非常に硬くしまりあり。
3　黒褐色土　炭化物粒極少量、軽石粒、As-Cを少量含む上層面硬化、他ややわわかい。
4　黒褐色土　炭化物粒極少量、軽石粒、（As-Bか）中量含む。
　　粒径が小さくなり砂質である。ややわらかめ、上層面しまりあり。
5　黒褐色土　砂質の黒褐色土、全体にしまりあり。



…硬化面

0　1：80　2 m
0　1：160　4 m

Fig.25　W－2号溝跡

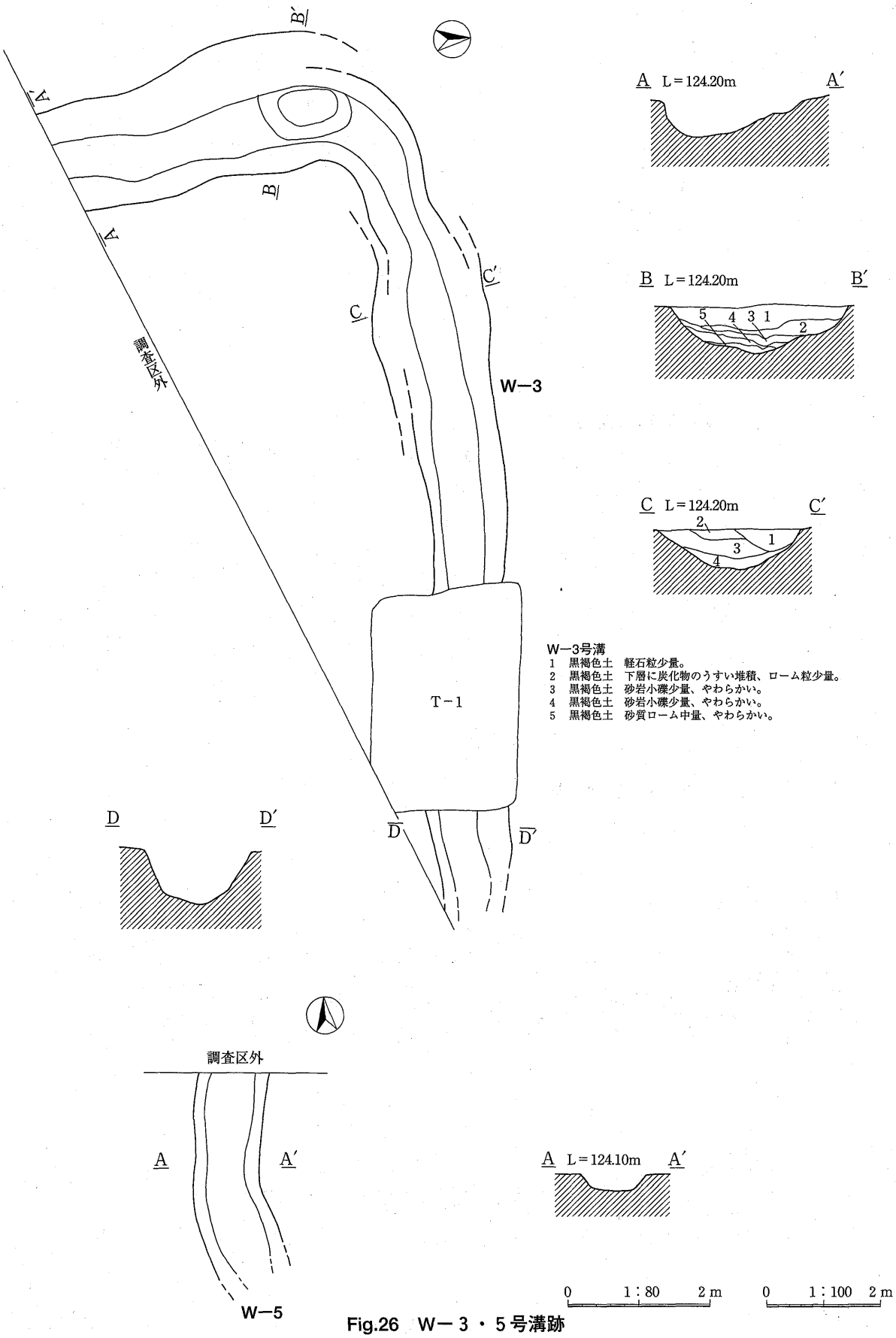


Fig.26 W—3・5号溝跡

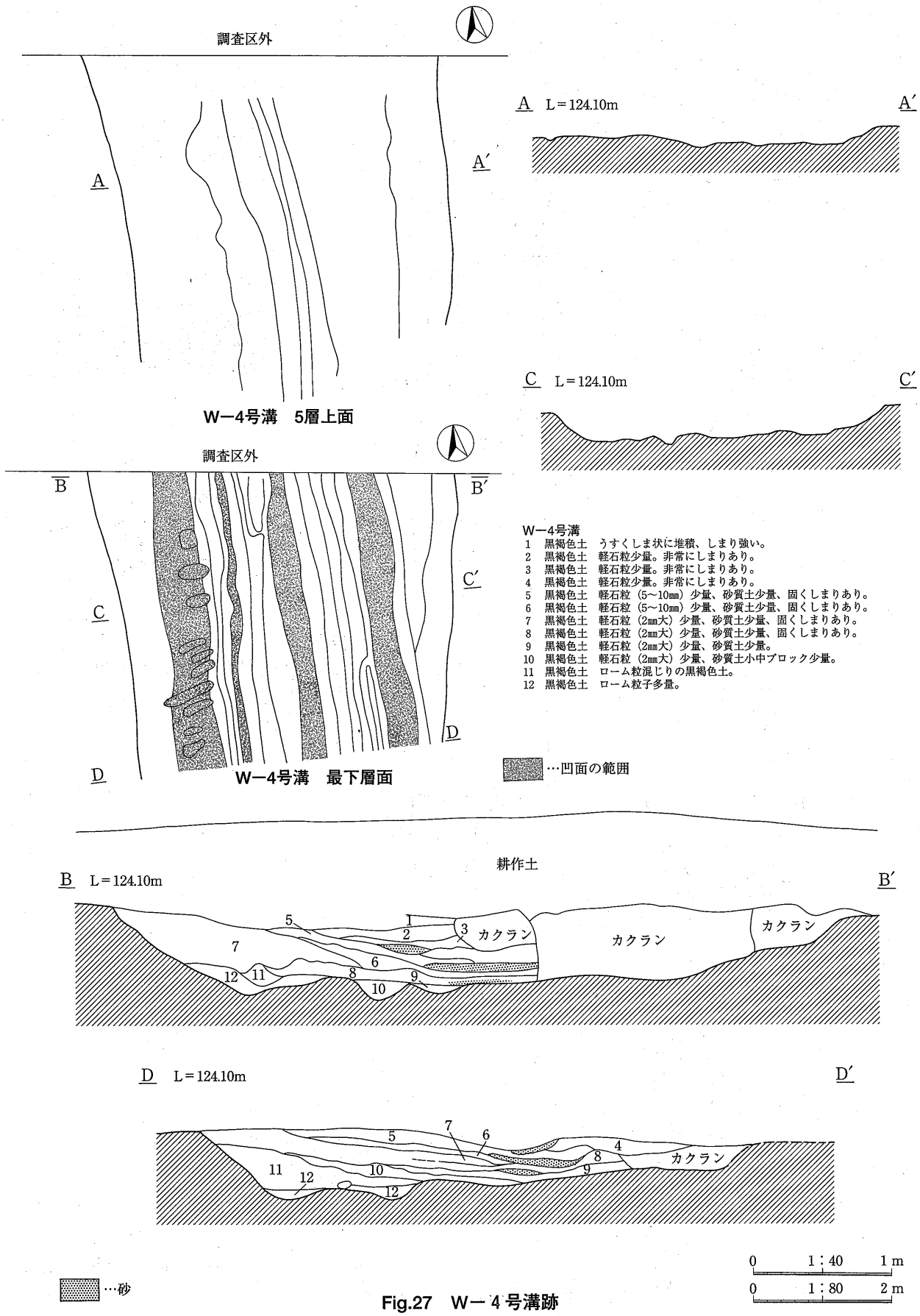

調査区外
A
A′
A L＝124.10m
A′
W－4号溝　5層上面
調査区外
B
B′
C
C′
D
D
W－4号溝　最下層面
C L＝124.10m
C′
W－4号溝
1　黒褐色土　うすくしま状に堆積、しまり強い。
2　黒褐色土　軽石粒少量。非常にしまりあり。
3　黒褐色土　軽石粒少量。非常にしまりあり。
4　黒褐色土　軽石粒少量。非常にしまりあり。
5　黒褐色土　軽石粒（5～10㎜）少量、砂質土少量、固くしまりあり。
6　黒褐色土　軽石粒（5～10㎜）少量、砂質土少量、固くしまりあり。
7　黒褐色土　軽石粒（2㎜大）少量、砂質土少量、固くしまりあり。
8　黒褐色土　軽石粒（2㎜大）少量、砂質土少量、固くしまりあり。
9　黒褐色土　軽石粒（2㎜大）少量、砂質土少量。
10　黒褐色土　軽石粒（2㎜大）少量、砂質土小中ブロック少量。
11　黒褐色土　ローム粒混じりの黒褐色土。
12　黒褐色土　ローム粒子多量。
…凹面の範囲
耕作土
B L＝124.10m
B′
カクラン
カクラン
カクラン
D L＝124.10m
D′
カクラン
…砂
0　1：40　1 m
0　1：80　2 m

Fig.27　W－4号溝跡

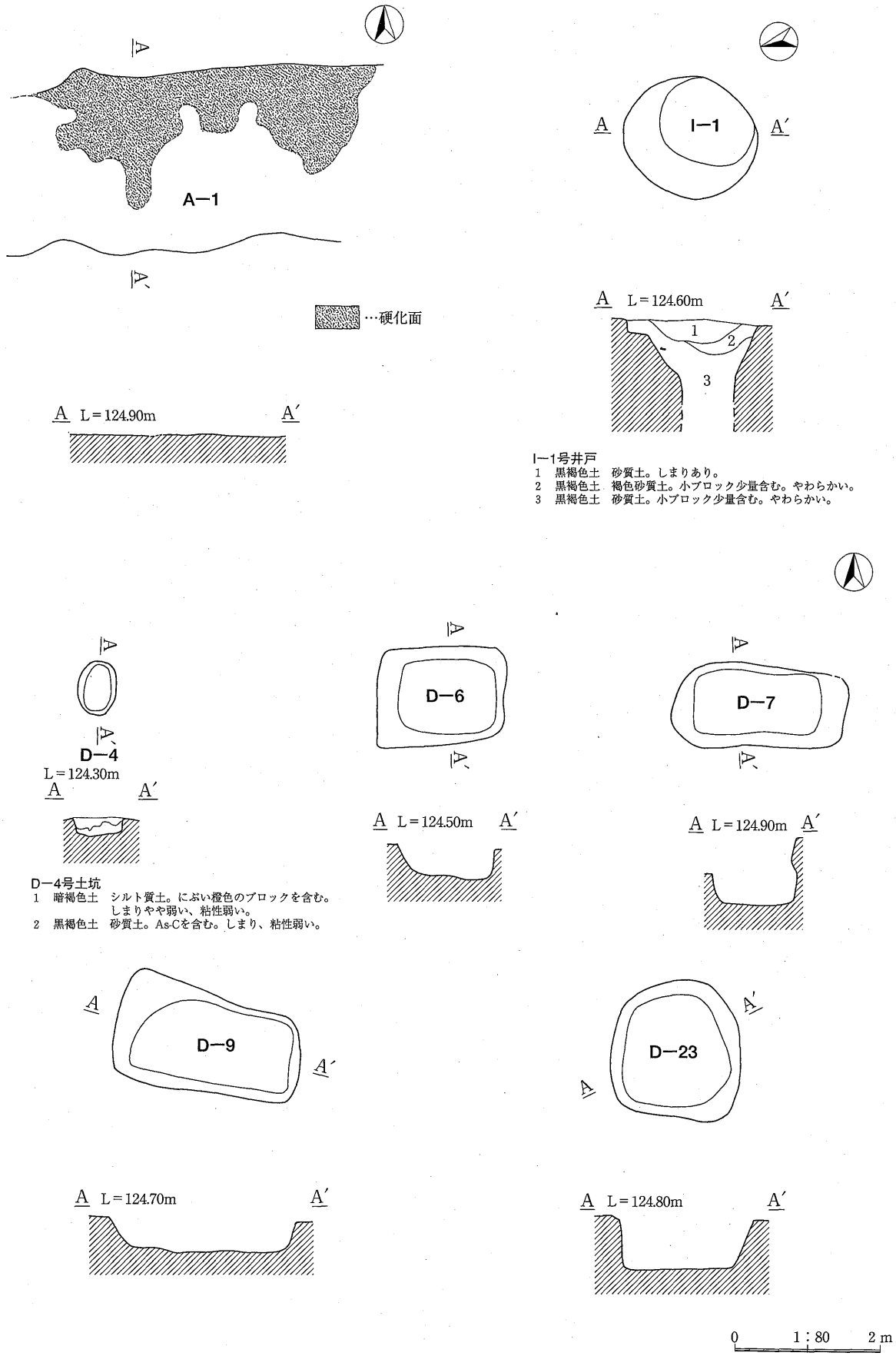


Fig.28 A－1号道路状遺構、I－1号井戸、D－4・6・7・9・23号土坑

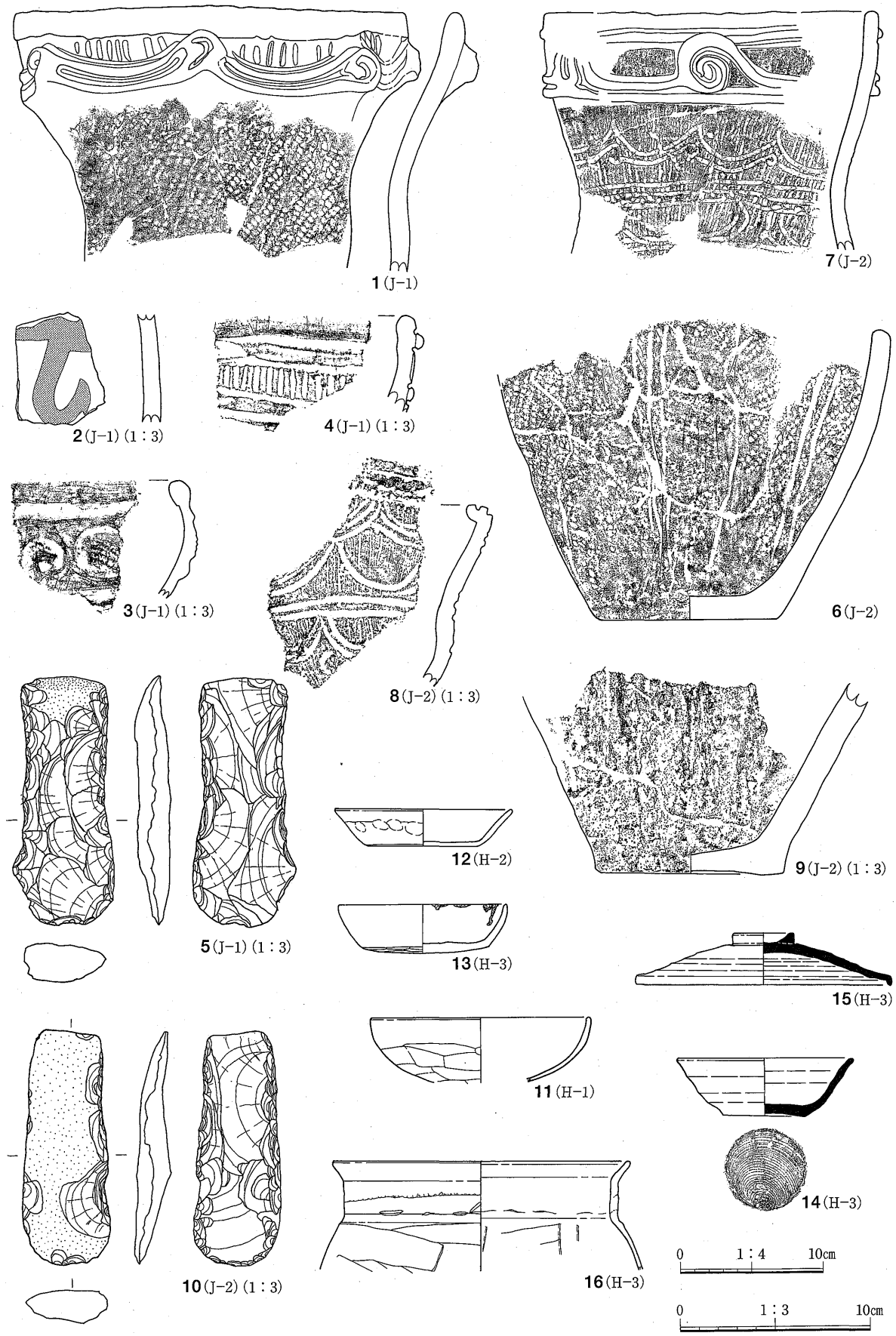


Fig.29　J－1・2号住居跡、H－1～3号住居跡出土遺物

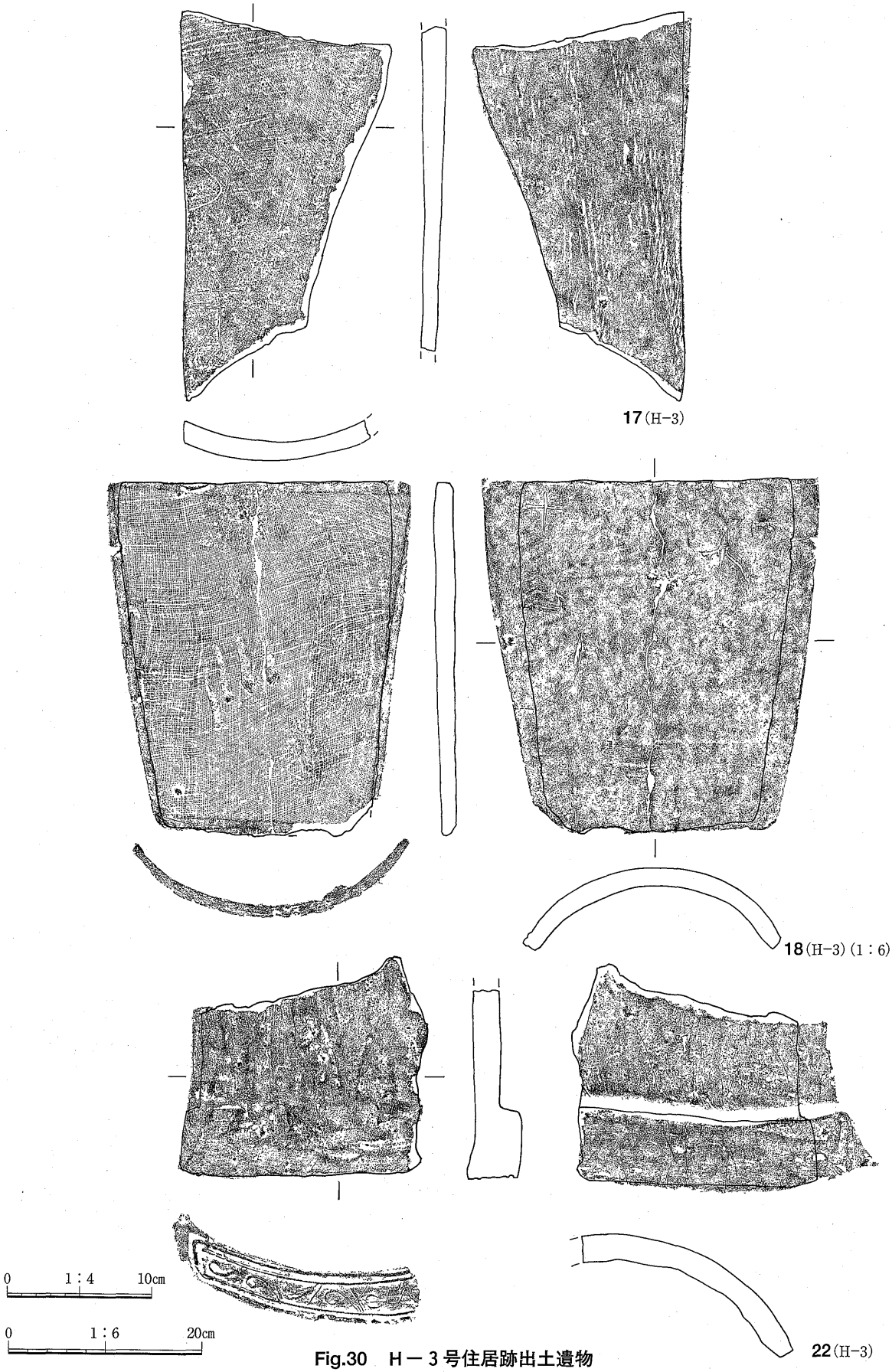


Fig.30 H－3号住居跡出土遺物

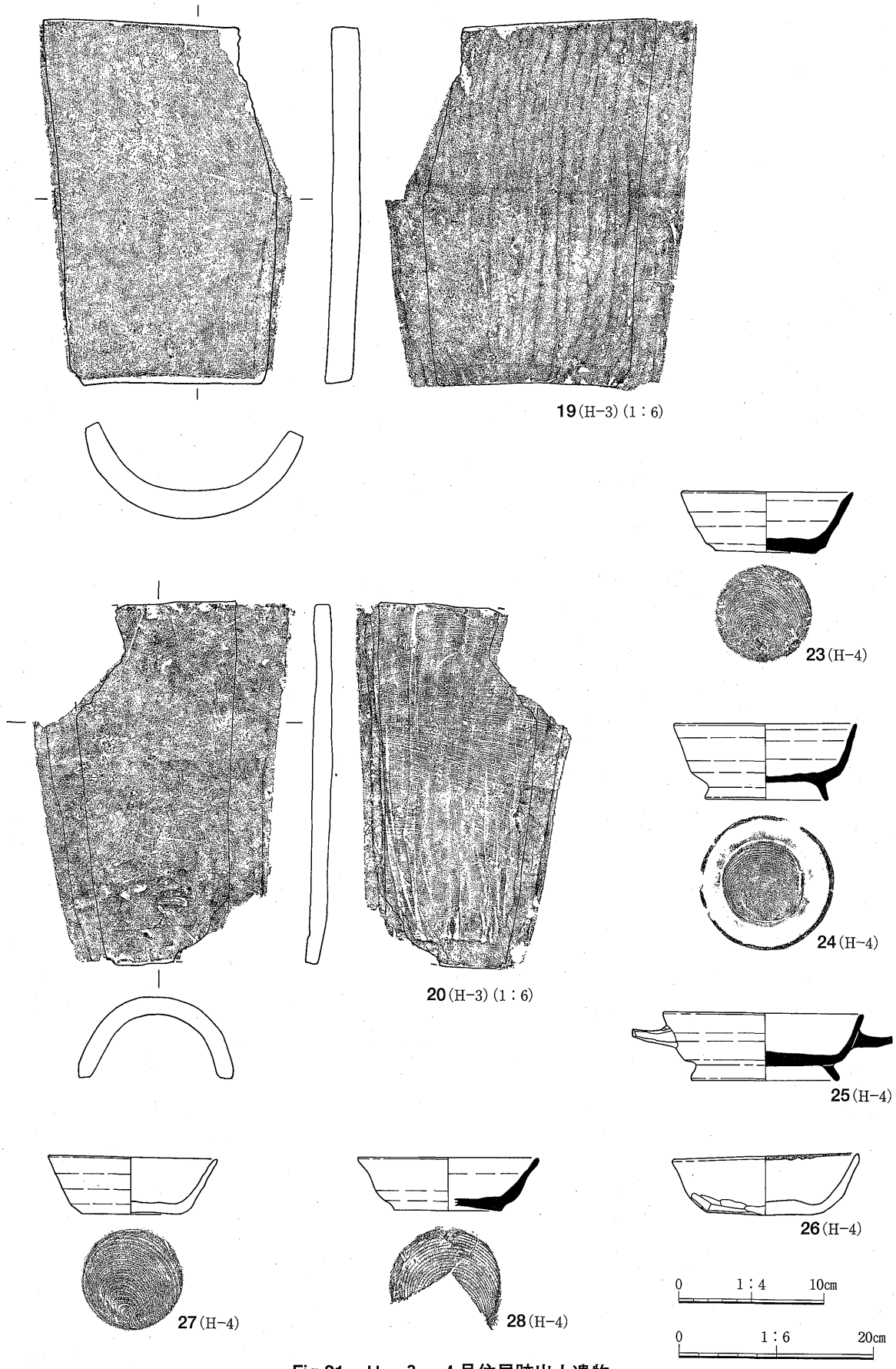


Fig.31　H－3・4号住居跡出土遺物

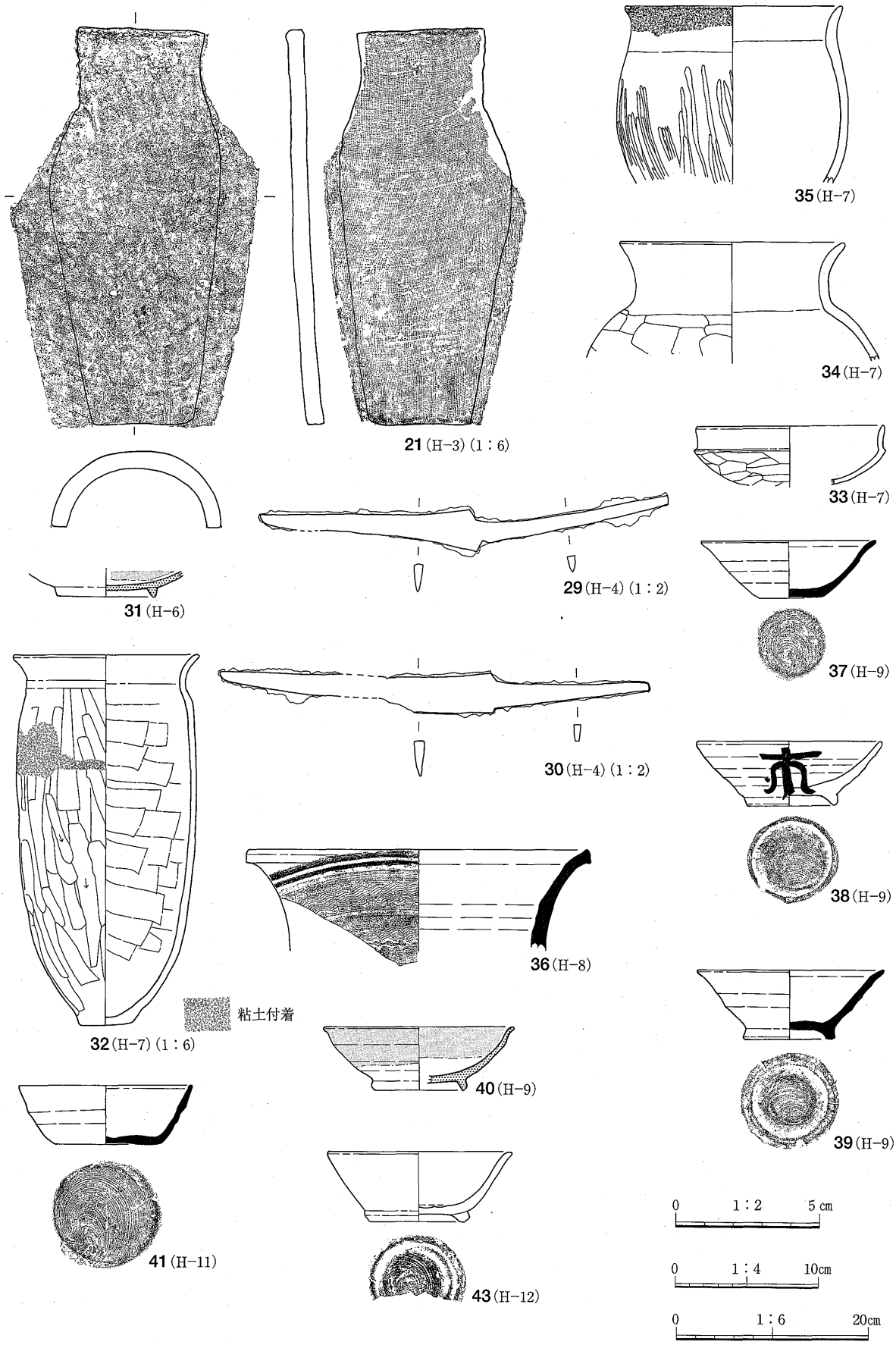


Fig.32　H－3・6～9・11・12号住居跡出土遺物

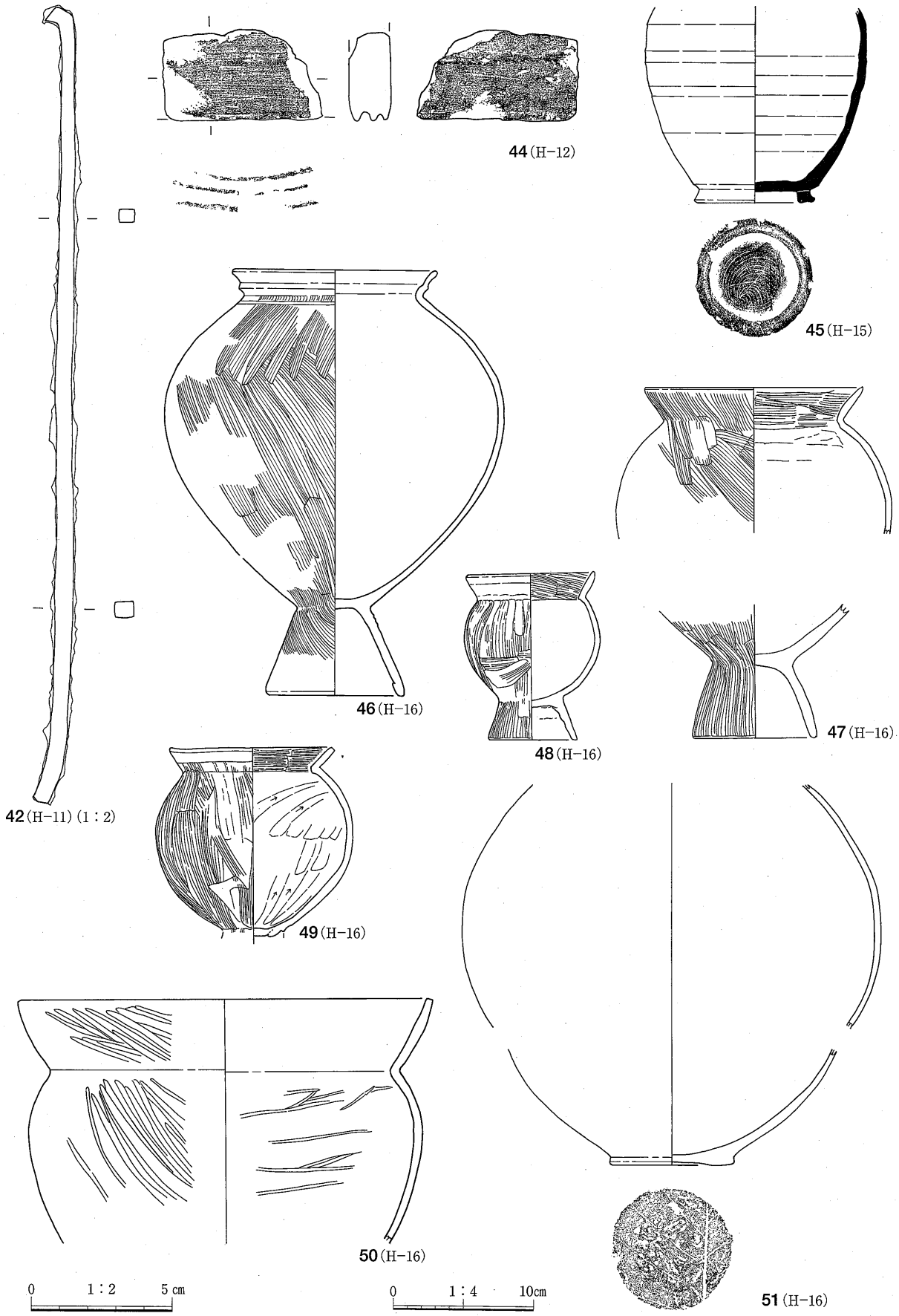


Fig.33 H−11・12・15・16号住居跡出土遺物

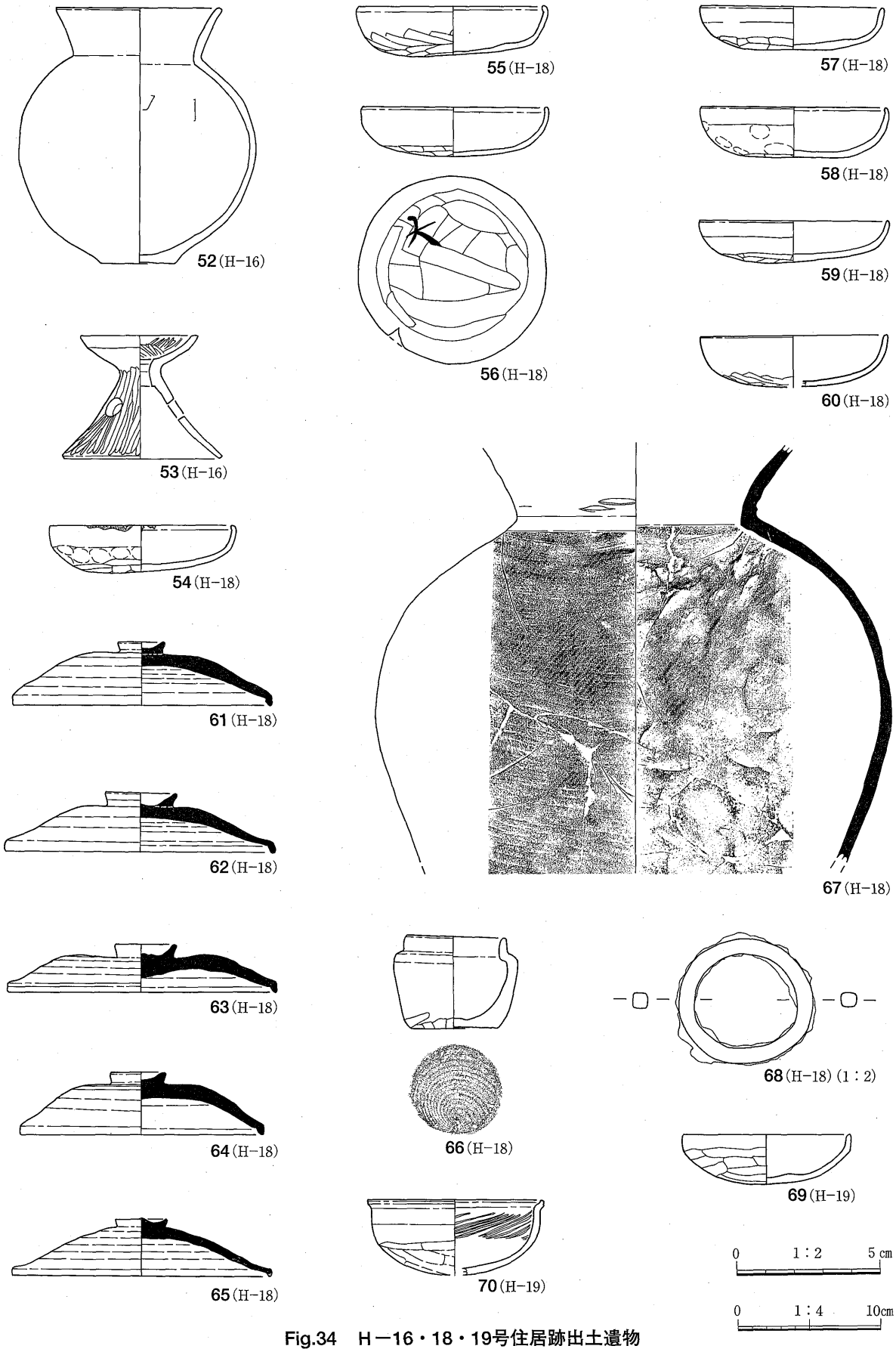


Fig.34　H−16・18・19号住居跡出土遺物

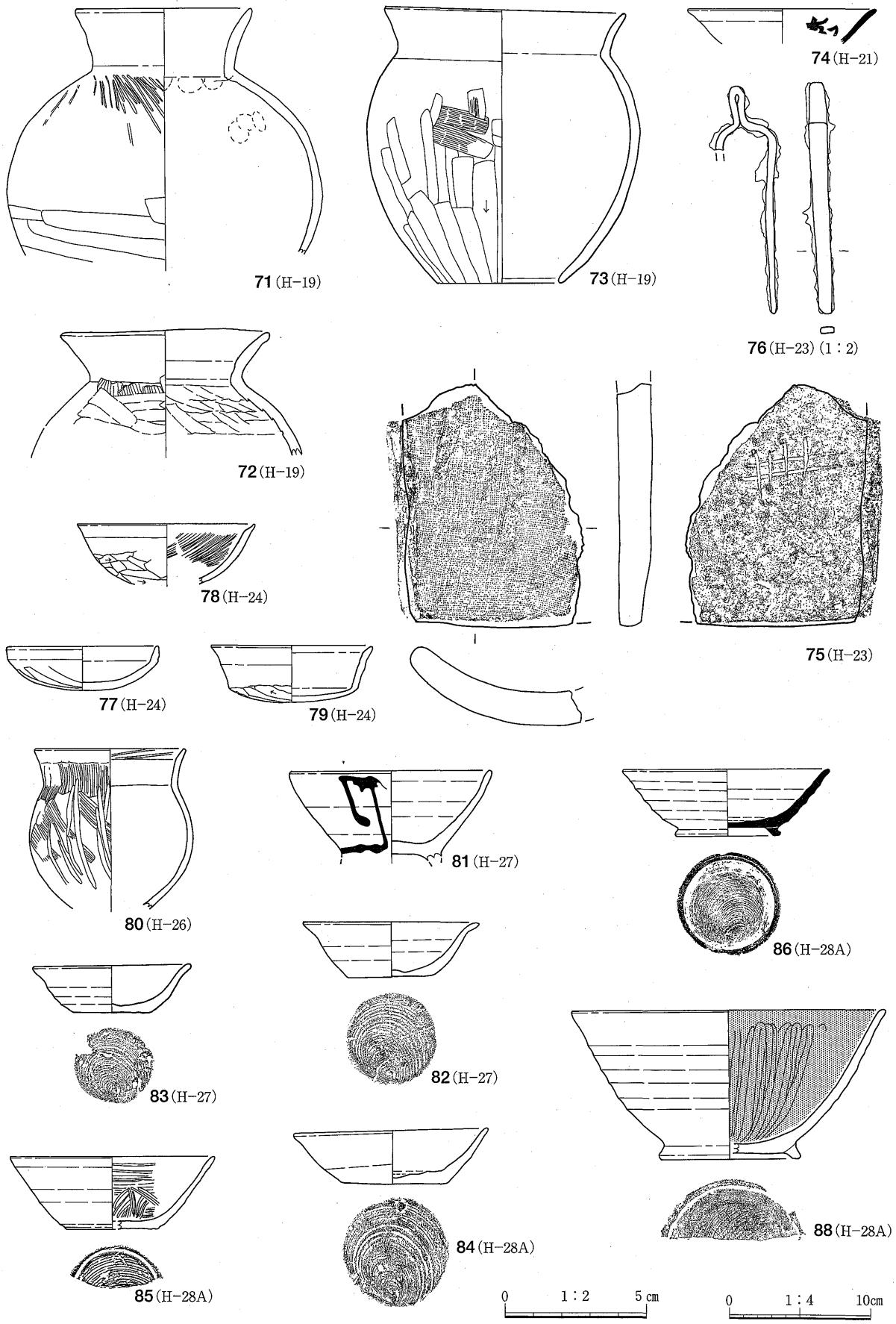


Fig.35　H−19・21・23・24・26〜28A号住居跡出土遺物

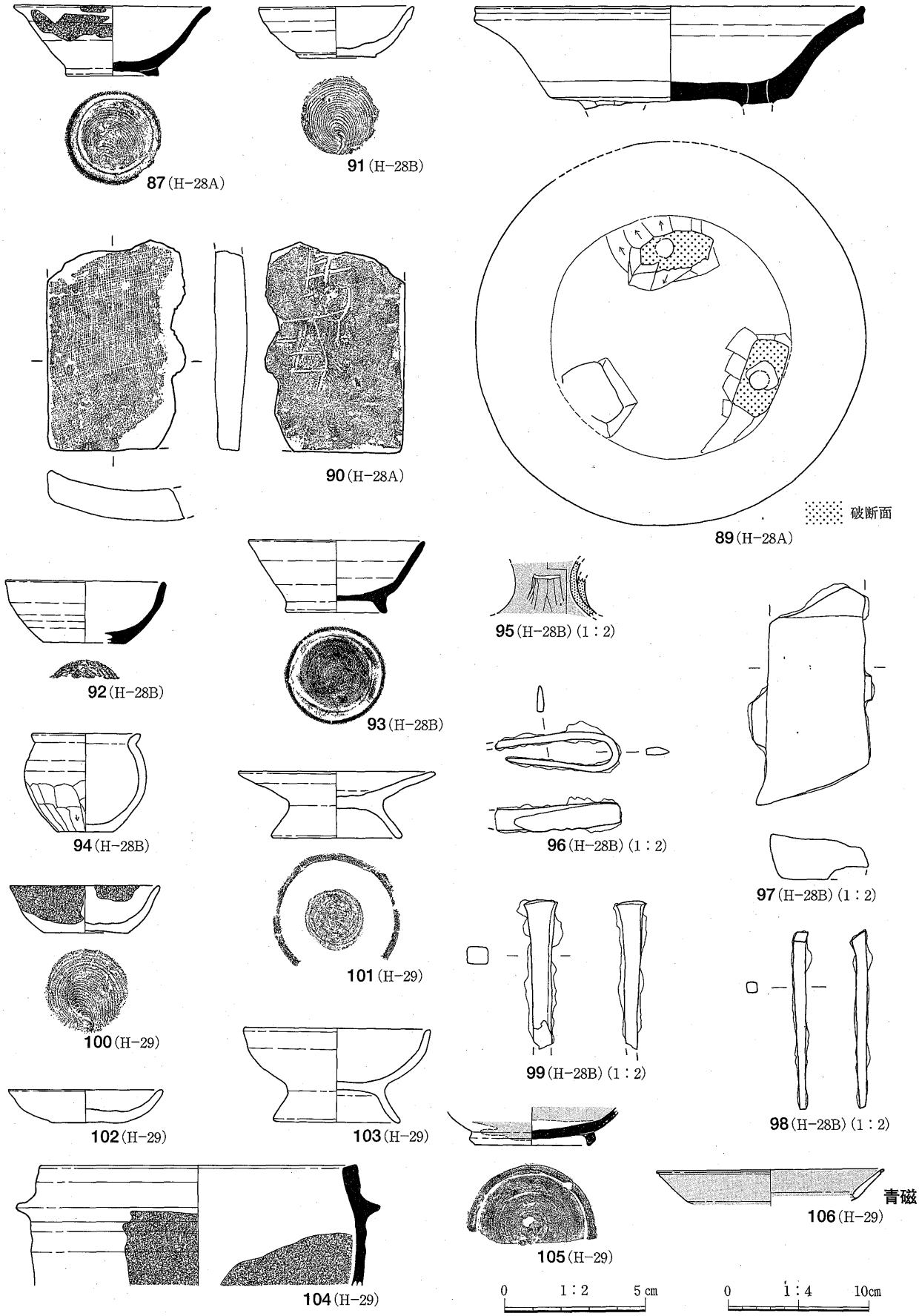


Fig.36 H−28A・28B・29号住居跡出土遺物

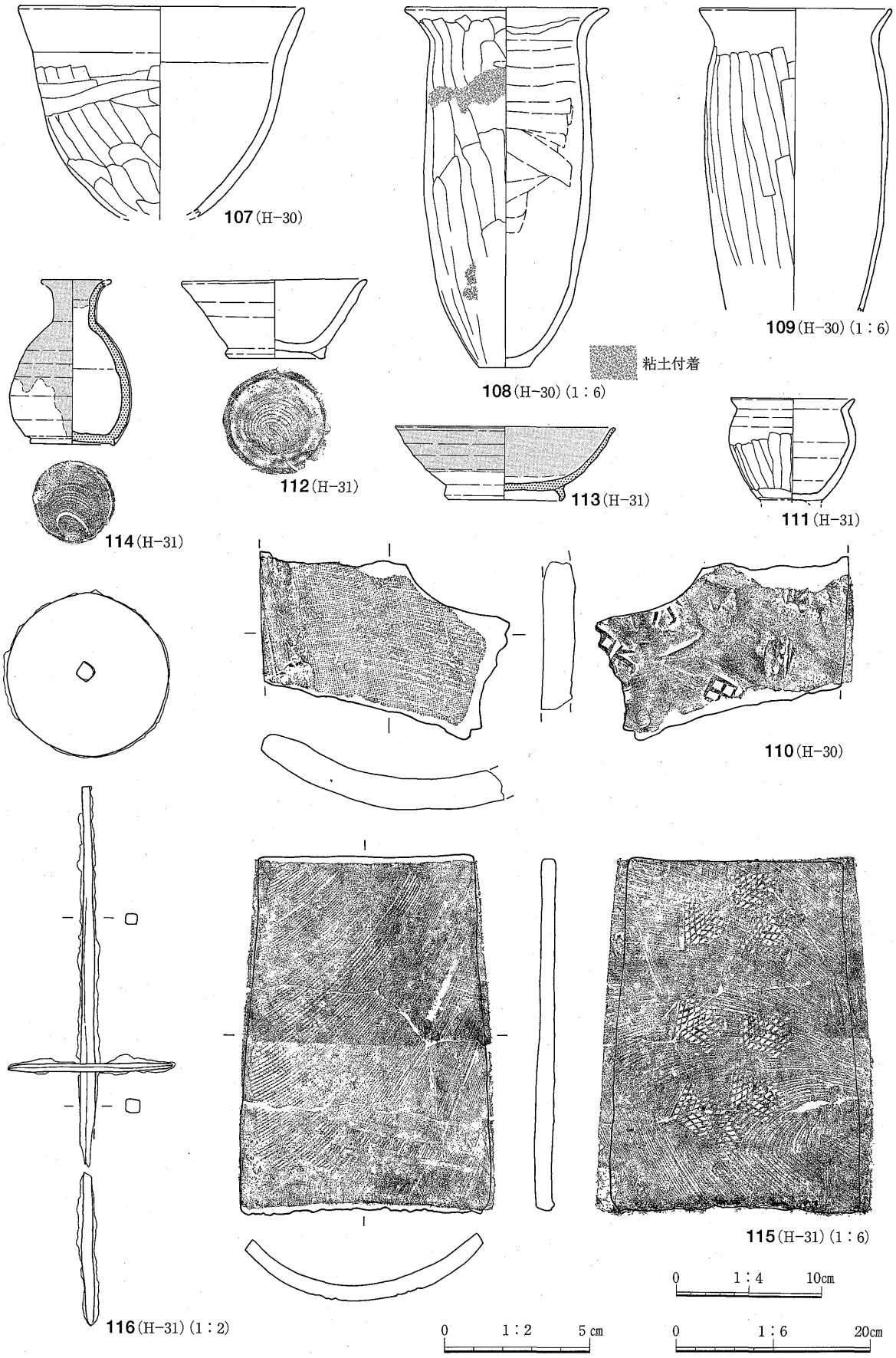


Fig.37　H－31・32号住居跡出土遺物

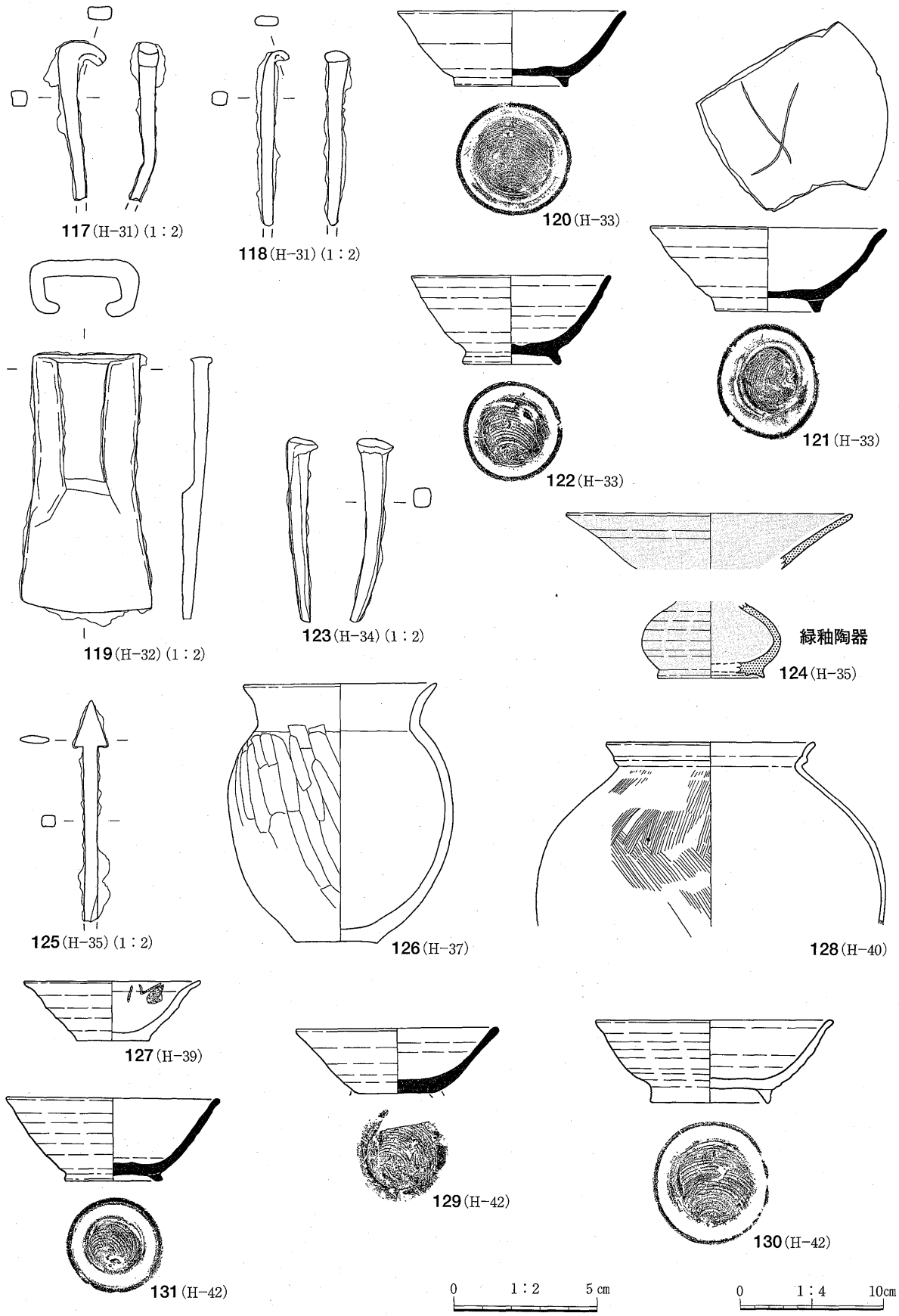


Fig.38　H－31～35・37・39・40・42号住居跡出土遺物

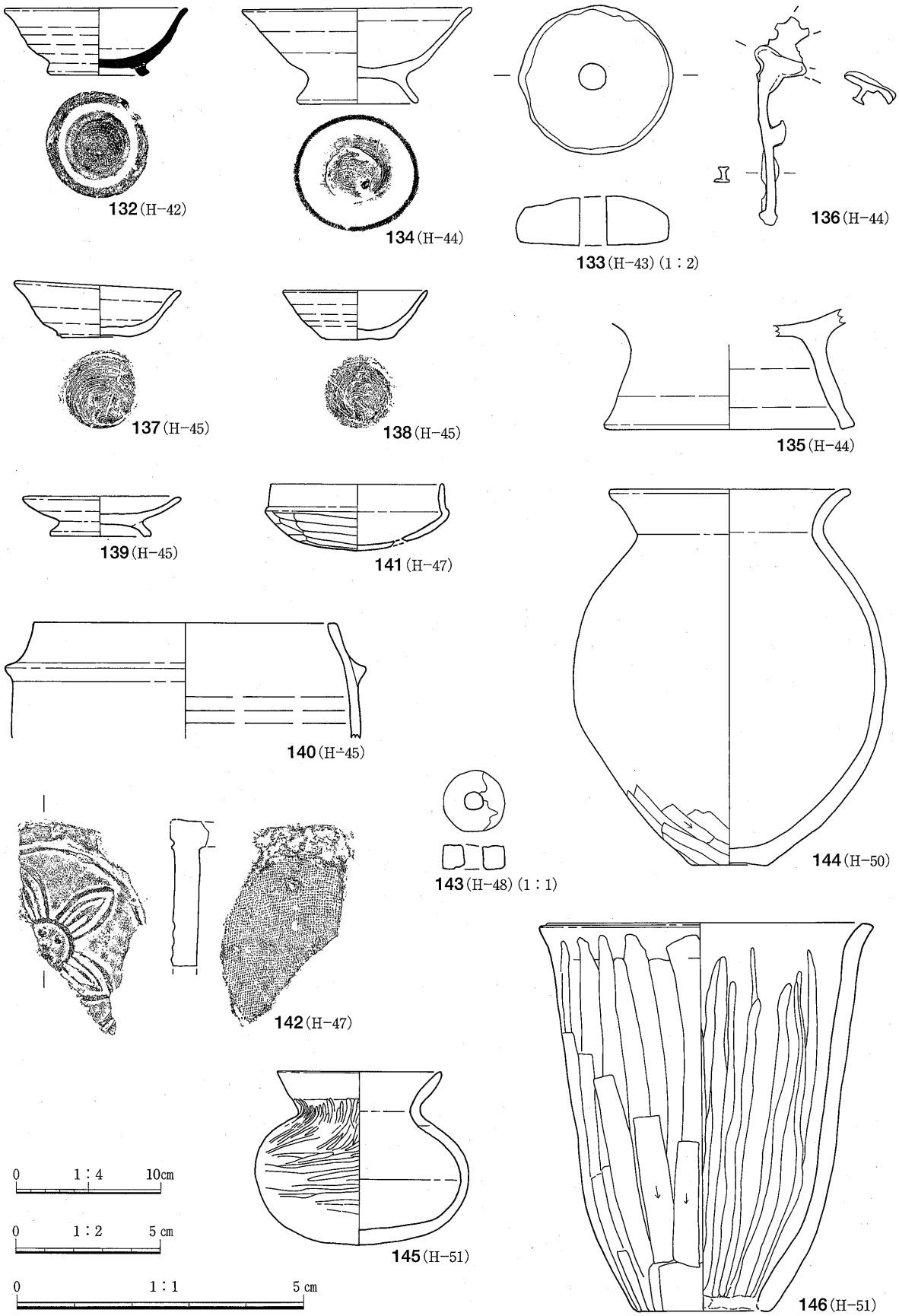


Fig.39　H－42～45・47・48・50・51号住居跡出土遺物

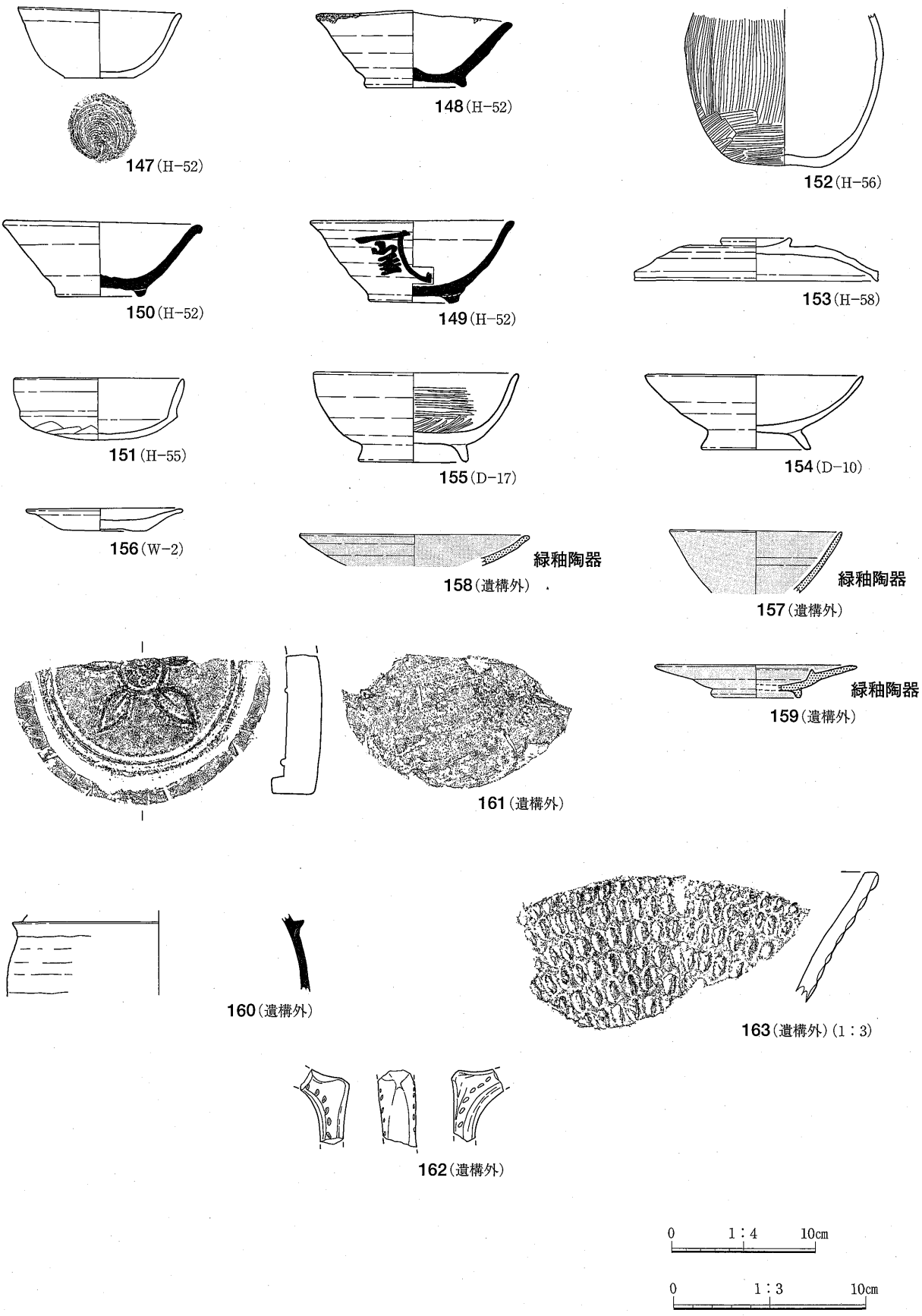
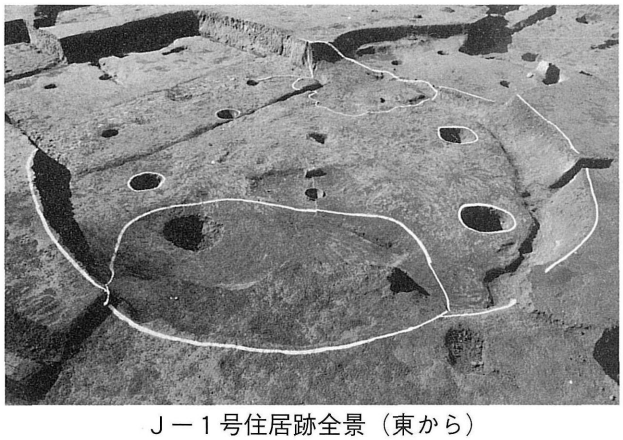


Fig.40　H－52・55・56・58号住居跡、D－10・17号土坑、W－2号溝跡、遺構外出土遺物

完掘全景（東から）



Ｊ－１号住居跡全景（東から）

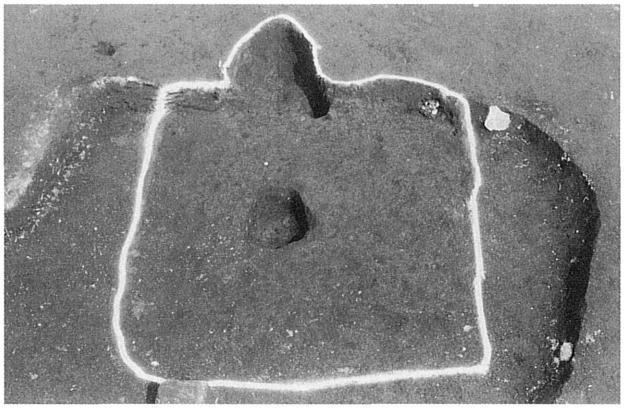
Ｊ－１号住居跡炉全景（南西から）

Ｊ－１号住居跡炉体土器出土状況（東から）

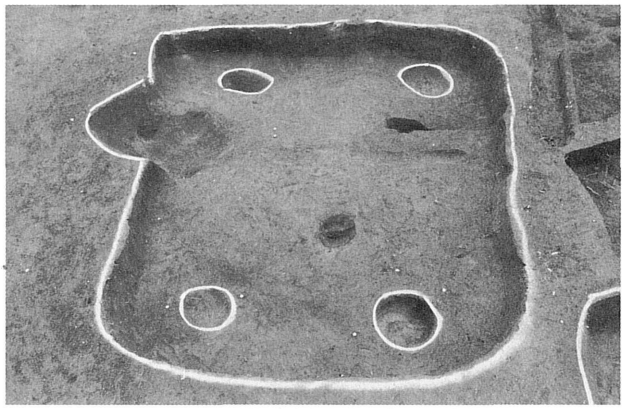
Ｊ－２号住居跡全景（北から）

Ｊ－２号住居跡炉（北から）

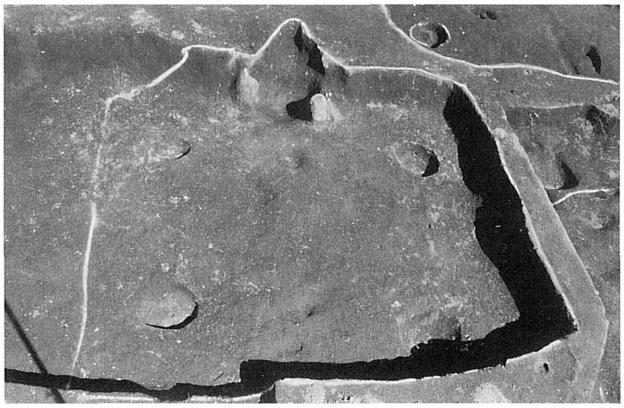
Ｈ－１号住居跡全景（西から）



Ｈ－２号住居跡全景（西から）

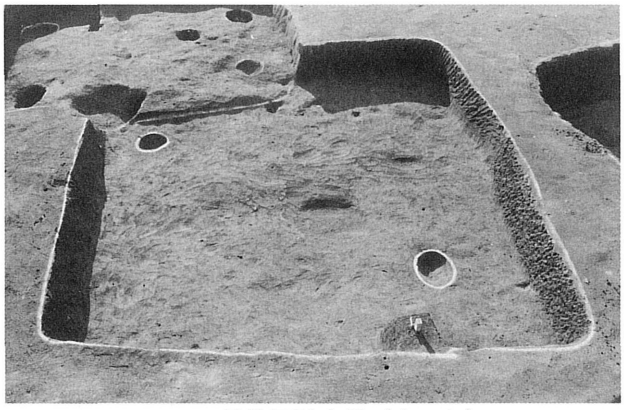


Ｈ－３号住居跡全景（西から）

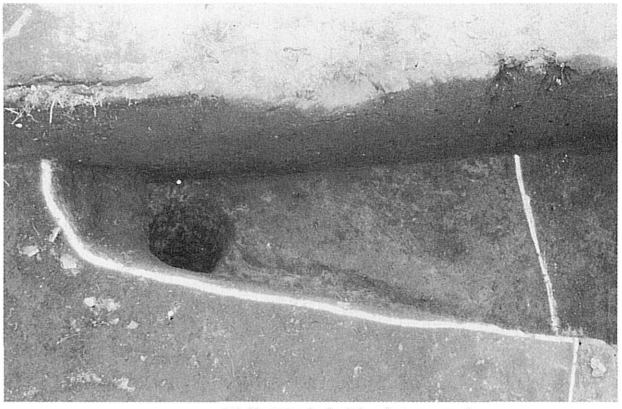


Ｈ－４号住居跡全景（西から）

Ｈ－４号住居跡竈全景（西から）



Ｈ－５号住居跡全景（東から）

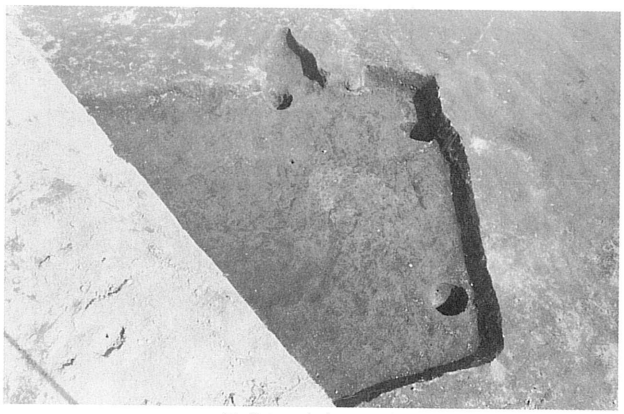


Ｈ－６号住居跡全景（西から）

Ｈ－７号住居跡全景（北から）

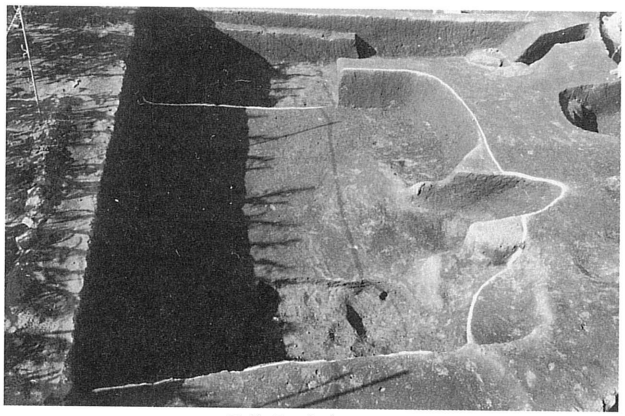
Ｈ－７号住居跡遺物出土状況（北から）

Ｈ－７号住居跡竈全景（西から）

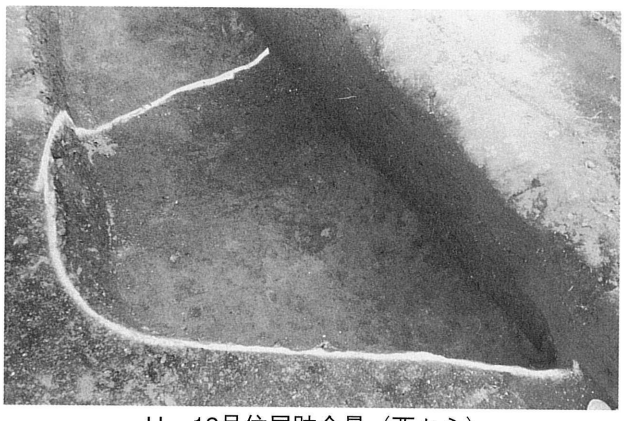


Ｈ－９号住居跡全景（西から）

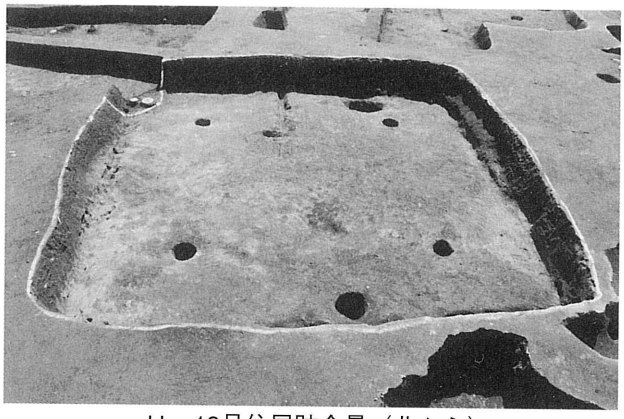
Ｈ－10号住居跡全景（北西から）



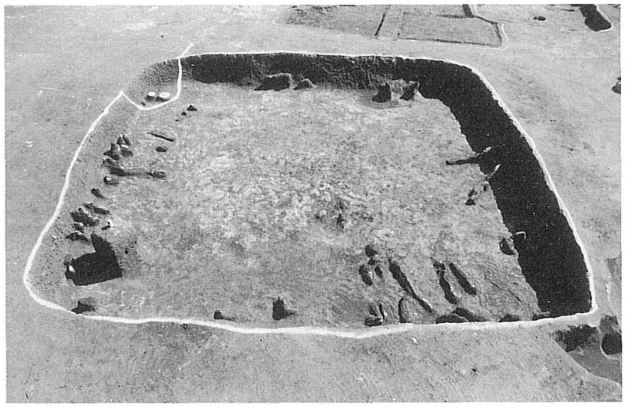
Ｈ－11号住居跡全景（南から）



Ｈ－12号住居跡全景（西から）

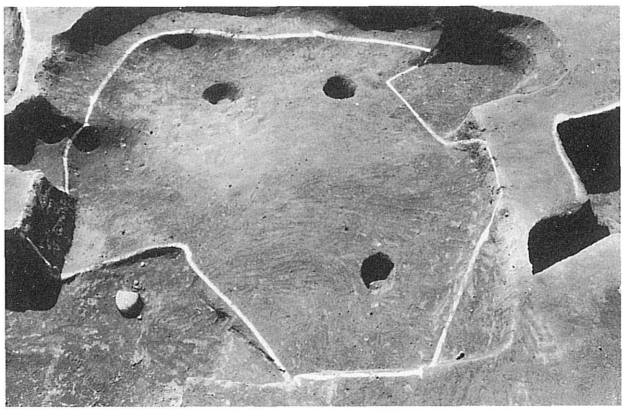


Ｈ－13号住居跡全景（北から）

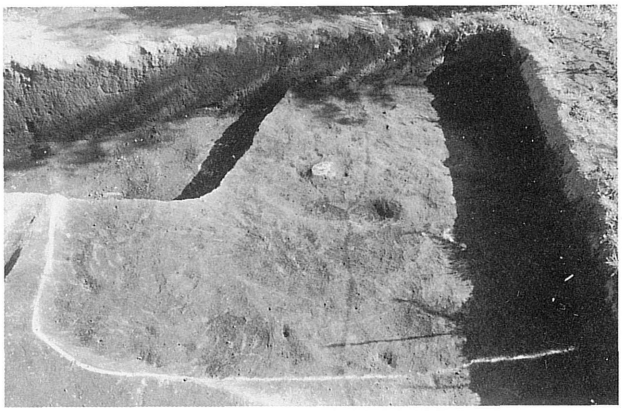


Ｈ－13号住居跡炭化材出土状況（北から）

Ｈ－14号住居跡全景（南から）



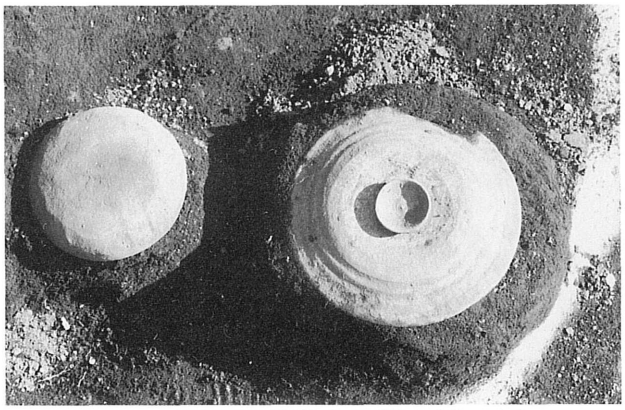
Ｈ－15号住居跡全景（北から）



Ｈ－16号住居跡全景（北から）

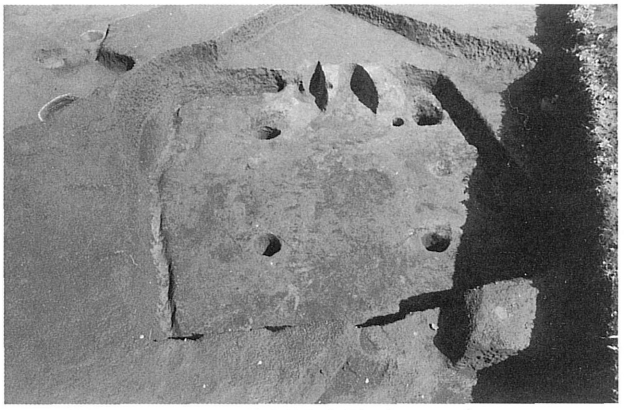
Ｈ－16号住居跡遺物出土状況（東から）

Ｈ－17号住居跡全景（南東から）



Ｈ－18号住居跡遺物出土状況（北から）

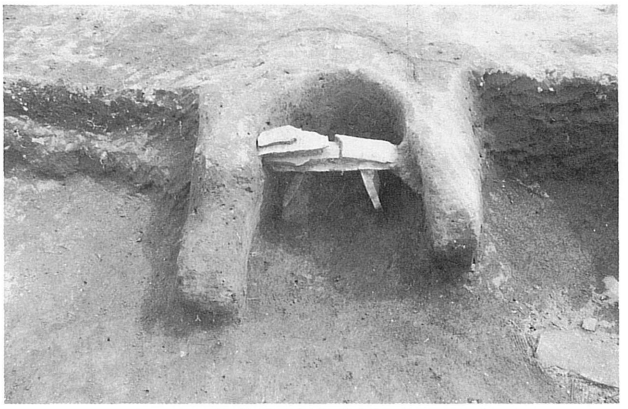
Ｈ－18号住居跡全景（北から）



H－19号住居跡全景（西から）

H－20号住居跡全景（南から）

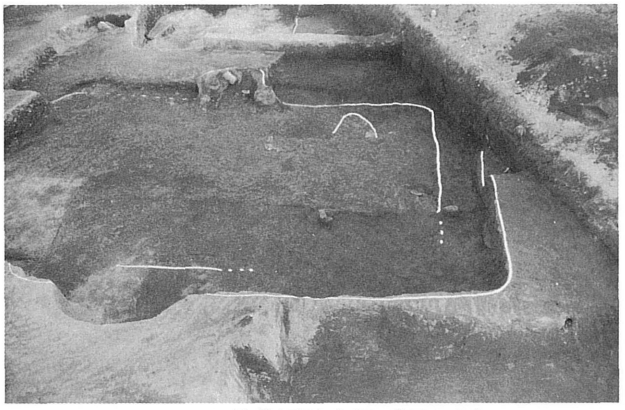
H－21号住居跡全景（北から）



H－23号住居跡竈全景（西から）

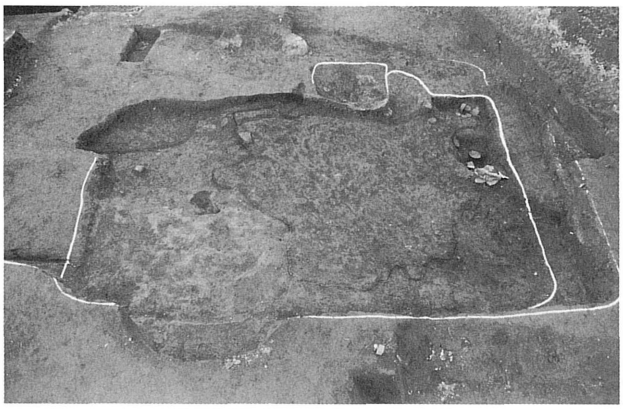
H－23号住居跡竈袖部断面（西から）

H－24号住居跡全景（南から）

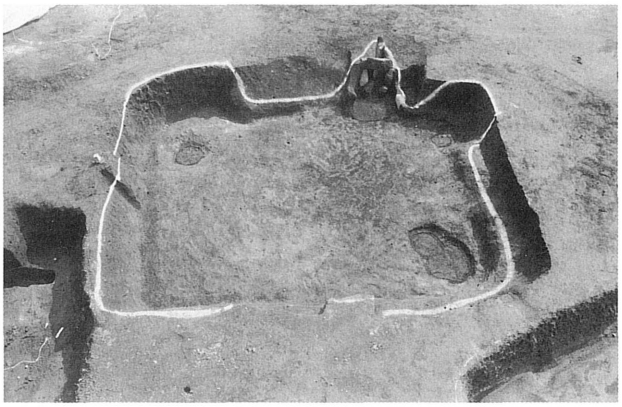


H－28B号住居跡全景（西から）

H－28A号住居跡遺物出土状況近景（西から）

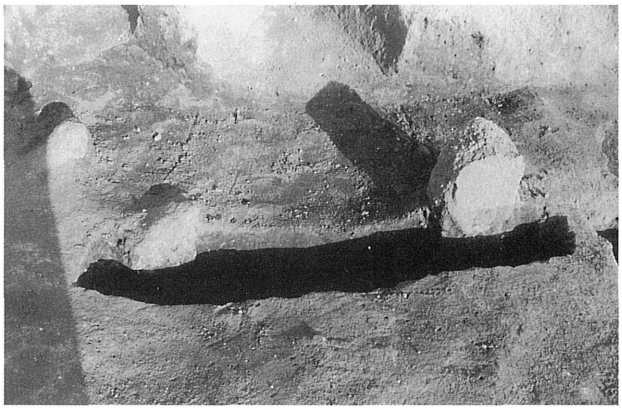


Ｈ－28A号住居跡遺物出土状況（西から）

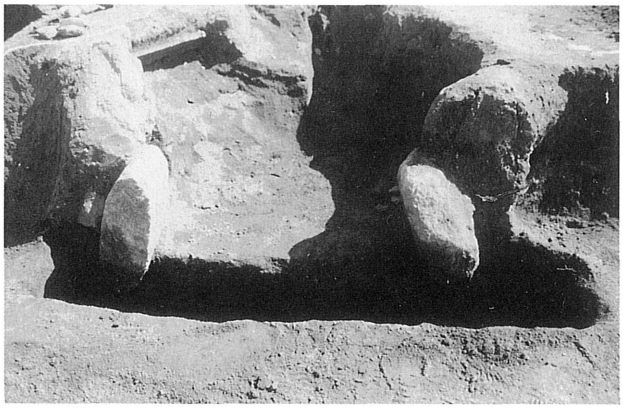


Ｈ－29号住居跡全景（西から）

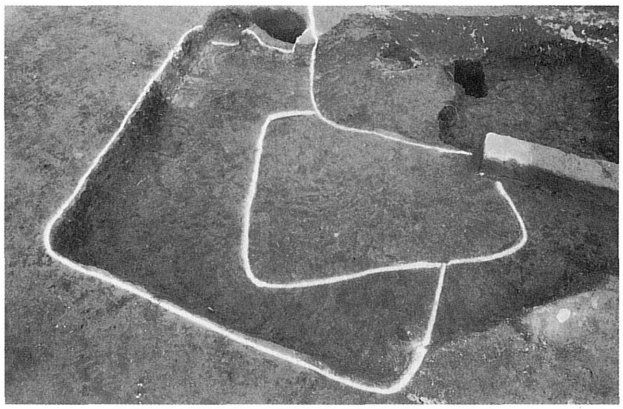
Ｈ－30号住居跡全景（南から）



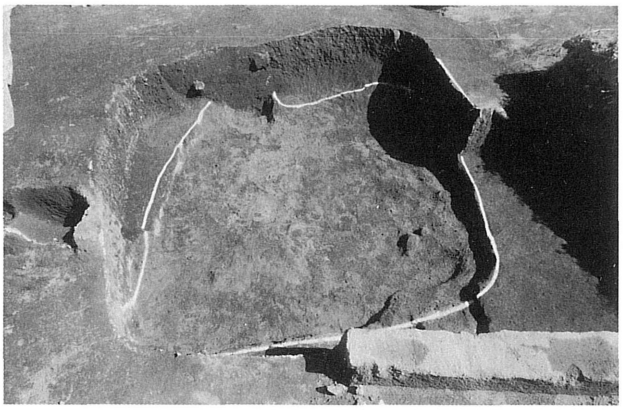
Ｈ－30号住居跡竈全景（西から）



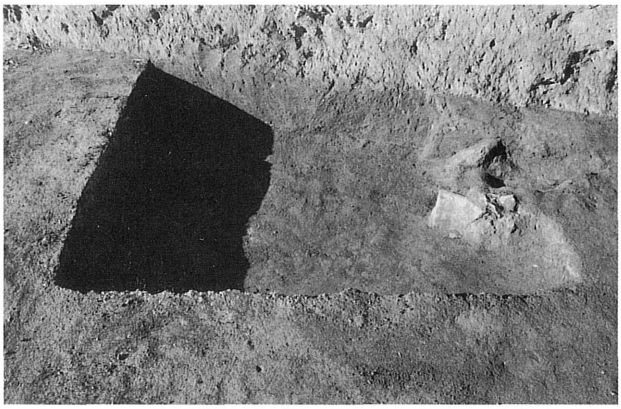
Ｈ－31号住居跡竈全景（西から）



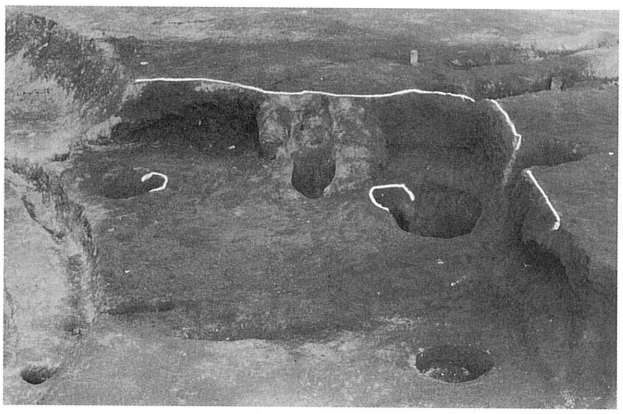
Ｈ－32号住居跡全景（西から）



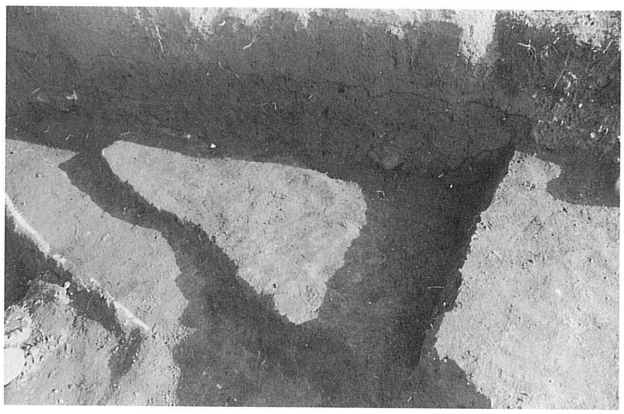
Ｈ－34号住居跡全景（北から）



Ｈ－36号住居跡全景（南から）

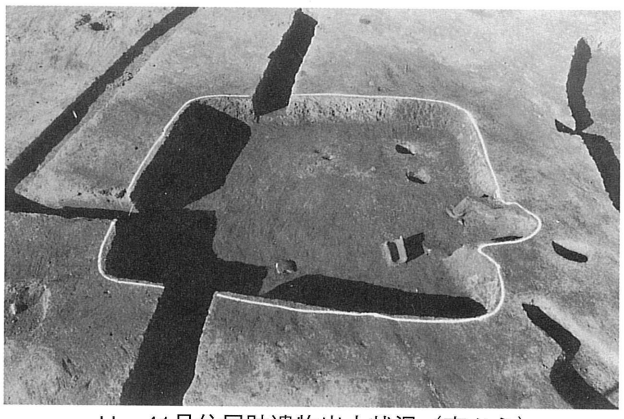


H－37号住居跡全景（西から）

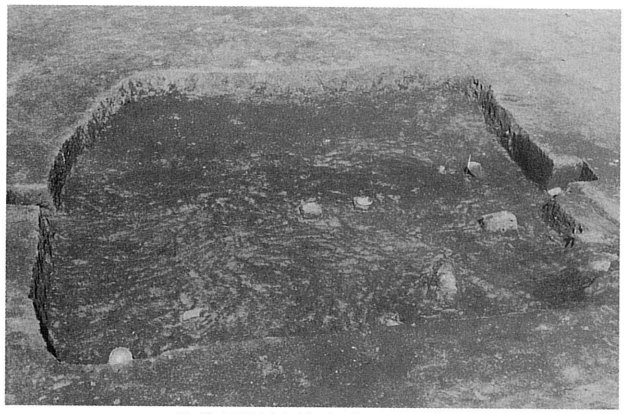


H－38号住居跡全景（北から）

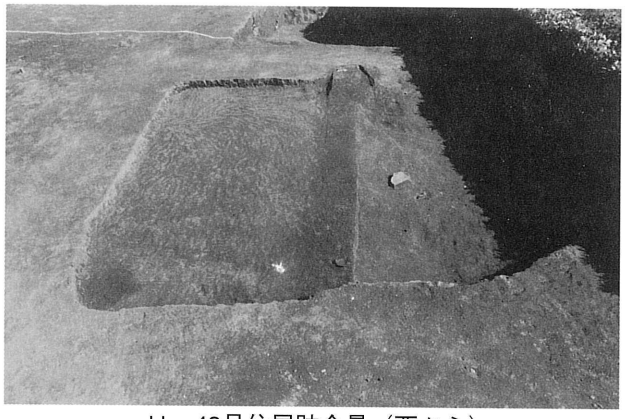
H－40号住居跡全景（北から）



H－41号住居跡遺物出土状況（南から）

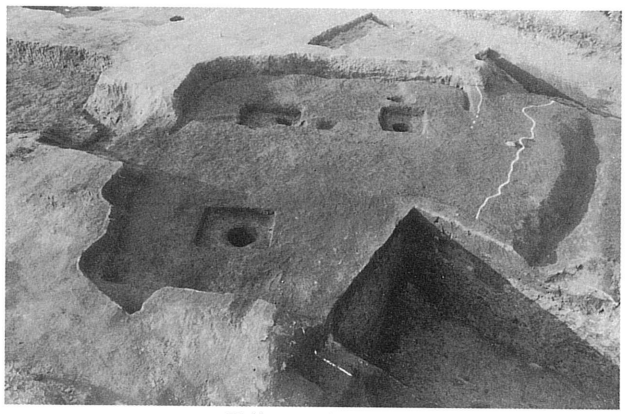


H－42号住居跡遺物出土状況（西から）

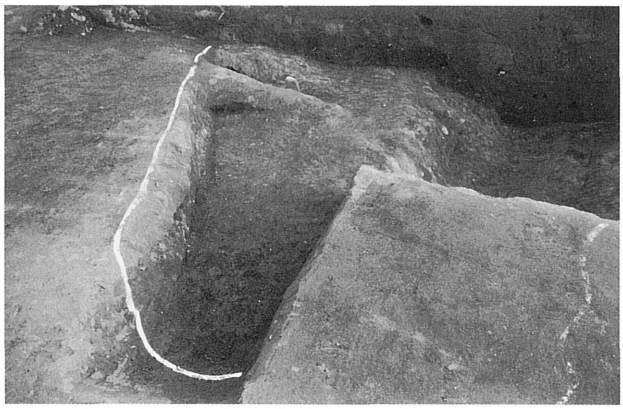


H－43号住居跡全景（西から）

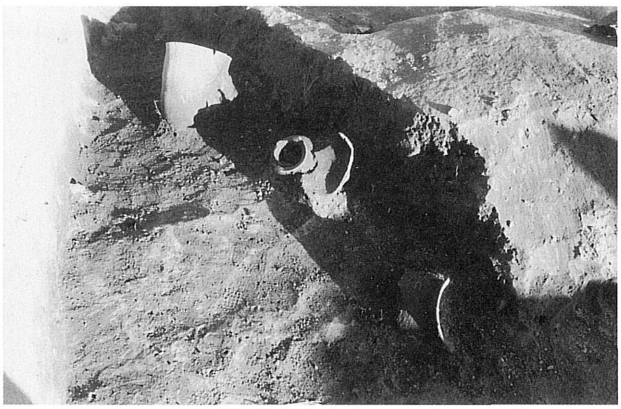
H－46号住居跡全景（西から）



H－48号住居跡全景（南から）



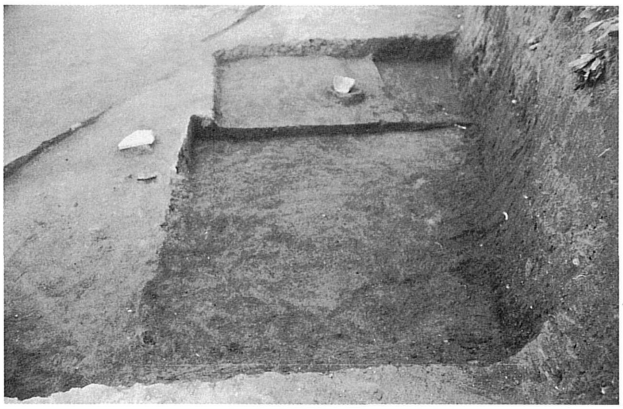
Ｈ－50号住居跡全景（南から）



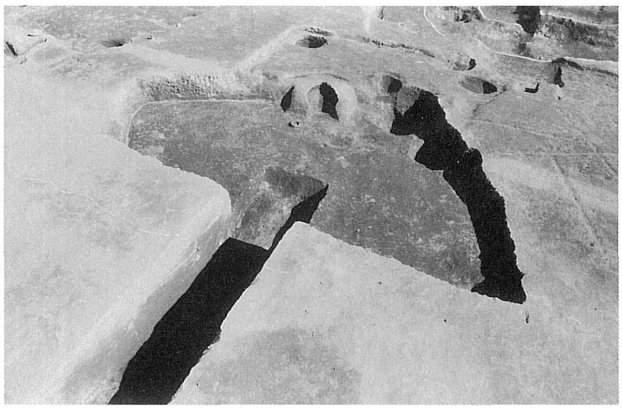
Ｈ－51号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－52号住居跡全景（西から）

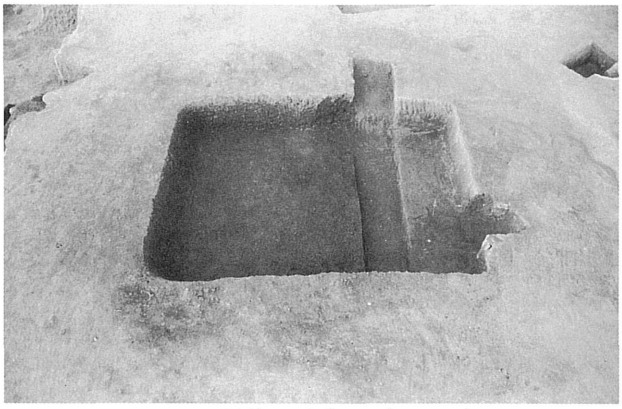
Ｈ－55号住居跡遺物出土状況（西から）



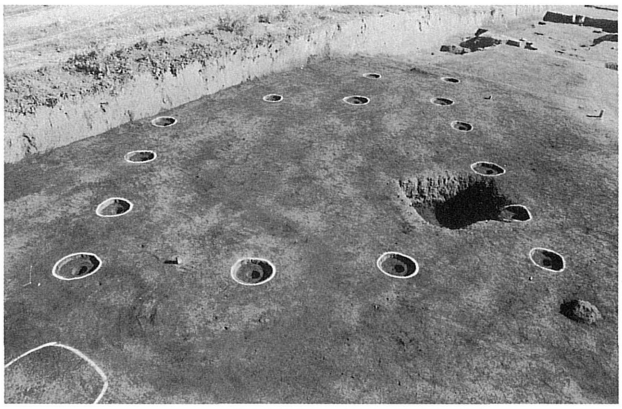
Ｈ－56号住居跡遺物出土状況（北から）



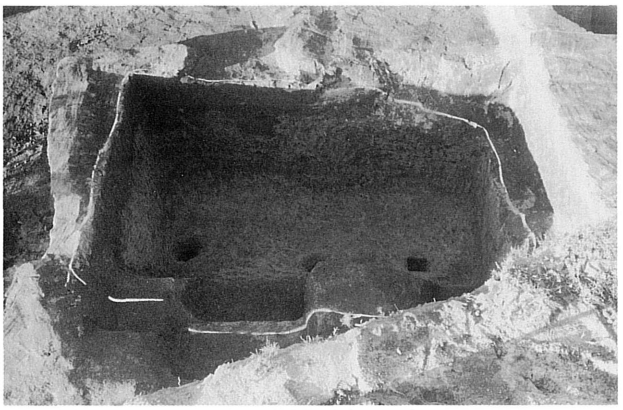
Ｈ－57号住居跡全景（西から）



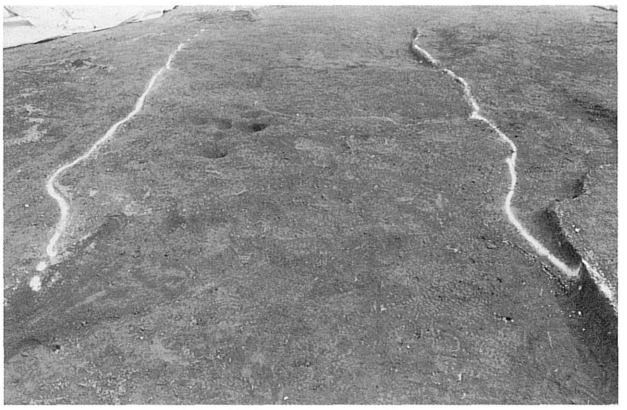
Ｈ－58号住居跡全景（南から）



Ｂ－１号掘立柱建物跡（西から）



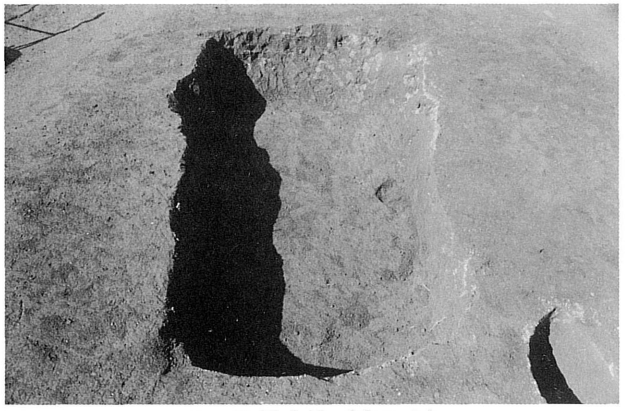
T－1号竪穴状遺構全景（南から）



A－1号道路状遺構全景（西から）

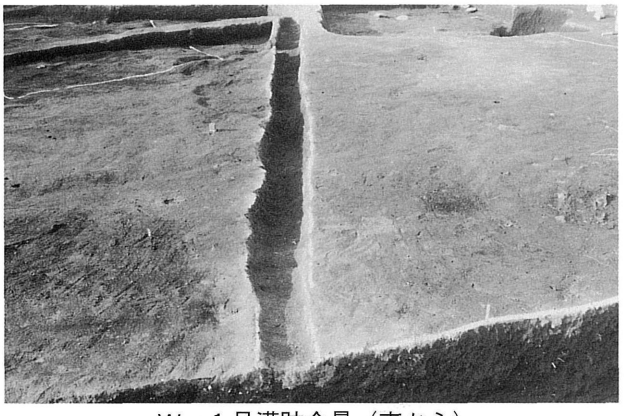
I－2号井戸全景（東から）

D－6号土坑（西から）

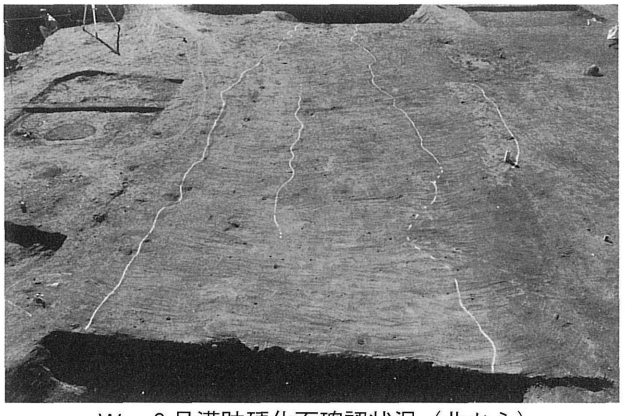


D－9号土坑（南から）

D－24号土坑（東から）

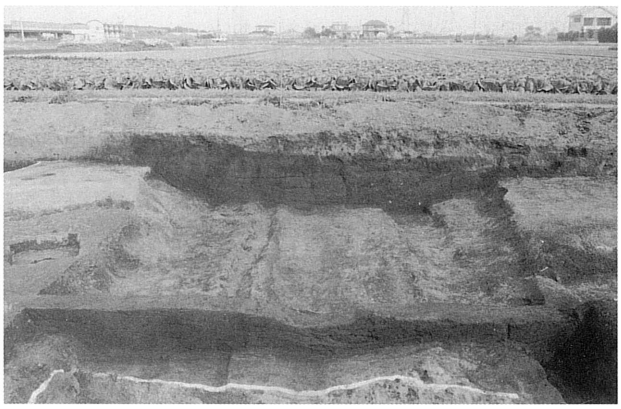


W－1号溝跡全景（南から）

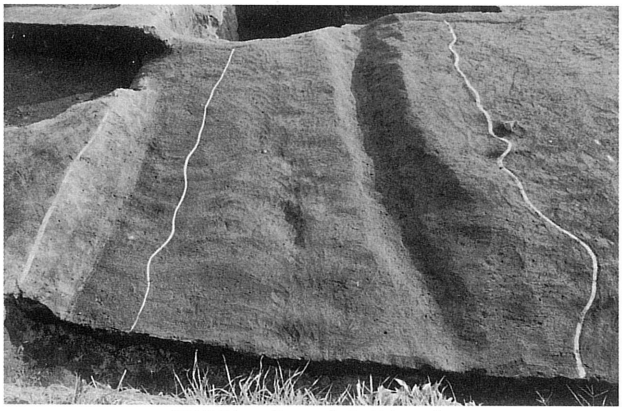


W－2号溝跡硬化面確認状況（北から）

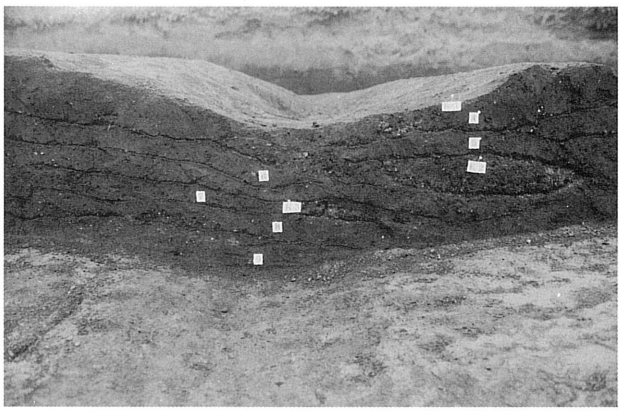
Ｗ－３号溝跡全景（西から）



Ｗ－４号溝跡全景（南から）



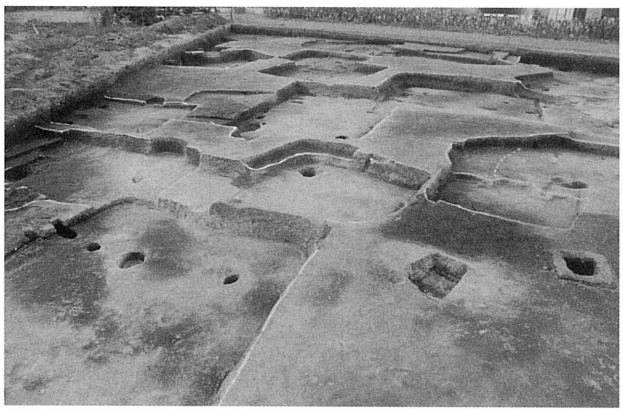
Ｗ－４号溝跡硬化面確認状況（北から）



Ｗ－４号溝跡土層断面（南から）

北区全景（西から）

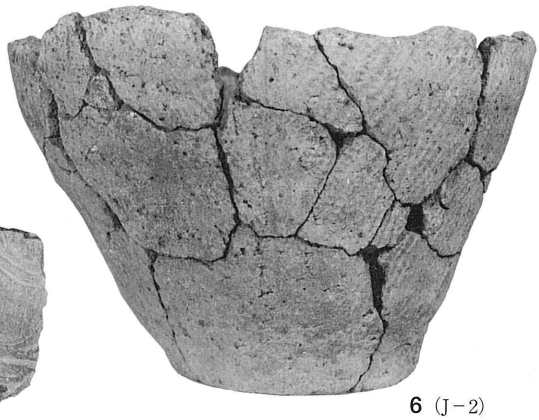
南区西部全景（東から）



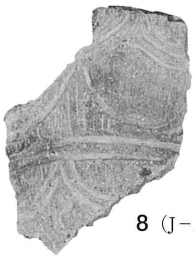
南区西部全景（東から）

完掘全景（東から）

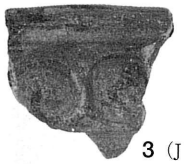
1 (J−1)



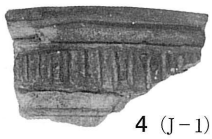
6 (J−2)



8 (J−2)



3 (J−1)

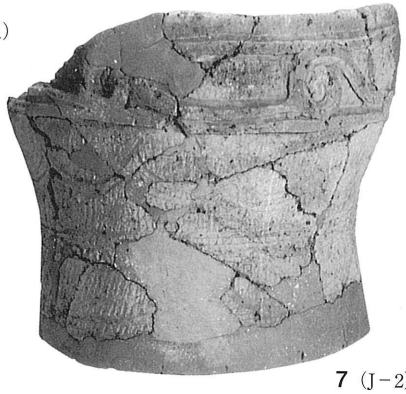


4 (J−1)

2 (J−1)

5 (J−1)

10 (J−2)



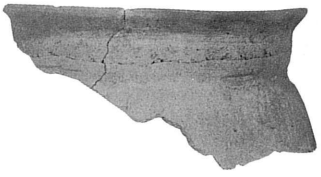
7 (J−2)

9 (J−2)

13 (H−3)

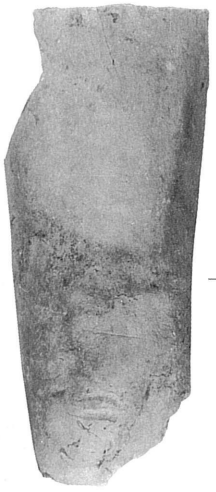
14 (H−3)

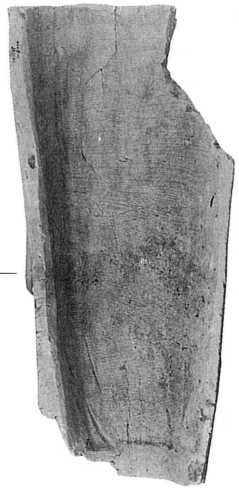
15 (H−3)



16 (H−3)

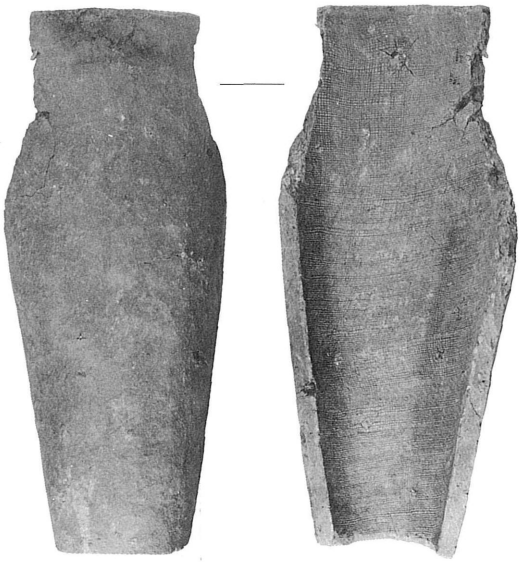
19 (H−3)



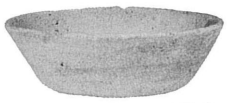


20 (H−3)

出土遺物

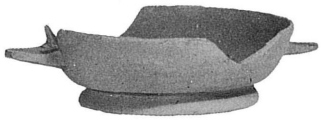


21 (H－3)



23 (H－4)

24 (H－4)



25 (H－4)

26 (H－4)

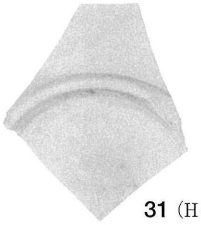
27 (H－4)

28 (H－4)

22 (H－3)

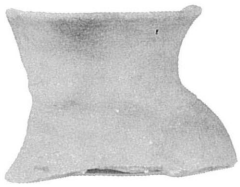
29 (H－4)

30 (H－4)

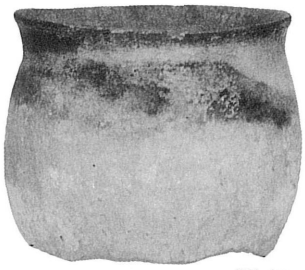


31 (H－6)

32 (H－7)

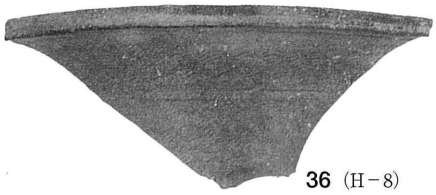


34 (H－7)



35 (H－7)

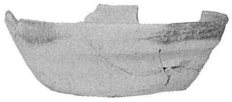
33 (H－7)



36 (H－8)

37 (H－9)

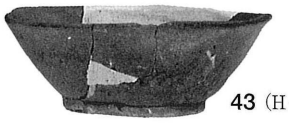
39 (H－9)



41 (H－11)

38 (H－9)

40 (H－9)



43 (H－12)

44 (H－12)

出土遺物

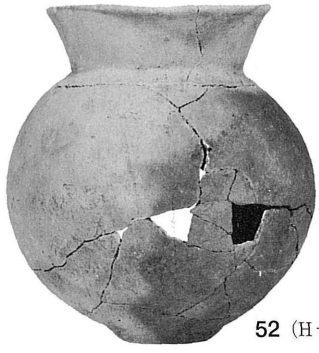
42 (H－11)

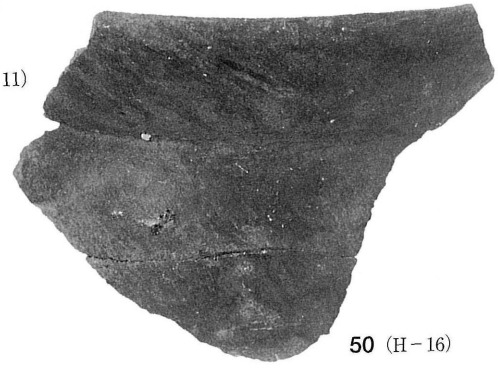
45 (H－15)

46 (H－16)

49 (H－16)

48 (H－16)

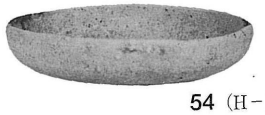

52 (H－16)


50 (H－16)

53 (H－16)

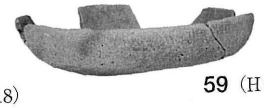
55 (H－18)

56 (H－18)

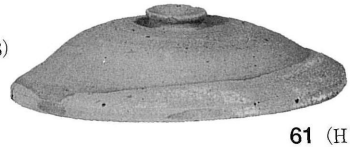

54 (H－18)

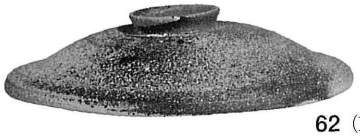
57 (H－18)

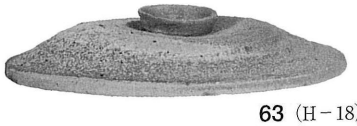
58 (H－18)

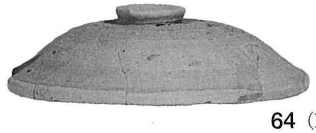

59 (H－18)

60 (H－18)


61 (H－18)

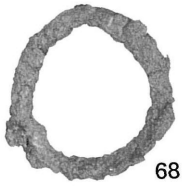

62 (H－18)


63 (H－18)


64 (H－18)

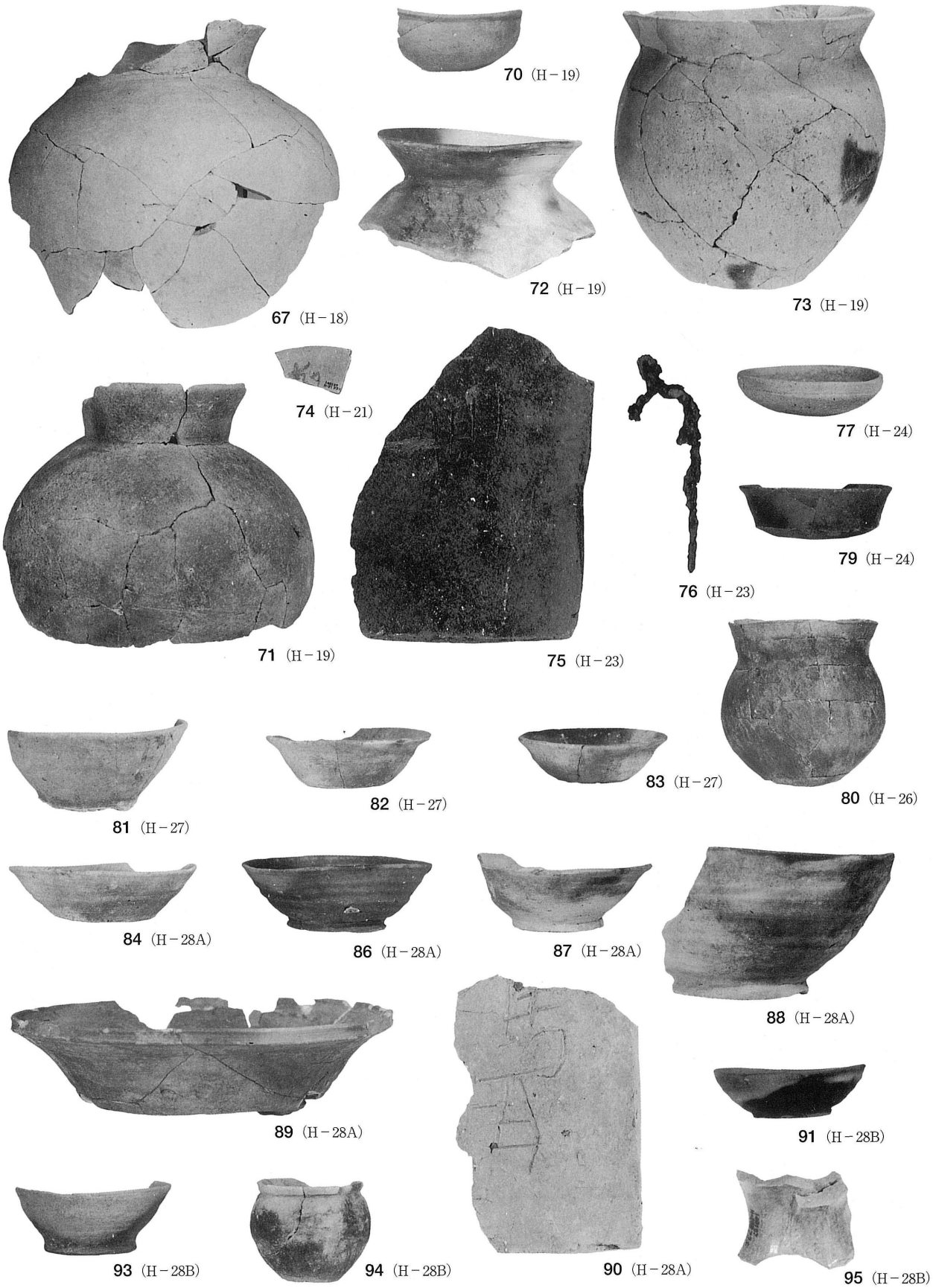
65 (H－18)

66 (H－18)

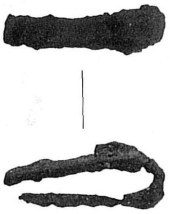

68 (H－18)

69 (H－19)

出土遺物


70 (H－19)
67 (H－18)
72 (H－19)
73 (H－19)
74 (H－21)
77 (H－24)
79 (H－24)
76 (H－23)
71 (H－19)
75 (H－23)
80 (H－26)
81 (H－27)
82 (H－27)
83 (H－27)
84 (H－28A)
86 (H－28A)
87 (H－28A)
88 (H－28A)
89 (H－28A)
91 (H－28B)
93 (H－28B)
94 (H－28B)
90 (H－28A)
95 (H－28B)

出土遺物

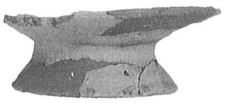

96 (H－28B)

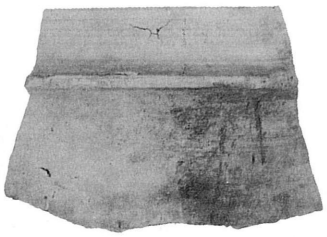
97 (H－28B)

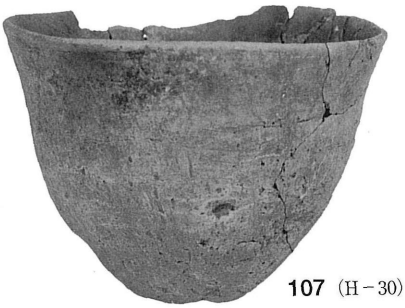
98 (H－28B)

99 (H－28B)

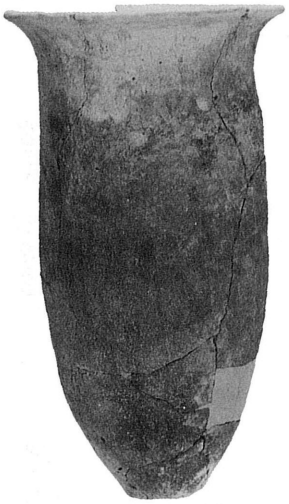
100 (H－29)


101 (H－29)

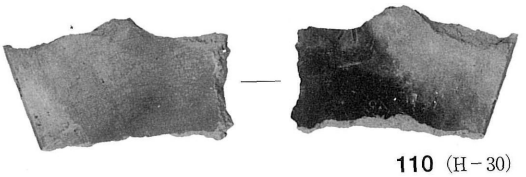

104 (H－29)


107 (H－30)

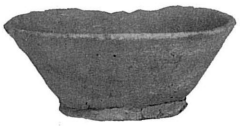
106 (H－29)

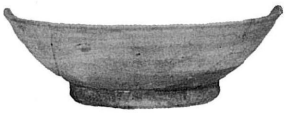

108 (H－30)

109 (H－30)

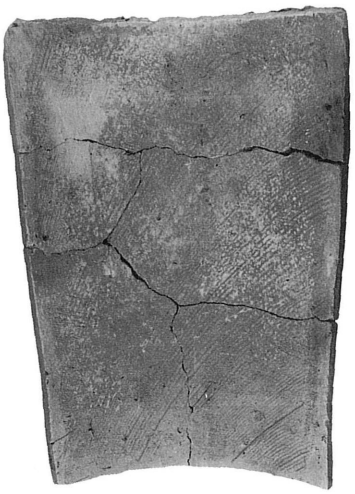

110 (H－30)

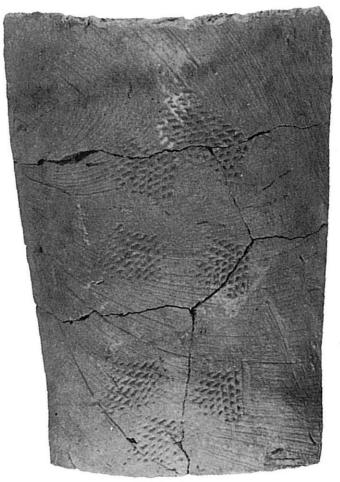
111 (H－31)


112 (H－31)

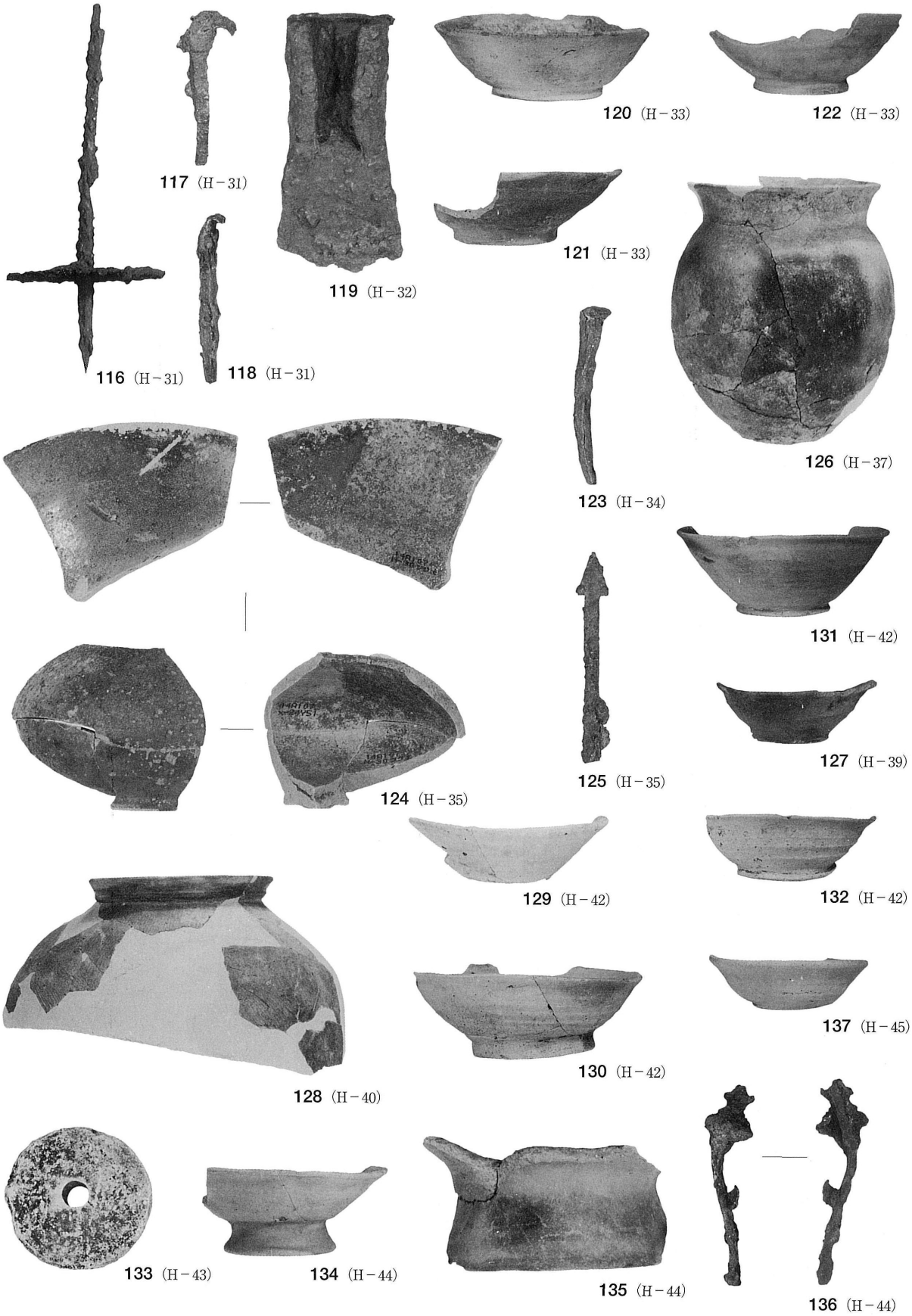

113 (H－31)

114 (H－31)

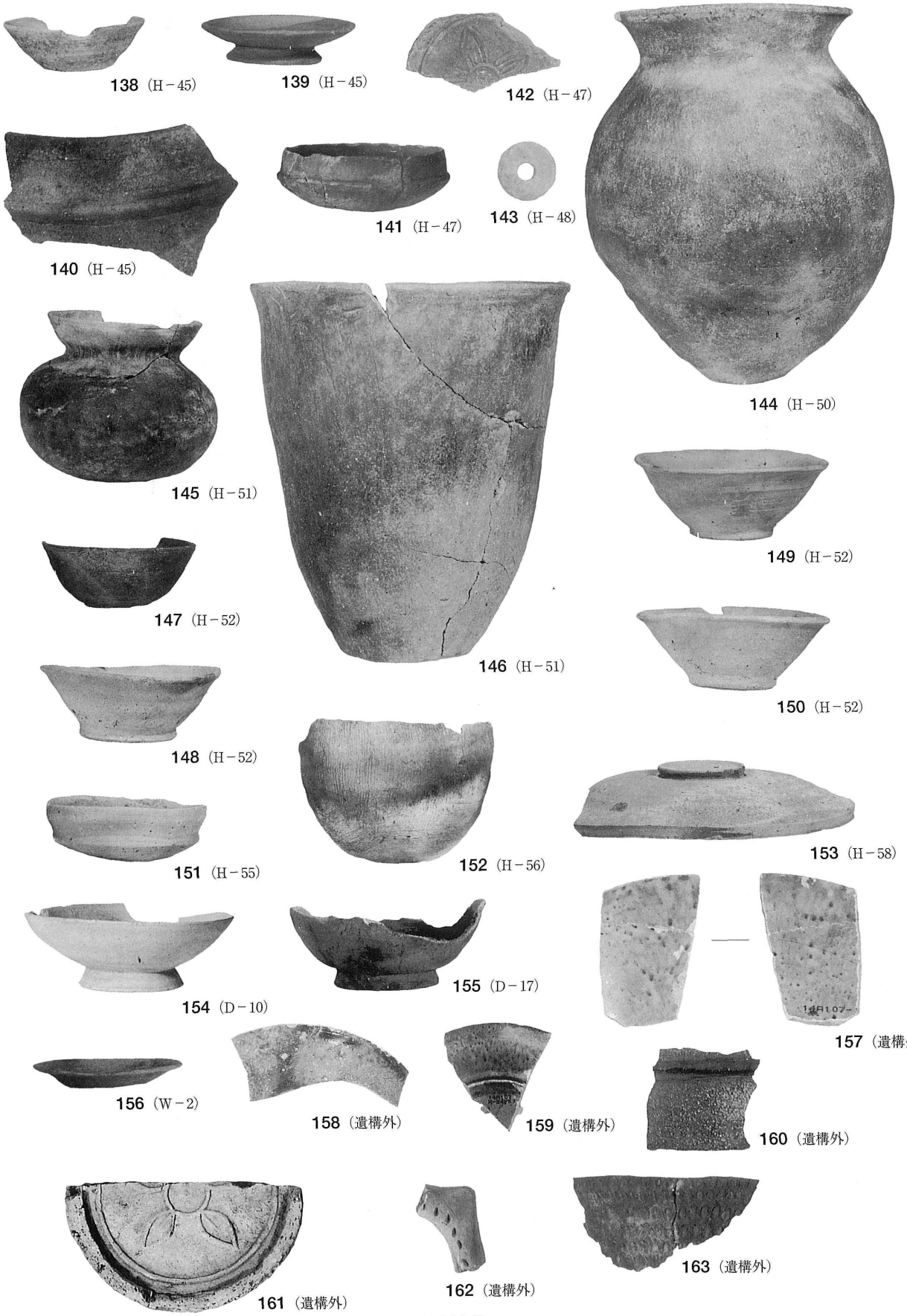



115 (H－31)

出土遺物


116 (H－31)
117 (H－31)
118 (H－31)
119 (H－32)
120 (H－33)
121 (H－33)
122 (H－33)
123 (H－34)
124 (H－35)
125 (H－35)
126 (H－37)
127 (H－39)
128 (H－40)
129 (H－42)
130 (H－42)
131 (H－42)
132 (H－42)
133 (H－43)
134 (H－44)
135 (H－44)
136 (H－44)
137 (H－45)

出土遺物


138 (H－45)
139 (H－45)
142 (H－47)
140 (H－45)
141 (H－47)
143 (H－48)
144 (H－50)
145 (H－51)
146 (H－51)
149 (H－52)
147 (H－52)
150 (H－52)
148 (H－52)
151 (H－55)
152 (H－56)
153 (H－58)
154 (D－10)
155 (D－17)
157 (遺構外)
156 (W－2)
158 (遺構外)
159 (遺構外)
160 (遺構外)
161 (遺構外)
162 (遺構外)
163 (遺構外)

出土遺物

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオミニイセキ
書名	元総社小見Ⅱ遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊木一敏、土生朗治、松川由之
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団、山武考古学研究所
所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2、〒286－0045　千葉県成田市並木町221番地
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦　2003年　3月　7日

所収遺跡（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯（世界側地系）	東経（世界側地系）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
元総社小見Ⅱ（モトソウジャオミニ）	群馬県前橋市元総社町地内（グンマケンマエバシシ モトソウジャマチチナイ）	10201	14A107	36°23′32″	139°01′35″	20020820～20030307	1,917㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社小見Ⅱ	集落跡	縄文時代	住居跡、土坑	加曾利Ｅ式土器、石器類	
	集落跡	古墳時代	住居跡	土師器、須恵器	
	集落跡	奈良・平安	住居跡、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、輸入陶磁器、金属製品、陶器類、石製品	
	溝跡、道路	中世	溝跡、道路状遺構		
	墓域	中世	井戸、土坑		

出土遺物及び図面等の取り扱いについて

項　目		内　容
水洗い		・すべて行った。
注　記		・インクジェットプリンターを使用した。 ・遺跡略号（14A107） ・遺構（H：住居跡、B：掘立柱建物跡、T：竪穴状遺構、A：道路状遺構、W：溝跡、I：井戸跡、D：土坑
復　元		・接合は可能な限り行った。必要に応じてエポキシ樹脂を充填し、強度的に必要最小限の復元を行った。
実　測		・遺物実測は報告書掲載分についてのみ作成した。
台　帳		・遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、それぞれ資料の検索が可能であるよう作成した。
保管方法	出土遺物	・出土遺物は、報告書使用分と未使用に分け、コンテナあるいは段ダンボール箱に収納した。各箱には収納内容を明記した。 ・遺物については、注記番号・台帳番号・報告書掲載番号の3種類が存在するが、基本的に報告書掲載番号を優先して記載・収納してある。
	図　面	・遺構実測図と遺物実測図に分け、それぞれ図面ケースに収納した。
	写　真	・遺構写真は、モノクロ35㎜、カラーリバーサル35㎜の2種類がある。 ・遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7判フィルムを使用して行った。なお、写真中の番号は、遺物の台帳番号である。

元総社蒼海遺跡群
元総社小見Ⅱ遺跡
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

印　刷　平成15年3月1日
発　行　平成15年3月7日

編　集　山武考古学研究所
発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
印　刷　㈱文化総合企画
TEL 0476－93－0593